

### 三、注意

- (一)「用意」にて綱を握り、「始め」にて運動を開始し、「止め」にて運動を停止し、「直れ」にて起立せしむべし。此處にも亦體操指揮法を應用すべし。
- (二)綱引の構へ方に三あり。一は立ちたる姿勢、一は中腰の姿勢、一は腰を落ちつけたる姿勢これなり。第一は合同實施、第二は女兒に、第三は男兒の全力發揮に都合よき場合あり。
- (三)この遊技は、訓練上特に共同心養成の點に於て、他遊技に比し、大に優れる點あり。蓋し力技としても、學校遊技としても、最も理想に近きものなりと信ず。
- (四)この遊技の掛聲として、男兒には日本古來のもの(ウワイシヨク)(ヨイサク)、女兒には一二くとしたきものなり。動もすれば、オイエス等の外國言句を用ふるものありと雖も、甚だ感心せず。
- (五)勝敗距離は、その時の状況によりて一定すべからずと雖も、一般に行はれたる從來の勝敗決定は速きに過ぐ。時としては、徹底的に引いて引き抜かしむるが如きこと、精神陶冶上必要の場合なしとせず。
- (六)「止め」の號令の下るまでは、決して綱を放さざる様戒しむべし。
- (七)綱引の變形に跳付綱引あり。

1. 準備略前同様なり。兩組とも綱より適當の距離に離れ、合圖により走りゆきて跳びつき引き合ふものなり。
2. 綱より離れて位置せしむる配置法は、種々工夫することを得べし。
3. こは男女共に適用することを得べしと雖も、特に男兒に適す。

## 第三節 角力

### 一、準備

砂場を中心として紅白兩組對向蹲踞せしむ。

### 二、要領

- (一)二人の氣合を見計らひて取組ましむ。
- (二)勝者は次第に入り替り立ち替りて來たる敵に當らしむ。
- (三)三人がけ、五人がけをもつて優退せしむるを可とす。
- (四)熟するに従ひ、身長順よりも角力の強弱順に班別をなすべし。

### 三、注意

- (一)危険なる場合を十分注意すべし。

- (二) 經驗によるに、氣力充實せざる兒童に限り負傷などするがごとし。十分に意氣込ませしむる様なすべし。
- (三) 周圍の事情許さば、帯を褌の代用とし、裸體にて實施せしむべし。
- (四) 時に坐相撲を實施せしむるも可なり。
- (五) 男兒特有の理想的力技なりとす。

#### 第四節 帽子取り

##### 一、準備

- (一) 兒童を紅白兩組に分け、各組色の帽子を冠らしむ。
- (二) 一定の距離を隔て、對陣せしむ。

##### 二、要領

- (一) 開始の合圖と共に、吶喊の聲をあげて互に突撃し、入り亂れて敵の帽子を奪はしむ。
- (二) 一定の時間(三、四分)を経て、終止の合圖をなし、それより己れの陣に歸りて整列せしむ。
- (三) 時としては、時間を制限することなく、敵を全滅せしむる迄戦はしむるも一方法たり。
- (四) 敗北者は、一定の場所に整列せしめて戦闘を避けしむべし。

- (五) 奪ひし帽子の數を調べ、多きを勝とす。

##### 三、注意

- (一) 帽子を奪はるゝを防ぐ爲に、自己の手を以て帽子を抑ふるが如き卑怯の舉動あらしむべからず。
- (二) 紅白交互に、一列圓陣を疾走路として帽子取りを實施せしむるも亦可なり。而して、帽子をとられしものは列外に並ばしむ。この際中途に立留り、逆行し、又疾走路より逸走するを禁ず。
- (三) 圓陣帽子とりにありては、疾走中漸次に圓は小形となるを以て、最初地物を利用してその周圍に運動を開始するを可とす。
- (四) 他の形式として、次の如く行ふも亦可なり。
  - (1) 紅白各組に一人宛の大將を定めしむ。この際大將には判別し易き帽を冠せしむべし。
  - (2) 開始の合圖により、兩組互に入り亂れて敵軍の大將の帽子を奪はんとす。
  - (3) お互に帽子をとりつゝ、早く大將の帽子をとりし方を勝とす。
  - (4) 帽子をとられしものは、攻撃する資格を失ふ。
  - (5) 勝敗長引く時は、合圖によりて兩陣に引上げしめ、奪ひたる帽子の多寡によりて勝敗を決す。
- (五) 各組より三人乃至五人宛出て、一人對一人にて戦ひ、滅ぼされし時は、直に代りの者出て戦はしむるも一法なり。

(六)男兒特有の理想的遊技なり。

### 第五節 球入れ

#### 一、準備

- (一)竹竿の上端に小さき籠をつけたるものを二本地上に樹て、又は二三の兒童に持たしむ。
- (二)その竿の元に組色の若干の球を散らしおく。
- (三)更にその周圍に兩班の兒童を配置す。

#### 二、要領

- (一)「用意」の號令にて球を拾ひて籠を目掛けて身構せしむ。
- (二)「始め」の合圖にて兩組をして味方の籠に逸早く先きに〳〵と投げ込ましむ。
- (三)散布しある小球全部を籠中に投げ込み終れる方を勝とす。
- (四)時に時間を制限し、籠に入りし球の數の多寡によりて勝敗を決するもよし。

#### 三、注意

- (一)竿の高さは兒童の程度によりて適宜斟酌せざるべからず。
- (二)兒童數の多寡によりて球の數も増減するを可とす。然らざれば運動量過不及あるべし。

(三)下學年男女特に女兒に適したる遊技なり。

## 第五章 級 技

### 第一項 尋一級技

#### 第一節 鬼遊の類

その一 盲目鬼

#### 一、準備

- (一)一人を盲目鬼となし、手拭又はハンカチーフにてその目を覆ふ。
- (二)他生の逃げ廻るべき場所の範圍を定めて散亂せしむ。

#### 二、要領

- (一)鬼に手を觸れられたる者代りて鬼となる。
- (二)一寸手を觸れられたるのみにて鬼となすを可とす。これ普通鬼遊の如く捕へ止めんことは困難なればなり。

#### 三、注意

(一) 逃げ廻る範圍は兒童數によりて斟酌するを要す。即ち、廣過ぐる時は容易につかまへ得ず、又狭過ぐる時は混雜して餘りに早く捕へ得らるべし。

(二) 遊戯に活氣を呈し來たるときは、鬼をつき又は引きなどする者を生ずることあり。これに對して適當なる干渉を要すべし。

(三) 目を覆ふ手拭(又はハンカチーフ)は、兒童各自のものを以てするを衛生上安全なりとす。

### その二 からかひ鬼

#### 一、準備

(一) 鬼は一人とす。

(二) 鬼は一定の範圍内(直徑二三間位の圓を畫きて)に位置せしむ。

(三) 他生はその圓の周圍に任意の位置をとらしむべし。

#### 二、要領

(一) 開始の合圖と共に、周圍の兒童は時々鬼のすきを窺ひて圓内に入りて鬼をからかはしむ。

(二) 鬼は八方に氣を配りて圓内に入り來たる者を捕へ、

(三) 又は圓外の者を捕へんと努む。

#### 三、注意

(一) 鬼と他生との居所の範圍の定め方にて面白き方法生ずべし。

(二) からかふ時は野卑の言語など出て易き故注意すべし。

(三) 男女兒に適用することを得べし。

### その三 猫と鼠

#### 一、準備

(一) 全兒童をして手を繋ぎて圓陣を作らしむ。

(二) 十名位を圓内に入れて鼠となす。

(三) 内外に一名乃至三四名を置きて猫となす。

#### 二、要領

(一) 開始の令と共に、猫は直ちに手繋ぎの下を潜りて圓内に這入り鼠を捕へんとす。

(二) 鼠は圓外に出て、又は圓内に逃げ込むべし。

(三) 列生は猫の出入には妨害をなし、鼠の出入には便利を與ふべし。

(四) 列生は順番に交代して猫又は鼠となるべし。

#### 三、注意

(一) 猫をして列生に衝突し、無理に手繋ぎを破る如きことあらしむべからず。

(二)男女兒共に適用し得べし。

その四 子殖し鬼

一、準備

全兒童中より一人の鬼を選び、他は自由に散在せしむ。

二、要領

- (一)鬼は誰彼となく追ひて背を打つ。
- (二)背をうたれし者は直ちに鬼となる。
- (三)漸次鬼を増して遂には全世界舉りて鬼となる仕組なり。

三、注意

- (一)陸とて(休憩所)柱の如きを一二箇所設くるを便利なりとす。
- (二)鬼は他生と異なる色の帽を用ふるを明瞭とす。
- (三)この遊技は、方法極めて簡易にして、然かも興味無量に、且體力に應じたる活動をなし得る理想遊技なり。
- (四)男女兒共に適用し得べし。(下學年より高學年に亘りて一様に)

その五 場所取鬼

一、準備

- (一)全兒童を圓形に配列し、各自に自分の入るべき小圓を畫かしむ。
- (二)一人の鬼を圓外におく。

二、要領

- (一)鬼は圓外を走りつゝ任意の者の背を軽く打ちて右又は左方に走る。
- (二)背を打たれたる者は鬼と反對の方向に圓を廻り、
- (三)兩者共に空席になりたる場所に入らんとす。
- (四)場所を占領し得ざる者が鬼となり、かくして順次に反復す。

三、注意

- (一)あまり永く同一兒童を鬼となすは不可なり。適當の時期に交換せしむるを可とす。蓋し、心弱き者は憤けなく感じ、且又過勞に陥るべきを以てなり。
- (二)男女兒共に適用し得べし。

その六 西洋鬼

一、準備

(一)全兒童中より二人を除きて他を二列圓陣に並べ、前列生をば兩手間隔に配置す。

(二)後列生には、前列生と臂の長さの距離をとりて重ならしむ。

(三)列生外の二人中一人を鬼とし、一人を子とす。

(四)子と鬼とは任意の處に位置せしむ。

## 二、要領

(一)開始の合圖と共に、子は圓の圍りを隨意の方向に逃げ、鬼はその後を追ひてこれを捕へんとつとむ。

(二)若し捕へられたる時は、子は鬼、鬼は子となり、反對の任務をなす。

(三)子が鬼に捕へられんとせし時は、或る伍の前に這入りて虎口を通る。

(四)子が二回以上圓周を逃げ廻りし時は、伍の前に這入りて任務を終ふ。

(五)子が這入りし伍の後列生は、代りて子となり逃げしむ。

## 三、注意

(一)二列を一行となし、同方法にて行ふことを得べし。

(二)兒童は頻りに交代をせまるものなり。注意せざる時は、同一兒童のみ活動する如き弊を生ず。

(三)圓陣内を逃げ廻ることを禁ず。

(四)鬼と子とが一人宛にて活動の少き感ある時は、各若干名を増員すべし。この場合鬼と子との組

を混同すべからず。

(五)鬼も己が力の竭きたりとする時は、伍の前に入りてその伍の後列生に鬼を譲る。

(六)男女兒共に適用し得べし。

## 第二節 球(又は旗)送り

### 一、準備

(一)全兒童を二三組に分ちて各一行縦隊を作らしむ。

(二)組と組との間隔は三間位とし、列兒相互の距離は臂の長さとする。

(三)各組の先頭の前に組色の球を十個配置す。

### 二、要領

(一)一番より順次に球を一箇宛兩手に持ち、體を後屈して頭上より後方に送らしむ。

(二)全部の球を後方に送り終らば、轉廻して後向とならしむ。

(三)最後尾生は最後の球を受取るや否や轉廻して前方法を以て後方へ球を送り返す。

(四)悉く球を送り返したる者は、轉廻して最初の正面に復す。かくして最も早く終了したる組を勝とす。

三、注意

- (一) 送るべき物品は、球・亞鈴・球竿等いづれにても可なり。
- (二) 男女兒共に適用し得べし。
- (三) 二回目に球を送り返す時には、足を踏み開きて體を前屈し、跨の間をくゞらして送るも可なり。
- (四) 最後に送るべき球には、特異の標をなせば殊に可なり。
- (五) 終了後の整頓に注意せしむること必要なり。これをも勝敗の一要件とすること、この遊技のみに限らず必要なりとす。然らざれば、兒童は勝負のみに氣をとられ、前後の規律を亂すべし。

第三節 整列競争

一、準備

- (一) 全兒童を若干の組に分け、各縦隊を作らしむ。
- (二) 各組の整列すべき地點を明示しおくべし。(旗などたて)
- (三) 又は各組の先頭を所定の位置に就かしめおくべし。

二、要領

- (一) 合圖と共に駢歩を以て示されたる地點又は基準の者に向ひ、縦隊に整頓せしむ。

三、注意

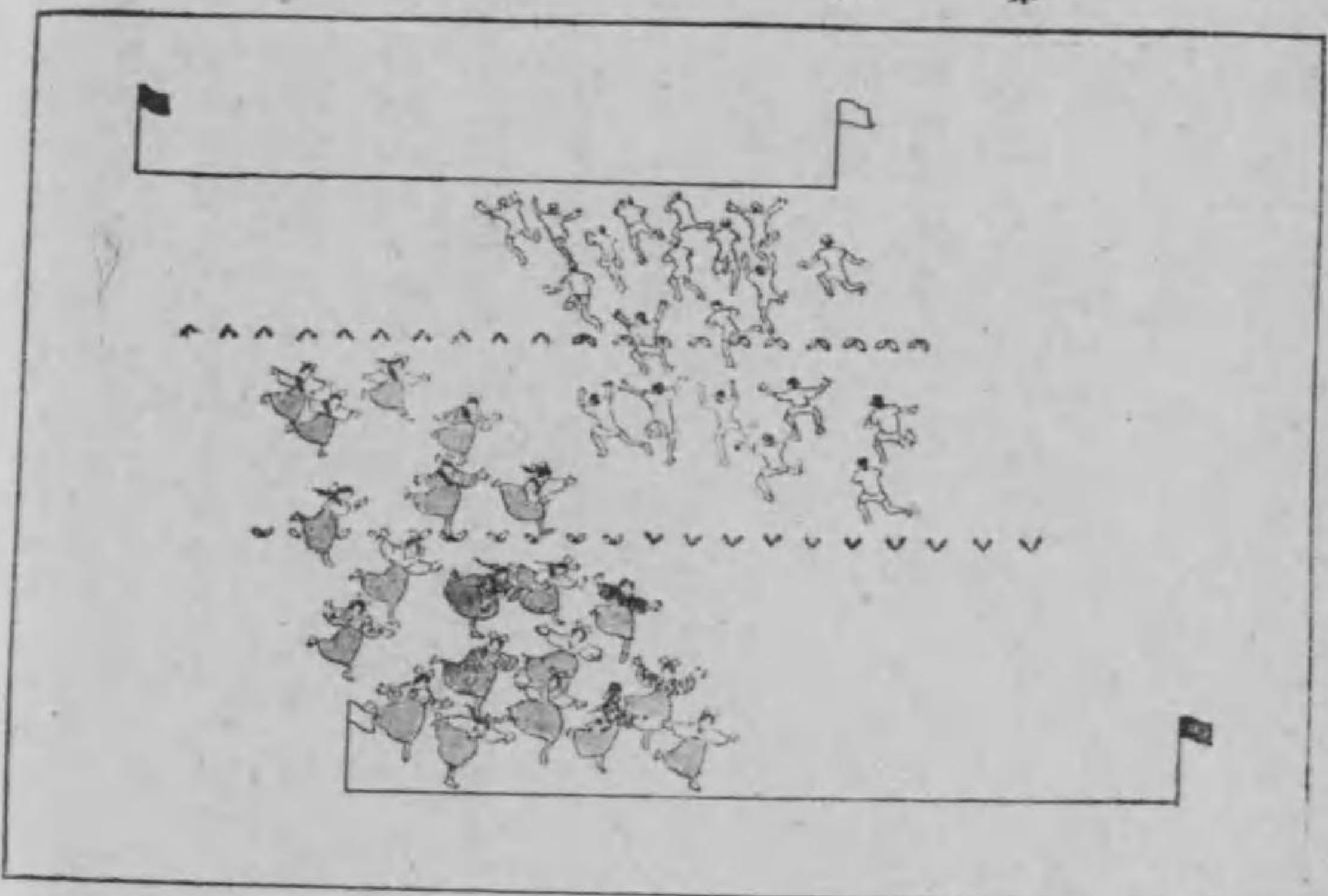
- (一) 駢歩距離は二十五間以内とす。
- (二) 下學年規律訓練の養成上最も都合よき重要遊技なり。
- (三) 整列の順は豫め定めおくを可とす。駢付け順となす時は反つて混雜すべし。
- (四) 時に變化を附して二列縦隊又は鎖整列となさしむるも可なり。
- (五) 整列の遅速のみにて勝敗を決せず、
  - 1) 兒童の意氣態度、
  - 2) 整頓の正否、等を加味して審判すべし。
- (六) 男女兒共に適用し得べし。

第二項 尋二級技

第一節 人取り

一、準備

第六十八圖



(一) 兒童を紅白兩組に分ち、更に二分して半數の兒童の位置交換を行ひて敵味方相對せしむ。

(二) 各組の間は二・三間とし、境界線はその整列線より十間後方とす。

二、要領(第六十八圖參照)

(一) 教師右手をあぐれば右側の者、左手をあぐれば左側の者逃ぐ。

(二) 追ふ者は敵の境界線に至る迄の間に捕ふべし。

(三) 捕虜となりしものは敵の兩側へ整列す。

(四) この方法は、従來の晝夜遊び・日月遊の實施中回数につきて困難なるところを改正せるものなり。

(五) この遊技は、一回毎に勝敗を決し得べきも、

數回連續の後勝敗を計上して決するも可なり。

三、注意

(一) 後方に利用すべき地物あらば境界線は不用なり。

(二) 第一回到右側を逃げしめしときは、第二回は左側を逃げしむる様交互に實施するも可なり。

(三) 最初より逃げ支度するとき態度を戒むべし。

(四) 逃げ追ひして境界線に至らば、直に元の整列線に引き返す様訓練すべし。

(五) 男女兒に適用し得べし。

第二節 旗取り

一、準備

全兒童を等分して對向せしめ、紅白一人づゝ有志の者に旗を持たしむ。(腰に差さしむ。)

二、要領

合圖と共に旗を持てる者を目掛けて走り、旗を奪はしむ。

三、注意

(一) この遊戯は種々の方法あれども、下學年に於ては成るべく危険なき様仕組むべし。



(二)男女兒共に適用し得べし。

### 第三節 繩 跳

その一

#### 一、準備

- (一)全兒童を數組に別け、一列縦隊に整列せしむ。
- (二)先頭より十間ほど離れて等距離に組数だけ旗を樹ておく。
- (三)各組の先頭に六尺ほどの繩を渡しおく。

#### 二、要領

- (一)開始の合圖により、繩端を握り、頭上より足下に回轉せしめ、その都度片足づゝ飛び越えつゝ、速に前方の旗を廻りて舊位置に復し、繩を二番生に渡す。
- (二)繩を受取りたる二番生は、同要領にて廻り來りて次生に渡す。
- (三)斯くして最も早く終りたる組を勝ちとす。
- (四)済みたる者は列後につくものとす。

#### 三、注意

(一)この遊戲は、本邦古來の古き歴史を有する遊戲にして、家庭遊戲としても、亦學校遊戲としても、然も男女兒に共用し得べく、その體育上の効果も頗る良好なるものなれば、校の内外を問はず獎勵すべき遊戲なり。

その二

#### 一、準備

- (一)全兒童を數組にわけ、一列横隊に並べ、これより數間を離れ、味方の者をして四五間の繩を廻轉せしむ。
- (二)更に前方數間の所に整列線を作る。

#### 二、要領

- (一)開始によりて一人若くは二人づゝ示されたる方法によりて繩を跳び越え、整列線につく。
- (二)前の者繩を越え行かば、次の者これに倣うて跳び越ゆ。
- (三)斯くして早く整列線へつき終りたる組を勝ちとす。
- (四)繩の通過法には種々あり。例へば、繩の廻し方により、
  - (1)繩を迎へて一跳躍をなすもの。
  - (2)繩に追はれて潜りぬけるもの。

三、注意

- (一) 繩は二箇所にて廻はさしめても可なり。
- (二) 失敗せしものは、確實に飛ぶまでやり直しをなさしむ。
- (三) 前者の通過せざるに後者出發すべからず。
- (四) 繩を廻轉する者は、濟みたる者と順次交代せしむ。但し交代のために廻轉を中止せしむべからず。
- (五) 男女兒に適用し得べし。

第四節 球落し

一、準備

- (一) 兒童を片手間隔の正面一列圓陣に並ぶ。
- (二) 圓陣内に一人の鬼をおく。
- (三) 一番にフットボール用の球一個を渡す。

二、要領(第六十九圖参照)

- (一) 球を持てる者は自分の頭上若くは前面より隣者に球を投げ若くは手渡しす。

第九十六圖



三、注意

- (一) 鬼はこれを追ひて球を落さんと努む。
- (二) 故に、圓陣生は巧みに左右に球の移動方向を變換して、鬼の手に乗らざる様注意す。
- (三) 鬼に球を打ち落さるか、又は地上に落したる者(投手受手何れの責任かは教師これを判断す)代りて鬼となる。

第五節 友探し

一、準備

- (一) 全兒童中二三人を除きて二列圓陣を作らしむ。

(二)内列と外列とは反對の方向に向ひて行進形をとらしむ。  
 (三)圓内に二三人の鬼となりし者を置く。

二、要領

(一)「前へ」の合圖によりて速歩又は駈歩にて圓形行進をなさしむ。  
 (二)行進の途中、「解れ」の號令又は合圖によりて、先に並べる一伍は、互に鬼に捕へられざるうちに友を見出し寄り合ふ。

(三)鬼は、圓の中心に位置し、合圖と共に誰彼の區別なく一人を捕ふ。

(四)鬼に捕へられしものは鬼となり、鬼は列中に入る。

(五)代理を捕へ得る迄は何回にても役目を果す。

三、注意

(一)幾回も引續き鬼となりし者は適宜交代せしむ。

(二)熟するに従ひ、可成圓列兒を迷はす様合圖をなす。

(三)友二人の合致點は隨所とし、又はその時の約束によりて、合圖と共に内列又は外列がその位置に停止し、他の列が友の方へ走り寄り寄る様實施するも可なり。

第三項 尋三級技

第一節 移動球入れ

一、準備

(一)全兒童を紅白兩組に分ち、一(二)列横隊にて對向せしむ。

(二)兩組より體力勝れる兒童一人宛出すか、若くは教師が籠を背負ひ、各生には自己の組色の球を手にししむ。

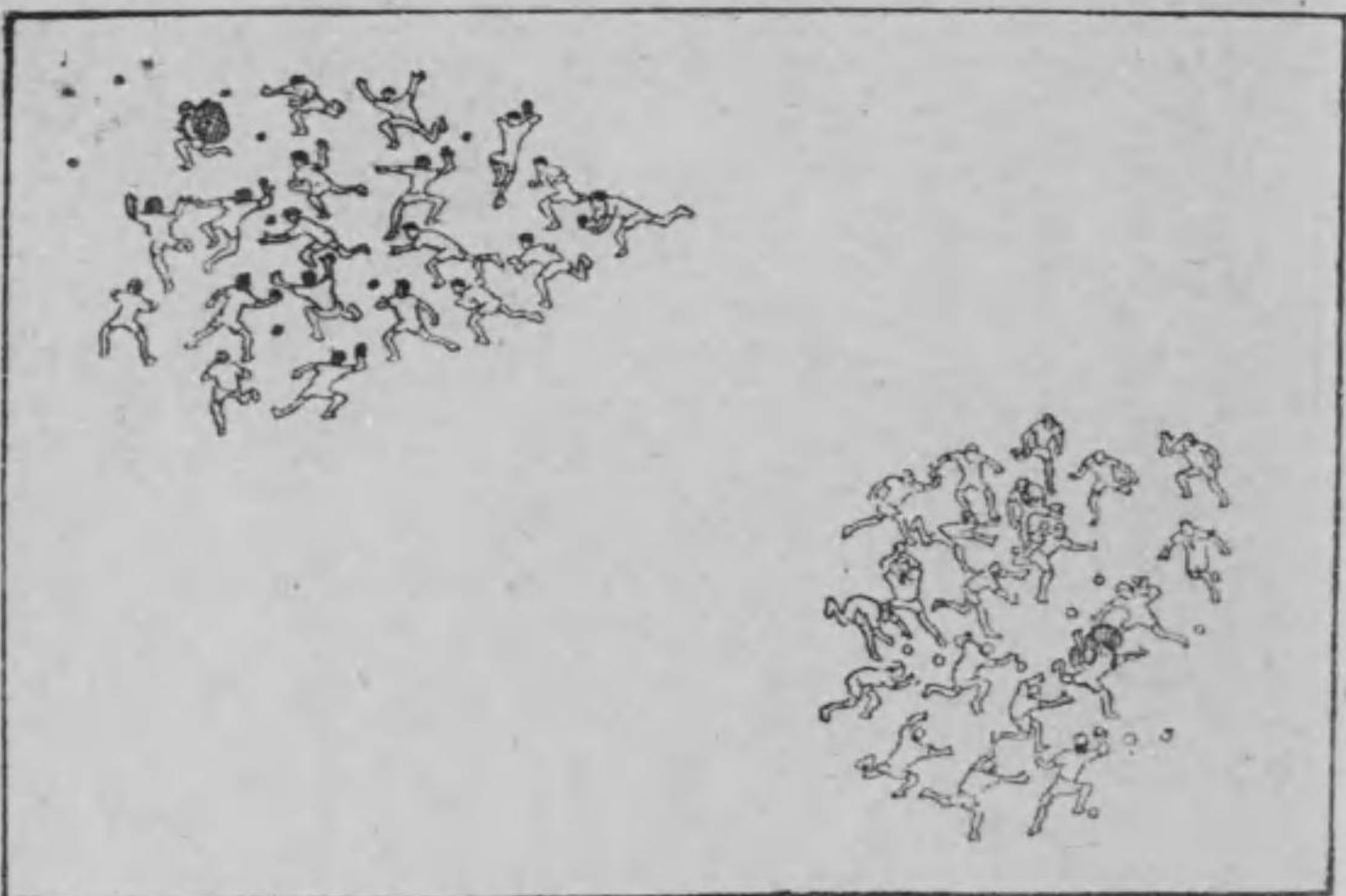
二、要領(第七十圖參照)

(一)合圖と共に各組は、反對組の籠を負ひて逃ぐる者を追ひ廻はし、球をなげ入る。

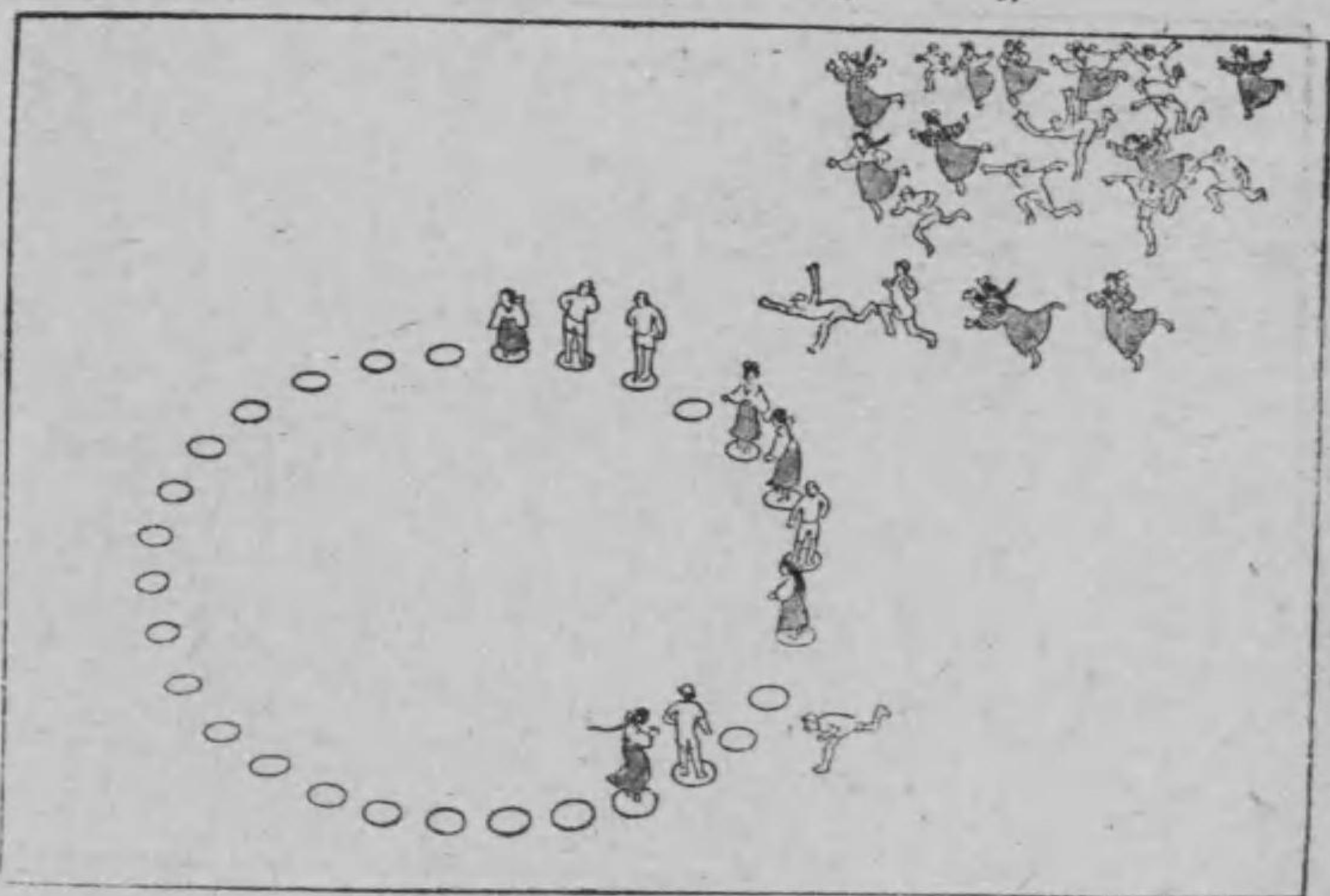
(二)一定時間にて停止の合圖を下し、籠に入りし球を數へ、多寡を調べて勝負を決す。

三、注意

第十七圖



第七十一圖



(一) 球を數ふることは、兒童に合唱せしむるも面白し。

(二) 男女兒に適用し得べし。

### 第二節 場所取り

#### 一、準備

(一) 全兒童を一列圓陣に並べ、一人を除く外皆足の圍りに直徑一尺許りの圓を畫く。

(二) 圓を畫き終りて、拾間ほど離れたる所に兒童を引牽し、一列横隊に整列せしむ。

#### 二、要領(第七十一圖参照)

(一) 合圖によりて、迅速に駆けて、任意の圓中に入らしむ。

(二) 圓數少きにより、一人の兒童は自己の場所なきに至る。

#### 三、注意

(一) 圓數を三四箇減らしおく時は、競争更に激しかるべし。

(二) 時によりて、引牽の中途にて合圖するも可なり。但し、この場合には。整列のまゝ引牽する様心掛くべし。然らずして、順序不同に來たる時は、後方に残りて引戻しの場合に都合よからんと計る者を生ずべし。

(三) 男女兒に適用し得べし。

### 第三節 交換整列

#### 一、準備

(一) 兒童を二分して一列横隊若しくは一列縦隊に並ぶ。

(二) 又は三分四分等組數は隨意にて可なり。而して、その整列法も、空方形又は並行列等に工夫すべし。

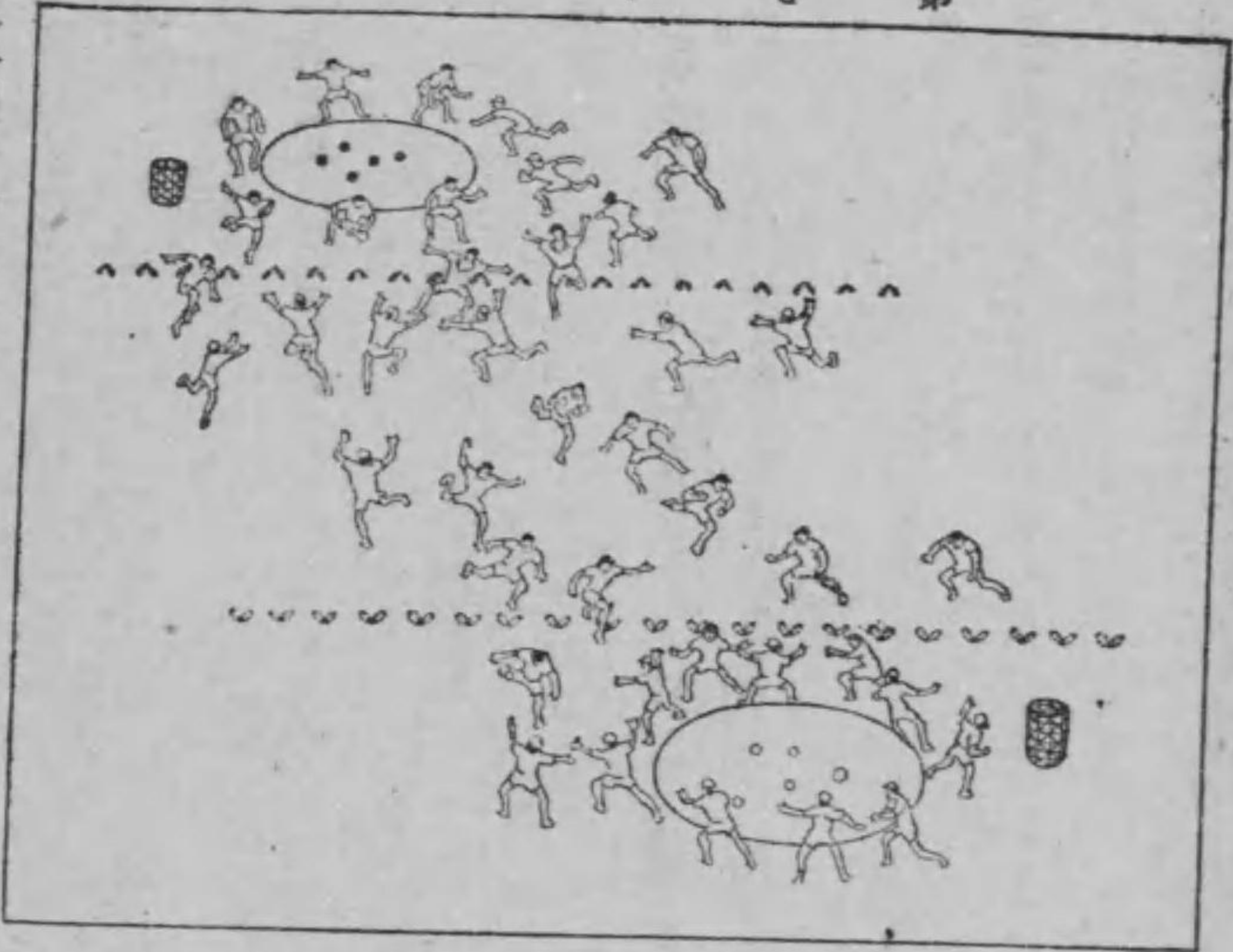
#### 二、要領

(一) 合圖によりて位置を交換し、迅速に整頓せしむ。

(二) 正確に迅速に整列せし組を勝となす。

#### 三、注意

圖 二 十 七 第



(一)合圖と共に、攻撃軍は敵陣内に進撃して球一箇を奪取し、還りて籠の中に入る。

#### 第四節 球奪ひ

##### 一、準備

- (一)他組の動作を妨げざるやう注意すべし。
  - (二)男女兒に適用し得べし。
  - (三)方法簡易にして、共同精神を養ふ上極めて價値多き遊技なりとす。
  - (二)十數間を隔て、直径三間の圓を畫き、その中に小球を數箇撒布す。
  - (三)圓の前方に各組整列線を劃す。
  - (四)兒童を紅白兩組に分ち、更に各組とも攻撃班及び守備班に區分す。
- 二、要領(七十二圖參照)

(二)守備軍は、敵の進入を防ぎ、又球を奪ふを防ぐべし。

(三)守備軍は、敵が球を奪ひし後は及向ふことなし。

##### 三、注意

- (一)攻撃班は、一回に球一箇の奪取に限る。
- (二)守備班は、手足を用ひず、軀幹を以て防禦すべし。
- (三)攻守兩班の人数は、等分するか、又は攻三分の二守三分の一を程度たるべし。
- (四)熟練の後は、攻撃守備の組分け、並に中途に於ける攻守役目の變換等の懸引策戦は、兒童に任すべし。其處に遊技の生命あればなり。
- (五)男女兒に適用し得べし。

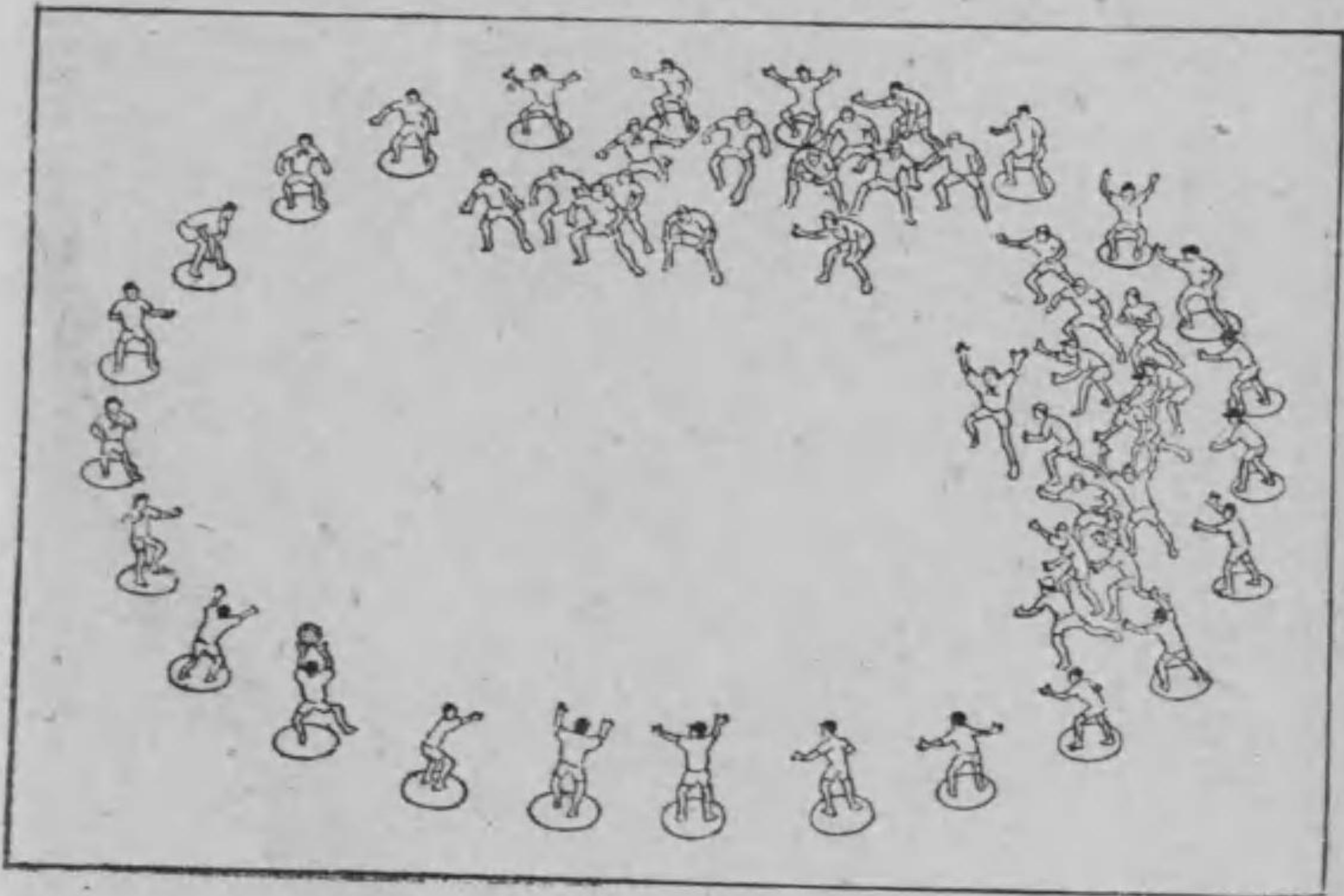
#### 第四項 尋四級技

##### 第一節 球中て

##### 一、準備

(一)全兒を紅白兩組に區分し、一方の組は、一列圓陣を作りて内方へ向き、各自小圓を畫きてその中に入らしむ。

第七十三圖



- (二) 一方の組は、圓陣内に入り、圓列生の一人が持つ球に向つて警戒せしむ。
- (三) 圓列の一人に、球を持たしめ投擲の用意をなさしむ。

二、要領(第七十三圖参照)

- (一) 開始の合圖と共に、圓列の一人その持てる球を投げつく。
- (二) その際、圓内の者は、投げつけられざる様、敏捷に走り廻る。投げつけられたる者は圓外所定の場所に整列す。
- (三) 又は、投げつけらるゝ否や、襷をその都度掛けて連續逃げ走る。
- (四) 斯くして一定時間の後、兩班を交換して行ひ、同一時間内に球をあてし數の多き組を勝とす。

三、注意

- (五) 若しくは全滅まで行はしめ、これに要せし時間の長短を比較し、僅少なりし組を勝とす。
- (一) 球をあてられし者は、潔く圓外に出て、又は襷をかくべし。
- (二) 圓列生は、必ず自己の圓内にて投ぐべし。
- (三) 投擲する者が、球を永く保持し、又はため狙ひなどすることは不利なり。
- (三) 圓列生味方の投げし球を拾ひ損ひ、自己の位置を離れて拾ひにゆきし時は、拾ひし場所より味方に投げ渡す如くするを利益とす。
- (五) これを二箇所にて行ひ、一方の紅組が投手となる時は、一方の紅組は逃手となり、白組同志も互に攻守互に相反したる役目に従ひつゝ、複式に實施するも亦妙なり。
- (六) 男女兒に適用し得べし。

第二節 陣取り

一、準備

全兒童を紅白に分け、運動場及び相對峙したる樹木等を利用して、その周圍に陣地區域をつくらしむ。

二、要領

- (一) 紅組の一人が陣地より出て、白組に戦を挑む。
- (二) 白組の一人が之を捕へんとして自分の陣地を離れて追ひ廻はす。
- (三) それをまた紅軍の一人が陣地より出て追はんとする如く仕組む。
- (四) 即ち、時刻を後れて陣地を出てしものが、他を追ふ権利を有するものとす。
- (五) 斯くして捕虜となりしものは敵の陣地にゆく。
- (六) 捕虜二人以上となりし時は、捕虜は互に手を連れ、大もとの一人のみ敵陣内に足を置き、他は長く連鎖して一列となり、味方の救助を待つ。
- (七) 味方の捕虜となりし者を救助するには、敵に捕へられずして、我が捕虜の手を捉へ得れば、部をとり戻し歸る事を得るものとす。
- (八) 味方の一人が無事に敵陣に跳び込み得れば、敵陣を占領したるものとして勝利なり。
- (九) 然らざる時は、捕虜の(休止の當時)現在數の多寡によりて勝負を決するものとす。

三、注意

- (一) 捕虜を五人作らば勝となすも可なり。
- (二) 敵を追ふ時は、己が陣地を離るゝ際、目掛けたる一人のみを追ひ、自分の目指す敵が陣地に歸らば、自分も亦己が陣地に歸るべし。
- (三) 男女兒に適用し得べし。

第三節 脚切り

一、準備

- (一) 兒童を數組に分ち、各組を一列縦隊に並ぶ。
- (二) 各組の先頭二人に約一間長の繩を持たしむ。

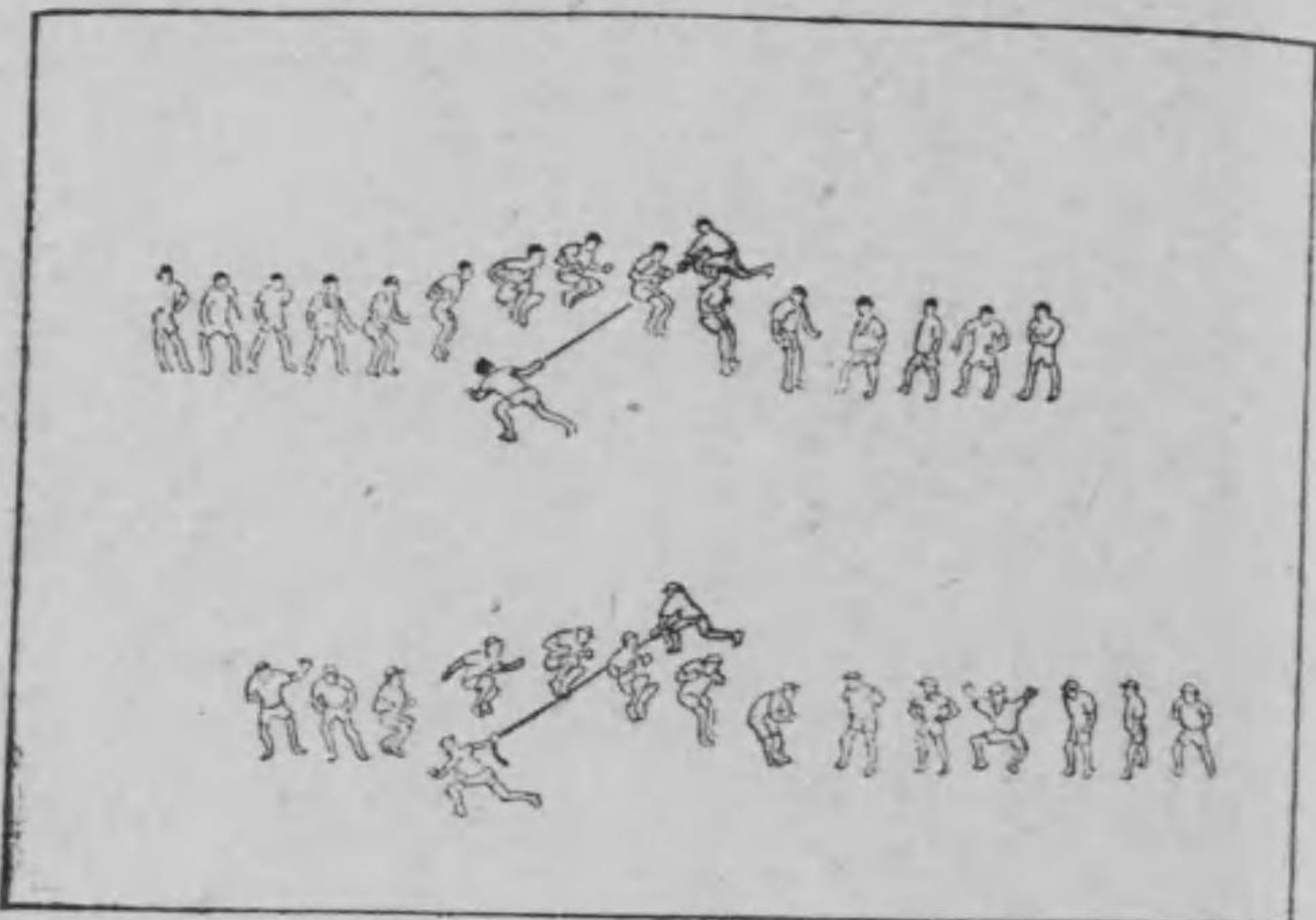
二、要領(第七十四圖参照)

- (一) 合圖により、脚切り番の二人に敏捷に脚切り運動を開始せしむ。
- (二) 列生は、繩に觸れざる様跳び上る。
- (三) 脚を切られし者は、代りて脚切番となるも可なり。

三、注意

- (一) 繩は地面に觸れ、又弛緩することを許さず。

第四十七第



(二)男女兒に適用し得べし。

### 第五項 尋五級技

#### 第一節 對列蹴球

##### 一、準備

- (一)全兒童を二組に分ちて對抗せしめ、堅く連手して一列横隊を作らしむ。
- (二)紅白何れの組かに蹴球を渡す。

##### 二、要領

- (一)一方の組の一人、球を蹴る時は、他組は一致して連手のまゝ退歩し、その球に近きもの敵に向ひて蹴返す。
- (二)斯くして、自動他動にかゝはらず、球が自己の組の列後に這入る時は、敵は一點の勝となる。
- (三)但し、その球は列員の頭上を通過するか、若くは脚下をくゞるにあらざれば有效ならず。列の兩翼より後方に行きしものは無効なり。
- (四)遊技中連手をきりし時は、同じく一點を失ふ。
- (五)以上の方法によりて、五點を失ふ時は負となる。

##### 三、注意

- (一)この遊技は、特に一同協力一致して進退攻守せざる時は、勝つこと能はざるべし。
- (二)この遊技に熟する時は、數班に分ちて實施せしむべし。
- (三)單に二班に分ちたる列の長き場合に於ては、前後の距離の懸引によりて行ふべきも、數班に分ちて列の短き際には、班の廻轉運動を自由にし、例へば、蹴る時は横隊となり、蹴らるゝ時は縦隊となる如く、巧に進退すべし。
- (四)男女兒に適用し得べし。

#### 第二節 簡易障碍物競争

##### 一、準備

運動場に備へ付けの體操器械などを利用す。

##### 二、要領

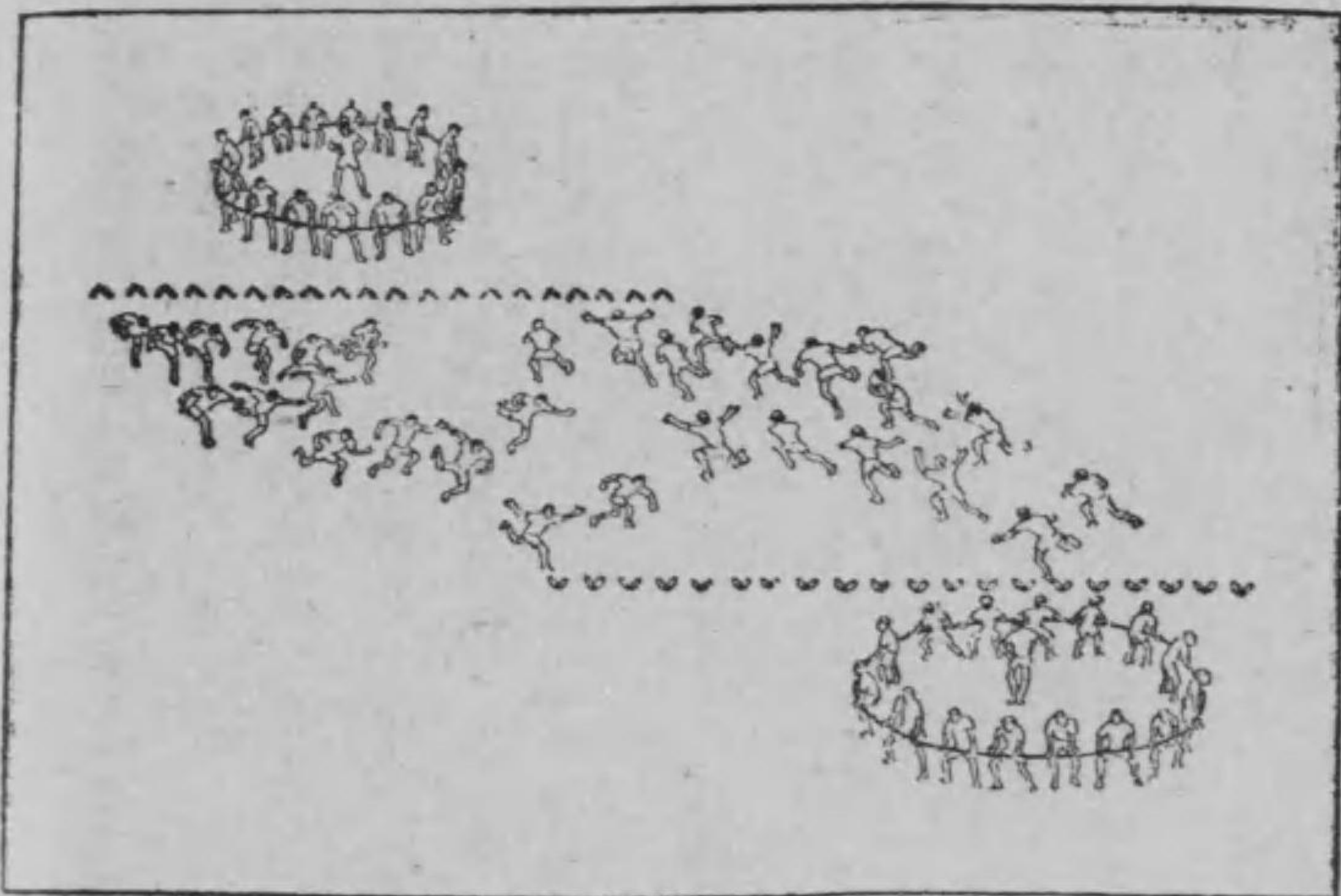
平均臺・跳箱・水平棒・肋木・横梯・滑臺等を跳び、或は越えなどして決勝線に入らしむ。

##### 三、注意

男女兒に適用し得べし。



第五十七圖



### 第三節 襲撃

#### 一、準備

(一) 全兒童を二分し、一方を襲撃組とし、一方を防禦組とす。

(二) 防禦組は全員中より一人を大將となし、一列圓陣をつくりて内方に向き、圓陣同大の輪をつくりたる綱を兩手にて確と握る。大將はその中に入る。

(三) 襲撃軍はその周圍を取り巻く。

#### 二、要領(第七十五圖参照)

(一) 始めの合圖にて、襲撃軍は各方より圓陣を押し動かし、圓陣の外より大將の帽を奪はんとす。

(二) 大將は、中央又は襲撃軍の無き方向の圓列

に逃げ廻はりて、帽を奪はれざる様にす。

(二) 圓列生は、圓陣の押し潰されざる様、強固に抵抗す。

(四) 大將帽を奪はれし時は、勝負づきとなす。斯くして交代して攻防位置を換ふべし。

#### 三、注意

(一) 襲撃軍は、綱をくゞり又は綱を越えて中へ入るべからず。

(二) 襲撃軍は、人と人との間の綱の部を體にて押しゆくごとくつとむべし。

(三) 綱は丈夫なる細引の如きを安全とす。

(四) 熟練するに従ひ、圓陣のまゝ巧に運行轉移すべし。

(五) 男兒に適用す。

### 第六項 尋六級技

#### 第一節 擬馬帽子取り

#### 一、準備

(一) 三人若しくは四人にて擬馬を作り、騎手を乗す。

(二) 全體に組色の帽子を冠らしむ。

## 二、要領

- (一)陣容整へたる時、「始め」の號令を下す。この合圖と共に、敵味方共に関をつくりて進軍す。
- (二)勝敗の形式は普通の帽子とりと同じ。
- (三)馬を潰したるもの、落馬したるものは負けなり。

## 三、注意

- (一)擬馬となりし者同志が、脚絡等によりて争ふことは不可なれども、軀幹を以て突き合ふことは許すべし。
- (二)擬馬となるものには、比較的身長大に、膂力勝れたる兒童を選び、
- (三)騎手となる者には、軀幹の小なる敏捷の者を選ぶべし。
- (四)これ等の遣り繰りは、熟するに従ひ、兒童の自治に任ずるを可とす。
- (五)男兒にふさはしき勇壯なる遊技なり。

## 第二節 中央球

### 一、準備

- (一)全兒童を紅白二組に分け、各組に次の部署をなす。

- (1)中央生 兩組の中央部より約五間を離れて輪を置き、その中に位置す。(但し輪は直徑二尺位とす。)
- (2)副將 中央生より二三間隔りて四隅に輪をおき、その中に一人宛位置す。
- (3)妨害者 敵の中央生及び各副將の前に位置す。
- (4)遊撃隊 球を挟んで兩組とも一列横隊にて相對す。

## 二、要領(第七十六圖参照)

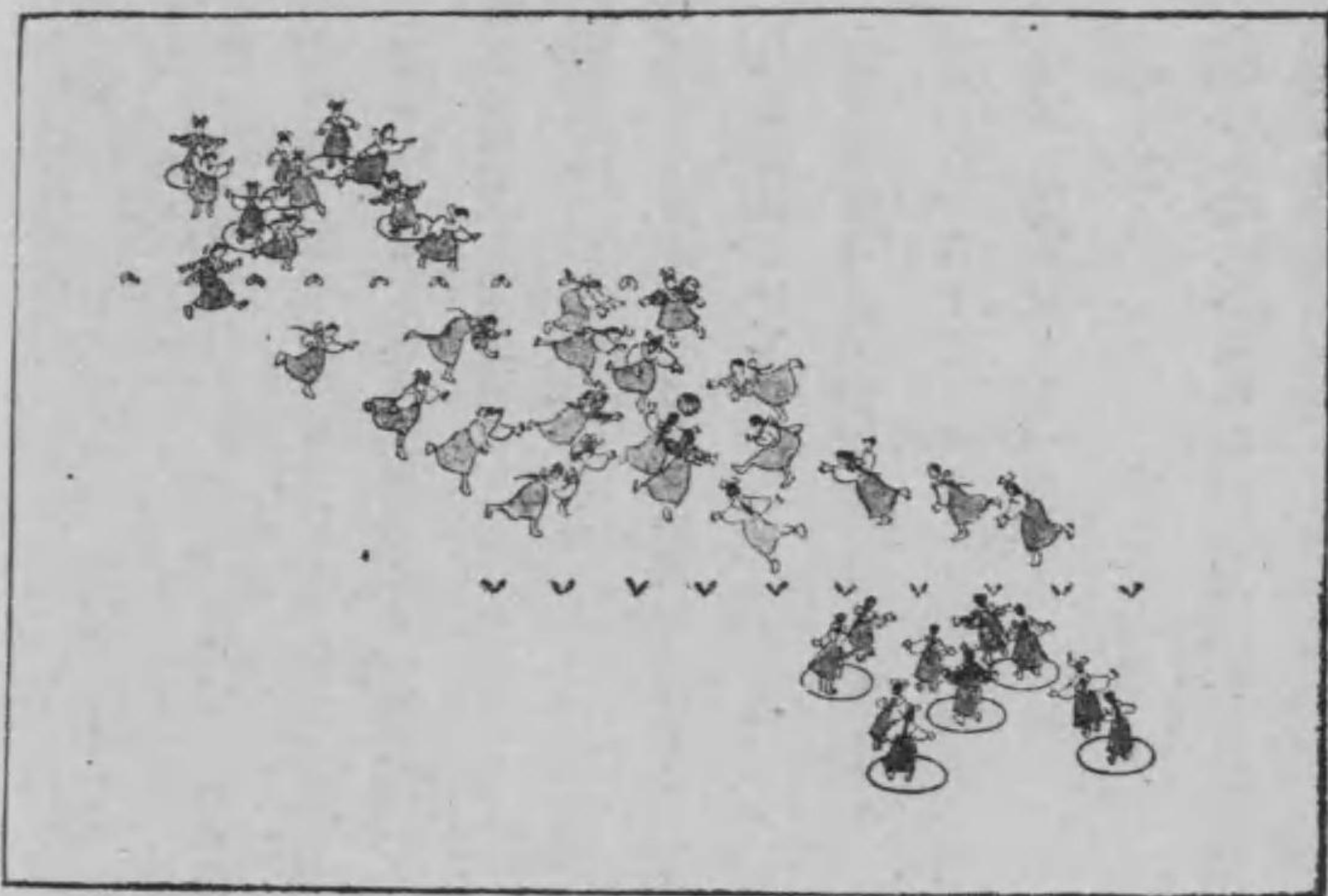
### (一)遊撃隊

- (1)教師が開始の令と共に中央高く球を投げ上げる時、遊撃隊員は争うてこの球を取り、即刻味方の副將目掛けて投擲す。
- (2)尙遊撃隊員は、自組の妨害者が、副將へ投げ渡す媒介をなす。
- (3)この間、球をもてる敵より球を横奪するを禁ず。
- (4)隨所に活動せしむべし。

### (二)妨害者

- (1)敵の遊撃隊が敵の副將に、又は敵の副將が敵の大將に投ずる球を、中途に在りて妨害す。
- (2)この時、

第七十六圖



(イ) 敵の輪の中に足を踏み入れ、  
 (ロ) 又は身體を敵の體に觸る、  
 ことを禁ず。而して、受取りたる球は、自組の遊撃隊に渡す。

(三) 副將

(1) 自組の遊撃隊より投送せる球を受取るには、必ず片足を圓内におくべし。球は地上を轉じ來たれるものも可なり。

(2) 中央生に投球する時は、兩足を必ず圓内に置かざるべからず。

(三) 中央生

(1) 自組の副將が投せる球は、兩足を圓内に置き、球の地に落下せざる内に受取るべし。

(2) 左の三條件に牴觸すれば無効とす。

(イ) 副將が投げてより一旦地に觸れたる球。

(ロ) 自組の副將の手を経由せざる球。

(ハ) 片足を圓外に出して受取りたる球。

(3) 但し、教師の考により、それ等の條件の一部或は全部を差許す場合もあるべし。

三、注意

(一) 慣熟すれば、兒童をして任意役割を計畫せしむるも可なり。

(二) 球を受取りたる地點より必ず投球せしむべし

(三) 後に挙げたる「大將球」は、中央生の後方に居る副將及び妨害者合計八名の者が、往々手持無汰汰となるにより、その點を改正工夫したるものと見て差支なし。

(四) 遊撃隊は、固定隊の間若くは周圍を遺憾なく活動して、該隊の手となり足ともなるべし。

(五) 男女兒に適用し得べし。

第三節 押出し

一、準備

- (一) 紅白二列に分け、
- (二) 圓内に對陣せしむ。

二、要領

開始の令と共に、紅白入り亂れて互に敵を圏外へ押し出さんことを努む。

三、注意

- (一) 引き出しは不可なり、危険なればなり。
- (二) 一人對一人の競争となすべし。一人に多數かゝらしむべからず。
- (三) 男兒に適用す。

第七項 高一級技

第一節 棒倒し

一、準備

- (一) 紅白兩軍に分ち、各軍に護るべき棒を立つべし。
- (二) 兩軍各三分の二を守備班に三分の一を攻撃班とす。

二、要領(第七十七圖參照)

(一) 開始の令にて、攻撃班の兒童は関をつくりて敵軍に突撃を始め、敵の棒に攀ち登り、又は押し倒さんとする。

(二) 守備班は、用心堅固に、棒にとりつかせまじ、倒させまじと努む。

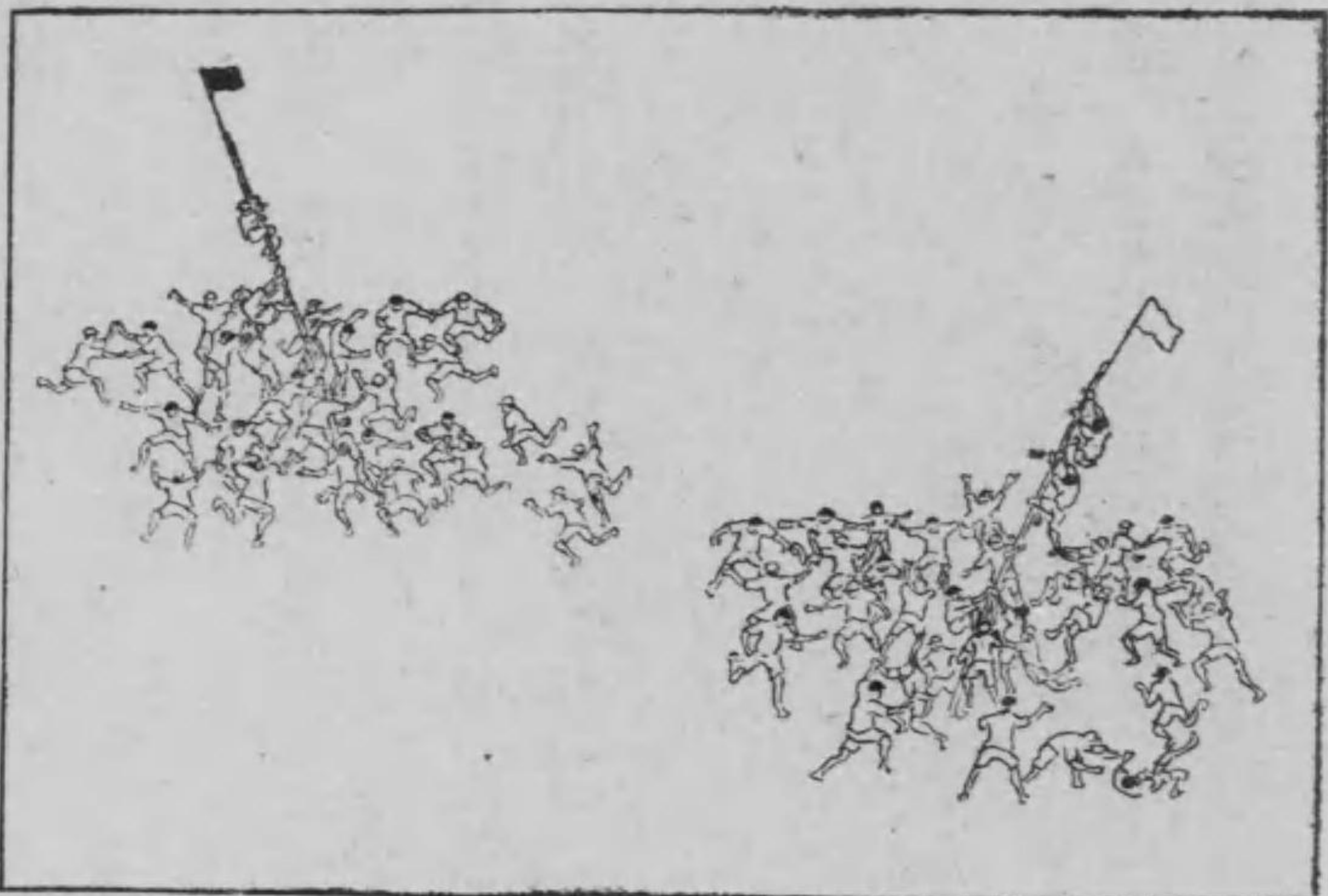
(三) 斯くする中に、一方の攻撃軍の牽制運動効を奏し、又は敵の虚に乗じて棒を倒し得たる方勝なり。

三、注意

- (一) 竿は兒童が攀ち登り押し倒すも挫けざる様丈夫のものたるべし。
- (二) 敵を打らところがす如き粗暴の振舞を禁ず。
- (三) 教師は棒の倒れ終らんとする適當の時を見計らひ、止めの合圖をなす。然らざれば危険の虞あり。
- (四) 男兒に適用す。

第二節 大將球

第七十七圖



一、準備

- (一) 數間を隔て、二本の横線を引き、各その線より後方に一二間を隔て、圓二箇を畫く。
- (二) 二箇の圓の後方に更に一箇の圓を畫く。(三つの圓は等しく三間位の距離とす。)
- (三) 全兒を紅白に分け、身長高き者より、大將を後方の圓に、副將を前方の二つの圓内に位置せしむ。
- (四) 敵の大將及び副將の前に、一人宛妨害者を派遣す。
- (五) 殘員全部を、遊撃隊として班の前線に一列横隊に並ばしむ。
- (六) 球の位置は兩班の中央とす。

二、要領(第七十八圖参照)

(一) 遊撃隊

- 1. 開始の合圖と共に教師が球を投げ上げし時、隊員は競うてその球をとる。而してその場所より自組の副將に投げ渡さんとす。
- 2. 尙、自組の妨害者が投げたる球を、自組の副將に渡す媒介者となる。
- 3. 次の二事項を制限す。
  - (イ) 何れの場合を問はず界線外に足を踏み出すこと。

(ロ) 球を持てる者より横奪すること。

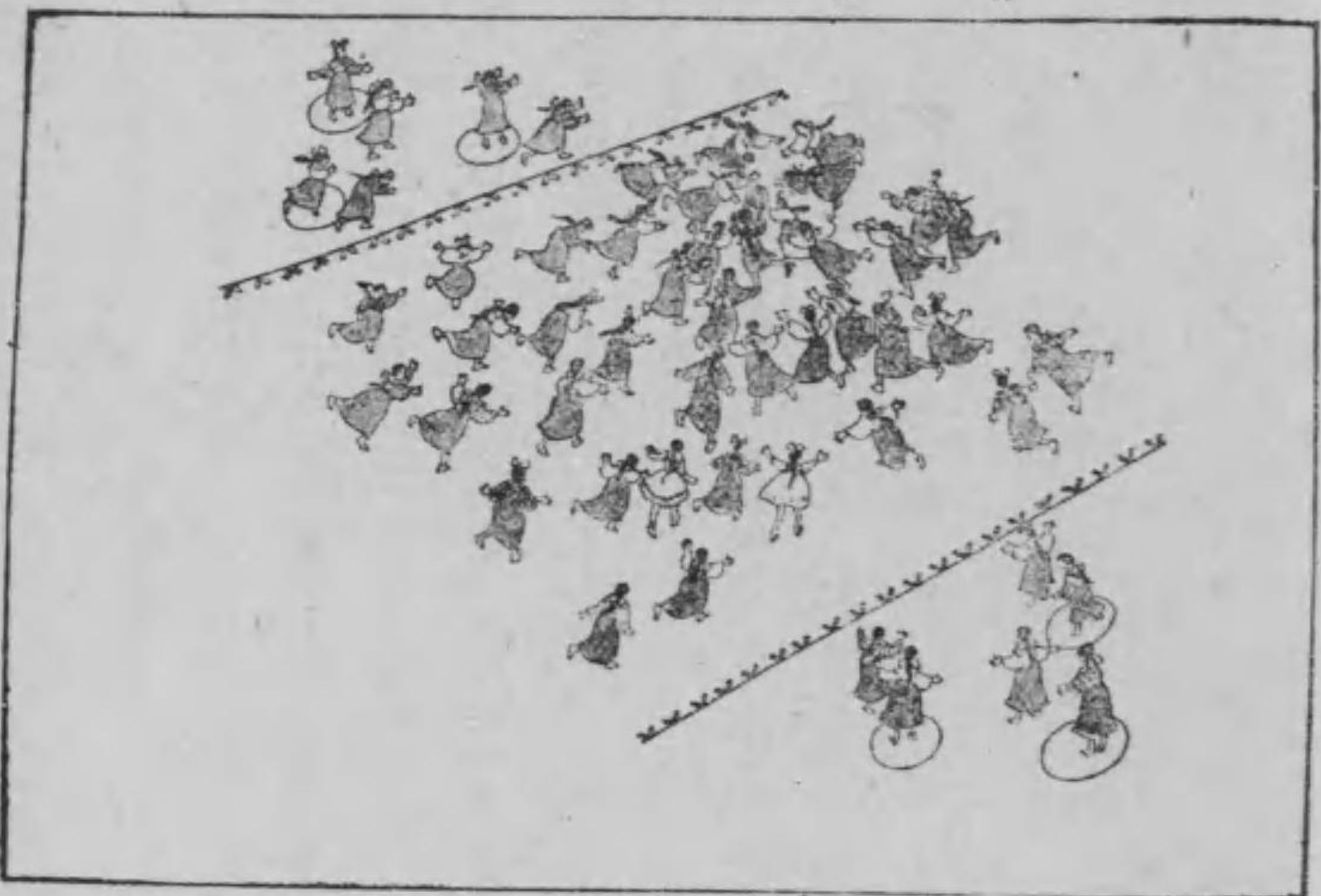
(二) 妨害者

- 1. 敵の遊撃隊が敵の副將に投ずる球、又は敵の副將が敵の大將に投ずる球を途中にて奪ひ取る。
- 2. 妨害者は、妨害する際に次の事項を守るべし。
  - (イ) 副將又は大將の圓内に足を踏み入れざること。
  - (ロ) 手を敵の體に觸れざること。

(三) 副將

- 1. 自組の遊撃隊が投げし球を受けとる。但し、受取る際には必ず片足を圓内におくべし。
- 2. 球は地上を轉じ來たりしものにて可なり。
- 3. 大將に投ずる時は兩足を必ず圓内におくべし。

第七十八圖



(四)大將

1. 兩足を圓内に置き、自組の副將が投げたる球を、地上に落ちざる内に受取るべし。
2. 次の三條件に牴觸すべからず。而して正確に受取りし際勝とす。

- (イ) 副將が投げて地に觸れし球は無効なり。
  - (ロ) 自組の副將の手を経ざる球は無効なり。
  - (ハ) 片足なりとも圓外に出だして受取りたる球は無効なり。
- (但し初歩にありては、それ等の條件につきて多少の斟酌は可なり。)

三、注意

- (一) 慣熟せる時は、兒童の希望によりて、それ〴〵役目につかしめ、又は兒童に一任するも可なり。
- (二) 球は總べて受取りたる場所より投げしむ。
- (三) 男女兒に適用するを得べし。

第三節 俵奪ひ

一、準備

- (一) 兒童を紅白兩軍に分ち、十數間を隔て、一列横隊に對陣せしむ。

- (二) その中央線上に包裝堅固なる俵數箇を置くべし。

二、要領(第七十九圖参照)

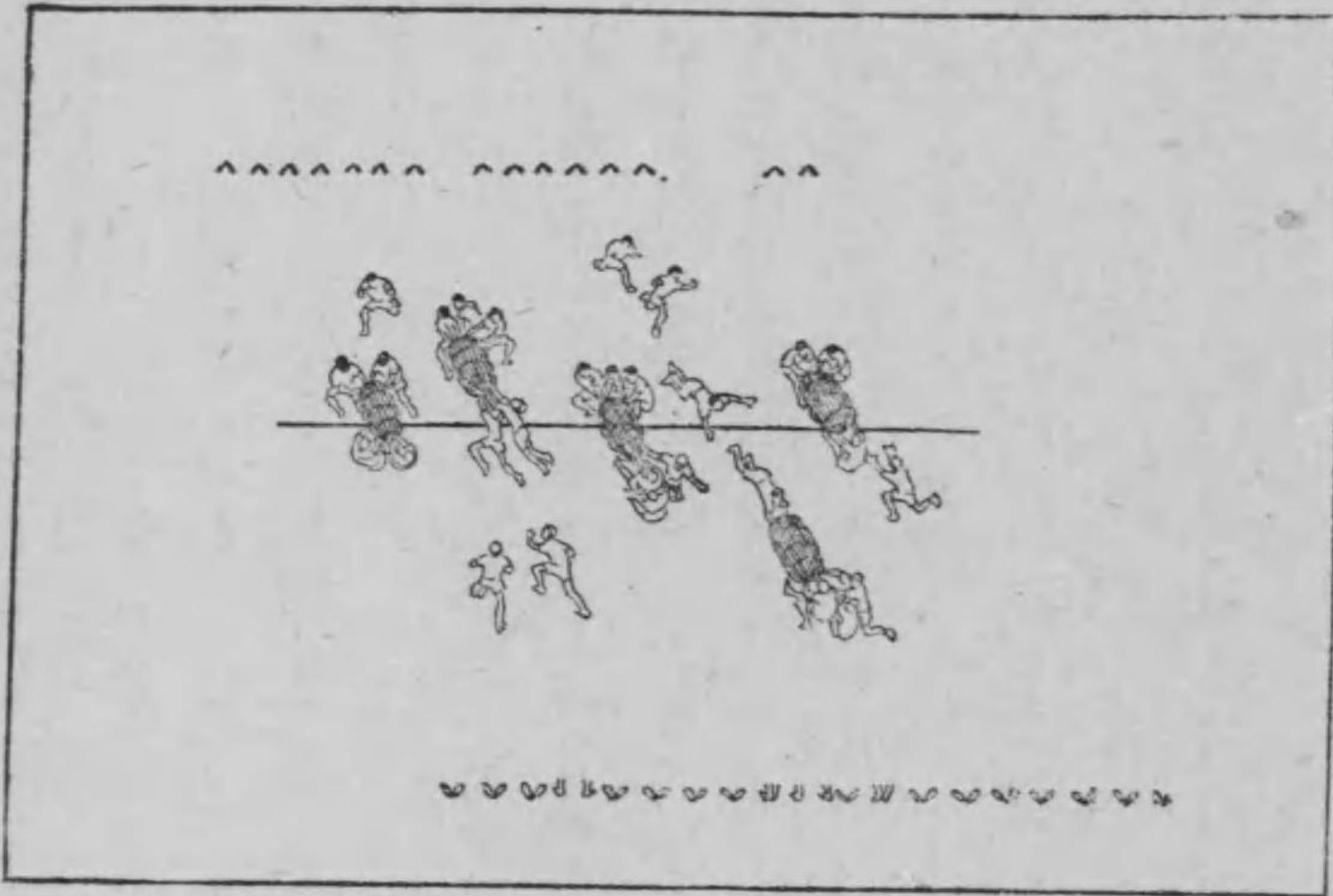
開始の令と共に、各自、目指す俵に向つて突進し、全力を盡して俵を自己の整頓線内に引き入れんとす。

三、注意

- (一) 最初は各の俵に兩組の兒童を均等に配當し、熟練するに従ひ、兒童の計畫に一任するを可とす。
- (二) 如何に俵と共に引かるゝも、枯強的に奮闘せしむべし。早く見切りを附けしむべからず。
- (三) 男兒に適用す。

第八項 高二級技

第七十九圖



### 第一節 蹴球

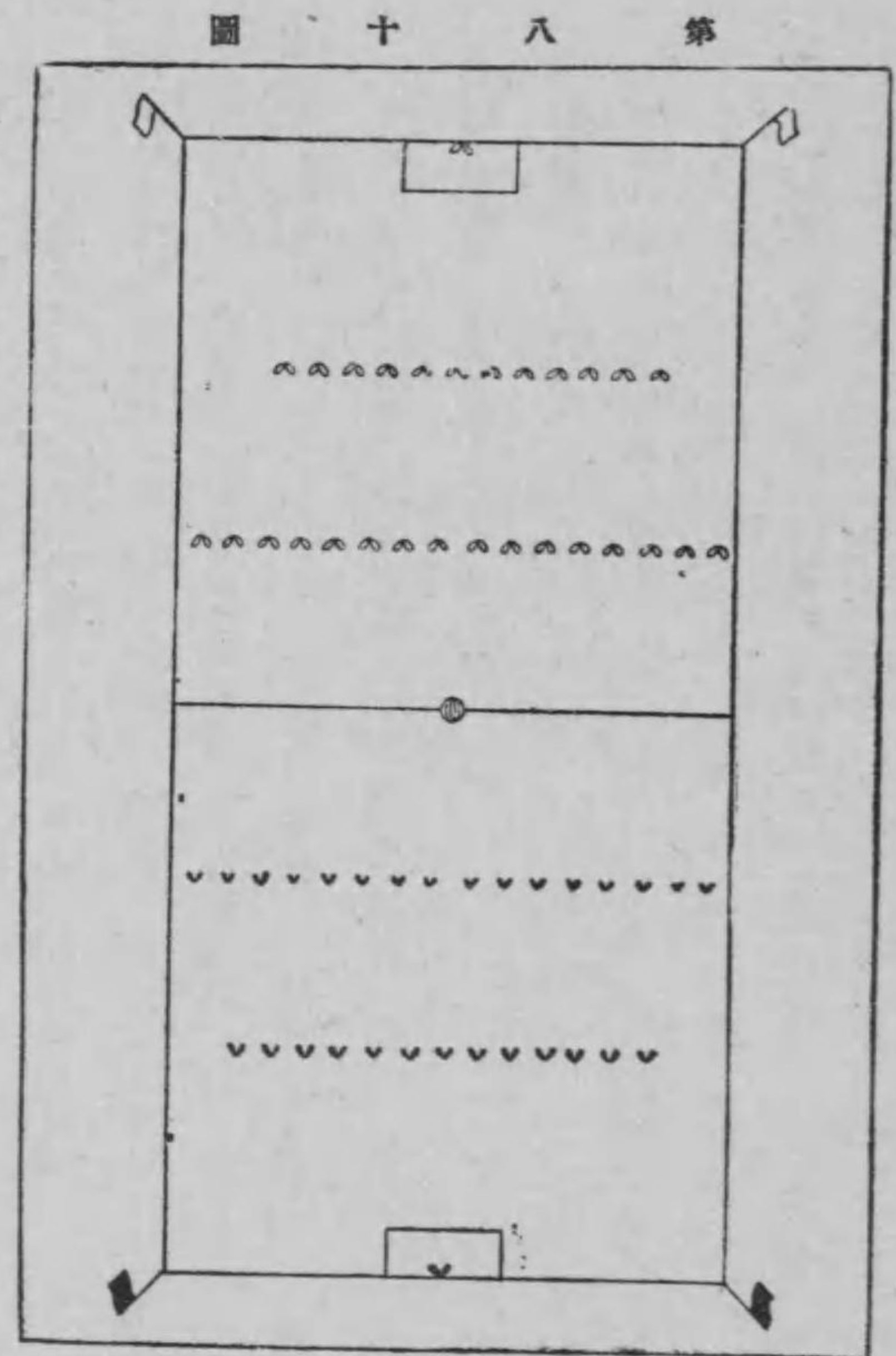
#### 一、準備

- (一) 運動場の廣狹を見計らひ、横と縦とを一と二との割合に矩形に區劃すべし。(人數によりてこの區劃に廣狹あるべし。)
- (二) 矩形に仕切りたる各隅に旗を樹て、兩後方線の中央に、高さ一間半、横三間の門をたつべし
- (三) 運動場の中央に横線を引き、その上に球を置く。
- (四) 全兒童を紅白兩軍に分ち、中央線と門との中間に適當の間隔を以て二列横隊に並ばしむ。
- (五) 一人を門の下に立たしむ。

#### 二、要領(第八十圖)

- (一) 開始の令と共に蹴球を始む。
- (二) 敵の門内を蹴ぬきたる組を勝とす。
- (三) 門を守る者の外は決して球を手を持つこと能はず。
- (四) 球が門の線或は他の界線を越えて外に出てし際には、教師その球を持ち、球が線に觸れたる點にて眞直に線内に投ずべし。

#### 三、注意



第八十圖

- (一) この運動は少しく激烈なる故、下學年の兒童又は女兒には不適當なれども、高等科の男兒に最も適當なる遊戯とす。
- (二) 球の奪ひ合ひの際敵の者を押し倒し、又は殊更に敵の足を蹴るときことなき様注意すべし。

(三) 敵が空中に蹴あげし球を手にて受けとり、又は手に持ちて蹴りたるものを誤りとして敵の得點とし、勝敗の資料とするも可なり。

### 第二節 籠球

#### 一、準備

- (一) 凡そ十間を離れて二本の横線を引き、その中間を中庭とす。
- (二) 兩線より各その後方へ三間程を離れ、中央に、先端に籠を附せる長さ八尺前後の竿を立つべし。
- (三) 籠球用又は蹴球用の大形の球を中庭の中央に置く。
- (四) 兒童を紅白兩班に分ち、各班を更に三等分し、一を投球者として陣地に並べ、一を遊撃隊として中庭に並べ、他の一を妨害者として敵陣に並ぶ。

#### 二、要領(第八十一圖参照)

##### (一) 遊撃隊

1. 教師が球を投げ上げし時は、競うてその球をとる。取りし球はその場所より自組の投球者に投ずべし。

##### (二) 妨害者

2. 尙敵陣にある自組の妨害者が投げ送る球を、自組の投球者に投ぐるものとす。

敵の遊撃隊員が敵の投球者に投ずる球、又は投球者が籠に入れ損じたる球をとりて、その場所より自組の遊撃隊に向つて投ぐべし。

##### (三) 投球者

球をとりし場所より沈着に籠の中に投げ入るべし。

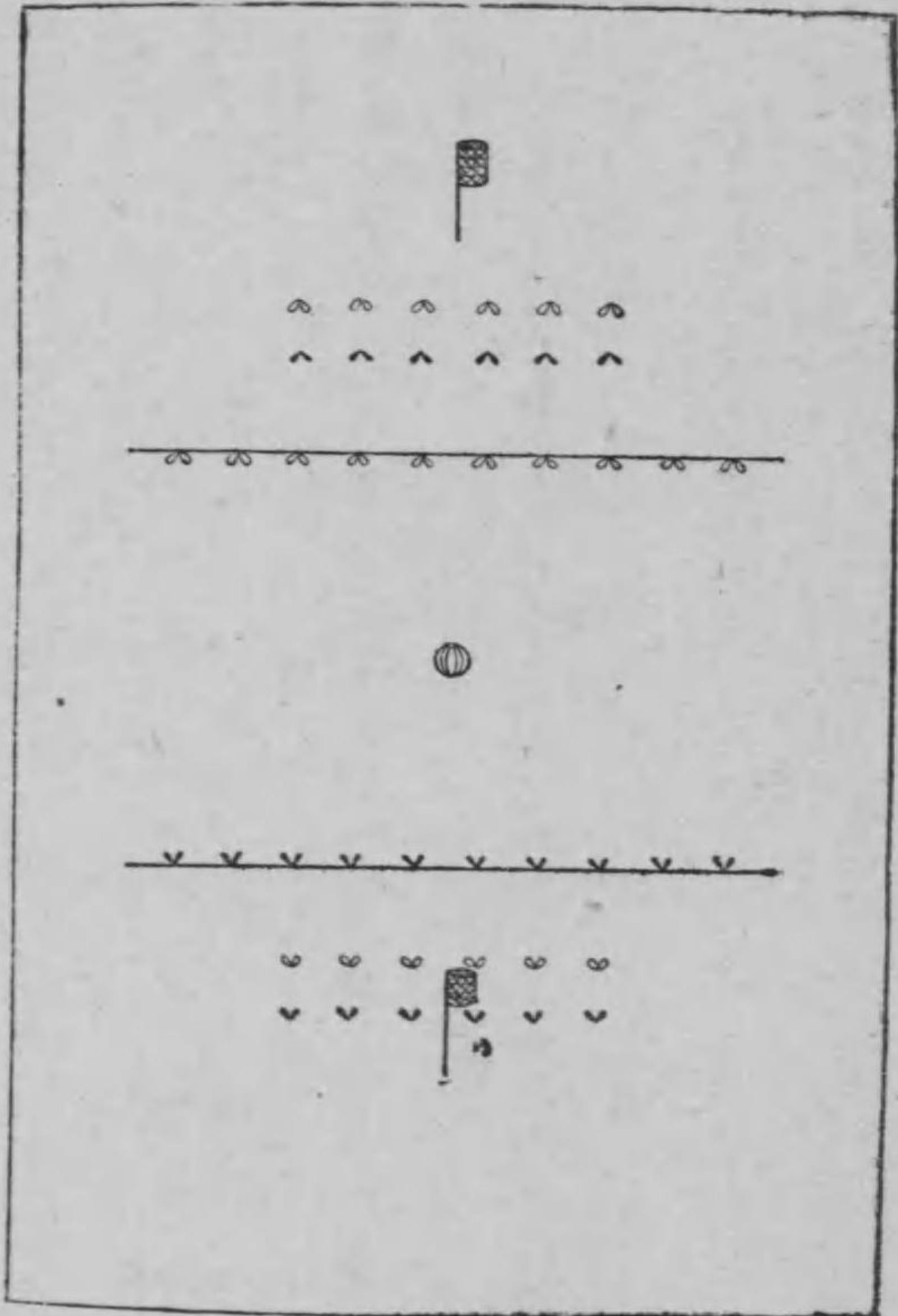
(四) 各自の活動圏外に及ぼすことを得ず。

(五) 球を持てる者より横奪することを得ず

#### 三、注意

女兒に適用す。

第八十一圖



### 第三節 障碍物競走

#### 一、準備

中篇 體操科要領 第三款 遊技



全兒童を人數の都合により若干の組に分ち、前方適宜の箇處に、

- (一) 相當の高さの繩、
  - (二) 梯子、
  - (四) 跳越臺、
  - (四) 平均臺、
  - (五) 垣・繩等
- 等を配置す。

二、要領

合圖と共に駆け出し、各種の障害物を通過し、決勝線に早く入りし者を勝とす。

三、注意

- (一) 危険なるものは行はしめざるを可とす。
- (二) 男兒に適用す。

## 後編 體操科教授の結果

### 第一章 緒論

結果調査をなすに當り、直接に體操科教授の結果として、體格上・體質上・體力上・姿勢上・學力上・訓練上等に及ぼせる効果を數字上に現はすは、一面困難なる事情ありと雖も、然かも、群馬縣が大正二年學校體操科を厲行せられし以來、特に某校が體操科に努力せし以後、該校に現はれたる教育的方面に於ける事績は、該科獎勵實行の結果が、その主因たり、副因たり、直接間接の結果たりと見て差支なかるべし。

#### 第一節 身體上

抑人の身體は、鉛細工の如く、風船玉の如く、然かく御手輕に伸展し膨脹し得るものにあらず。或る學者は、某民族が體育衛生上特種の缺陷を有したる場合に於て、その缺陷に對し、最も適切なる方法を實行し、一百年間に一寸の身長を伸し得るは稀なりと言へり。即ち、一ヶ年間に身長一厘を増加するは困難なりと見らるゝが如し。隨て、以下掲げたる體格向上の數字は、極めて微小なりと雖も、然も一面當然の事實たるを失はず。要するに、體育のこと、百年の長計にして、堅忍持久を要する地

味なる仕事たるなり。然り、體格向上といふ事は、難事の中の難事なり。而かも、これより更に緊要なる姿勢・體力・體質等の上に於ては、一層良好なる結果を得たるを喜ばずんばならず。

(一)圓背・凹背(脊柱前後屈)姿勢は矯正せられて、一目心持よき姿勢となれり。(姿勢上)

(二)會禮式場等に於て、眩暈兒童大に減少し、若くは皆無となり、且つ病氣缺席兒童著しく減少せり。(體質上)

(三)腕力・脚力(行軍力)頗る増大せり。(體力上)

以上は一般學校に於て認むる一般的結果なりとす。

## 第二節 學力上

解剖學上生理學上心理學上の基礎に組織されたる合理的體育たる體操科教授の徹底は、懸て教室に學習状態の改善となりて現はれたり。態度必死にして生氣撥刺たる元氣に充滿せる教室の空氣が、學力向上となりて現はるべきことは、吾人の豫て期待したる處なりしが、事實は全くこれに一致せり。

現行體操科教授の厲行によりて、如何に體育上佳良なる事實を握るも、若しその結果が學力低下といふ事實に觸るゝならば、それは實に體操科の生命を奪ふものと謂ふべし。想ひ起す、大正二三年の頃、群馬縣が該科教授を熱心に奨励せらるゝや、各方面より、學力の點に關し、幾多の杞憂幾多の攻擧ありしことを。當時吾人は、それは斷じて杞憂者の杞憂に過ぎず、若しくは爲にする所ある者の採るに足らざる言となしたりしが、結果は正しく余輩の豫期に違はず、少くとも吾が群馬縣に於ては、兒童學力の改善向上が、體操教授に期待するの最も有利なること、經驗上一般に信ぜらるゝに至れり。學力向上の如きは、體操科實行の直接的結果にあらずと雖も、教育上の基礎たる身體精神の確立が、この科の厲行に依つて得らるべきは理論上否定し能はざることなきのみならず、論より證據、事實は確かにこれに裏書せり。實際體操科厲行の外格別の原因なくして、著しく學力振興せる學校多數あり。少くとも學力低下の事實なきは余輩の斷言を憚らざる所なり。

## 第三節 訓練上

大正二三年に於ては、この體操科厲行の結果が、兒童を粗野にせざるか、殊に女兒に於てはこの憂深きにあらざるかとの聲甚だ喧しかとき。されど、吾人は、

- 一、筋肉骨骼を健全に發達せしむるは勿論、
- 二、内臟機能の健全なる發達に留意し、更に
- 三、神經系統の健全なる發達を望みたるなり。

換言すれば、吾人は、該科教授によりて單に肉體上の効果を夢見るものを下の株とし、更にこれに

依りて兒童の心靈界を動かし、道義的品性を涵養する教授を上の特とし、飽くまで猛獸教育的體操を排斥せしなり。隨てその方針によりて實施せられたる群馬縣體操教授が、德育上不良の結果を來たすべき謂はれなきは勿論、職員間兒童間に一種喜ぶべき傾向を齎したるは争ふべからざる事實なり。少くとも左記の事實は萬口一聲に承認する所のものなり。

- (一)校の内外を問はず、清潔整頓著しく佳良となれり。(室の隅々便所に至るまで)
- (二)學校たると家庭たるとを問はず、勤勞的動作を苦にせざるに到れり。(兒童は、父母の命に従ひ、家事の手傳ひ振り、大に進歩せり。
- (三)禮儀正しくなれり。

#### 第四節 綜合的結果

以上種々の事實を綜合したる兒童の身體精神の向上發展の結果に於て、幾多の兒童並に父兄を隨喜せしめたる幾多の事實あり。この事實は、譬へば身長の一吋伸び體重の百匁増加したる部分的結果と異なりて、「最後の事實たり。」結果の結果たり。惟ふに事實は千萬言の理論よりも雄辯なり。隨てこれ等の事實は、讀者諸君の特に注意し玩味せられんことを切望す。

世の教育者中には體操教育の效果につき疑惑を懐くものあり。或は以て效果極めて薄弱なりとなし、

或は以て無價値なりとす。然れども余は試みにこれ等の教育者に問はん。諸君のその立言は、果して徹底的に體操教育を實施しての結果に據りしものなるか、將た又單に想像的のものなるか。實施の結果に據つてなされたものならば、眞に傾聽の値あり。されど單に想像によりてなされしものならば、それは實に世間を誤るものにして、一顧の價値をも認むる能はざるなり。

又世には盛に體育を唱導しながら、體操に關しては、これを排斥せんとするものあり。己れの好む所に偏するは人情免れざる所なりとはいひ、余輩はその切に高處より達觀せんことを望まざるを得ず。少くとも吾が群馬縣教育界に於ては、これ等の僻論に對して、幾多の不服あることを明言し得べし。遮莫事實は最善の證明者なり。次章掲ぐる所の群馬縣體操教育の效果に對しては、如何なる反對者と雖も強辯し得ざるを信ず。

## 第二章 本論

### 第一節 勢多郡笈井小學校調査

#### 第一、兒童側

##### 一、訓練上の累年比較

##### (一)規律從順

訓練につきては、本校は未だこれが統計的資料を得ずと雖も、從來本校兒童の訓練の一般に遺憾の點多かりしは事實なり。即ち學校の内外に於ける兒童の動作は一般に亂暴にして（例へば數頭の蛇を校長の机の抽出しに入れ置きて不平を漏らす方便となしたるが如き）規律從順の風に缺けたりしが、體操科厲行後漸次その弊風の跡を絶ち、最近從順の德養はれ、教師長上の命に服し、規律的動作を行ふに至れり。今日より過去を回顧すれば、誠に隔世の感あり。

### (二) 學習狀態

訓練の改善につれて、學習の狀態著しく一變し、注意の集注極めて宜しく、従つてその學業成績一般に向上しつゝあり。尙言語動作等敏活となり、所謂きびくしたる心地よき學習態度を生ぜり。

### (三) 禮儀

從順の德の形成せらるゝと共に、長上並に同僚間に於ても親密の度を加へ、延いては禮儀を重んずるの風養はれつゝあるものの如く見受らる。

## 第二、父兄側

### 一、一般的方面

實施當初にありては、一般父兄は體操科に對する識見に乏しきため、體操器械の設備を見て奇異の

感を懷き、種々の質問をなすものありしが、學校は毎年運動會を開き、實地の使用並にその效果の存する所を紹介したるがために、所謂新體操の精神の存する所を了解すると共に、その結果の良好なるを認め、大に歓迎する所となるに至れり。

### 二、個人的方面

兒童の個人の身體狀況に鑑み、相應の體育を施さんには、兒童個別の調査をなす必要を感じ、出來得る限り家庭との連絡を圖り、大正六年度より期を定めて家庭訪問及び家庭通信等をなしつゝあり。その結果は、家庭より「良」「可」「命令を守る。」「益々體操の盛なるを希望す。」「等の通信を得つゝあり。次の例はその中より抄出したるものなり。

父兄より學校への通信(親の聲)

保護者 青柳より

- 一、歸宅後の身體狀況は、敢て疲勞の色なく、活氣に富めり。
- 二、體操をなすため、健康は漸次良好に向ひつゝあり。
- 三、長上の命令に服従すること漸次良好なるが如し。
- 四、第二の國民たる兒童は、飽迄體格の優良を期せざるべからず。この點に於て、我が宛井校が體操に重きを置くこと今日の如きは、頗る適切なりと信ず。

保護者 大山より

拜啓貴校職員御揃ひ御勇健の段奉賀候。次に兒童教育に御熱心のこと偏に御禮申上候。御尋ね相成候事項に就き御回答申上候。

- 一、歸宅後の身體狀況は最も健康であります。
- 二、歸宅後は、先生の命に従ひまして、最近は養蠶の手傳ひを致します。
- 三、體操をしたため一層健康となりました。

保護者 下田より

世界列強の伍班に列し、世界開闢以來の大戦に参加したる國民としては、本邦人の體力精神は共に餘りに貧弱にあらずや。統計によれば、年々衰耗して人心萎靡せんとす。實に國家前途のために憂慮に堪へず。國運の隆盛を期せんには、將來國家の運命を支配すべき兒童の原動力に俟たざるべからず。社會終局の競争は體力にあり。これが救済をなすは教育者にあり。要は飾物の如き參考品の人物を望まず、豪邁なる氣象と剛健なる體力を養成するに在り。尙進んで國家的信念を涵養し、精神的修養としては、武士的精神を鍛練し、否寧ろ大々的に淬礪し琢磨したき希望なるも、微力空拳を如何せん。國家の盛衰興亡は諸彦の双肩にあり。愚生はスバルタ的教養を歓迎す。願くば一層緊揮一番奮勵努力せられんことを。然も實は母校體育の盛なるを見て、老妻心より竊に疑ふ學力如何

を。然るに、學業成績他校に比し頗る良好なる事實あり。體育智育德育の調和的發達に重きを置かるは、吾人父兄として感謝の至りに堪へず。欣喜のあまり、不敬の言をも顧みず申上候段、御寛容下され度候。

### 第二節 群馬郡倉ヶ野小學校調査

#### 四、身體上に及ぼせる影響

##### (一)體格上の累年比較

1. 身長比較

年 度	男					女				
	7	8	9	10	11	7	8	9	10	11
3	3.23	3.63	3.79	3.99	4.07	3.53	3.64	3.74	3.87	3.98
4	3.49	3.63	3.83	4.06	3.97	3.46	3.57	3.77	3.89	4.04
5	3.53	3.60	3.81	3.93	4.05	3.48	3.57	3.75	3.89	3.92
6	3.36	3.67	3.80	3.97	4.16	3.44	3.65	3.77	3.91	4.07
7	3.54	3.64	3.86	3.95	4.13	3.46	3.63	3.83	3.91	4.08

表 較 比 圍 胸 3.

14	13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度	14
2.27	2.24	2.07	1.98	1.97	1.92	1.85	1.80	3	9.717
2.16	2.13	2.10	2.01	1.98	1.93	1.85	1.79	4	7.322
2.17	2.13	2.10	2.01	1.97	1.92	1.82	1.73	5	8.047
2.26	2.12	2.07	2.03	1.97	1.84	1.83	1.76	6	8.724
2.20	2.15	2.08	2.04	1.97	1.90	1.86	1.76	7	8.374
2.36	2.20	2.01	1.96	1.92	1.84	1.79	1.73	3	9.380
2.23	2.07	2.04	1.98	1.86	1.84	1.84	1.72	4	9.153
2.15	2.01	2.04	1.97	1.89	1.83	1.83	1.77	5	8.287
2.20	2.13	2.00	1.94	1.87	1.79	1.79	1.73	6	8.856
2.24	2.07	2.04	1.94	1.87	1.82	1.82	1.72	7	9.440

表 較 比 重 體 2. 表

13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度	14	13	12
7.770	7.090	6.660	6.051	5.40	5.124	4.704	3	4.66	4.61	4.22
7.410	7.214	6.576	6.070	5.684	5.046	4.617	4	4.28	4.30	4.22
7.560	7.217	6.369	6.039	5.492	5.032	4.740	5	4.41	4.33	4.23
7.584	6.862	6.633	6.114	5.501	4.998	4.531	6	4.58	4.36	4.25
7.696	7.236	6.729	6.101	5.671	4.976	4.634	7	4.45	4.71	4.27
8.560	6.730	6.330	5.758	5.282	4.824	4.412	3	4.59	4.48	4.10
7.344	6.903	6.487	5.832	5.395	4.795	4.595	4	4.55	4.29	4.03
6.275	6.915	6.357	5.767	5.265	4.777	4.459	5	4.52	4.25	4.22
8.276	6.834	6.376	5.674	5.242	4.945	4.398	6	4.55	4.6	4.17
7.752	6.860	6.280	5.763	5.467	4.897	4.502	7	4.62	4.41	4.22

(三) 體質上の累年比較

群馬縣に於ける基本體育の經過

表 較 比 弱 強 1.

14	13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度
0.22	0.22	0.27	0.19	0.16	0.13	0.25	0.11	強
—	—	—	—	—	—	0.02	—	弱
0.24	0.29	0.36	0.44	0.32	0.33	0.32	0.27	強
—	—	—	—	—	—	—	—	弱
0.24	0.16	0.43	0.47	0.43	0.44	0.29	0.22	強
—	—	—	—	0.02	—	—	—	弱
0.36	0.08	0.20	0.17	0.07	0.10	0.09	0.13	強
—	—	—	—	—	—	—	—	弱
0.57	0.61	0.35	0.41	0.21	0.19	0.33	0.21	強
—	—	—	—	—	—	—	—	弱
0.50	0.20	0.19	0.23	0.19	0.28	0.33	0.18	強
—	—	—	—	0.03	—	0.02	0.03	弱

(合歩るす對に數總席出) 較比年累席缺氣病 2.

高 二	高 一	尋 六	尋 五	尋 四	尋 三	尋 二	尋 一	年 度
0.0006	0.0012	0.0019	0.0022	0.0033	0.0023	0.0034	0.0042	2)
0.0012	0.0016	0.0017	0.0032	0.0028	0.0020	0.0034	0.0025	3)
0.0007	0.0011	0.0021	0.0037	0.0018	0.0035	0.0037	0.0025	4)
0.0003	0.0020	0.0016	0.0016	0.0023	0.0029	0.0029	0.0030	5)
0.0002	0.0016	0.0010	0.0017	0.0028	0.0029	0.0021	0.0019	6)
—	0.0008	0.0009	0.0023	0.0018	0.0023	0.0025	0.0051	2)
0.0006	0.0006	0.0006	0.0012	0.0009	0.0019	0.0021	0.0034	3)
0.0002	0.0008	0.0003	0.0016	0.0017	0.0022	0.0031	0.0038	4)
0.0001	0.0005	0.0005	0.0008	0.0020	0.0021	0.0030	0.0046	5)
0.0001	0.0004	0.0004	0.0003	0.0018	0.0023	0.0026	0.0043	6)

野 ケ 倉

(三) 體力上の累年比較

1. 腕力

(1) 懸垂 肋木創始當時は、單に下がるのみにして、姿勢も不正にして、運動は全く不可能なり

しが、漸次練習の效あらはれ、現今は、ほゞ完全に懸垂したる上、種々なる運動をなし能ふに至れり。

(2)横梯 最初は、不完全なる姿勢にて二割或は三割を辛うじて移行するのみなりしが、練習の結果、今日は殆ど完全なる姿勢を保ち、容易に横梯全部を往復移行することを得るに至れり。

2. 脚力

(1)遠足(第六學年)

年 度	里 程	人 員	落 伍 者	備 考
大正三年度	新 町 四 里	六 八	ナシ	岩鼻より新町に至る往復
大正四年度	慈 岡 五 里	七 二	ナシ	八幡—藤岡—小野—岩鼻
大正五年度	三碑巡り 四 里	七 〇	一	八幡—吉井
大正六年度	観音山 三 里	七 五	ナシ	高崎—片岡—八幡

(2)徒歩競走(長距離競走)(尋五以上)

年 度	距 離	人 員	一 着	最 後 着	落 伍 者	備 考
大正二年度	二 二 町	一 一 〇	七 分	十 五 分	ナシ	田中東端より
同 三 年 度	二 二 町	一 二 一	六 分 半	十 六 分	ナシ	同前
同 四 年 度	一 里 五 町	一 六 二	九 分 半	二 十 分	ナシ	中仙道を岩鼻校前より廻りて來る
同 五 年 度	一 里 五 町	一 五 八	九 分	十 九 分 半	ナシ	同前

同 六年度 一里七町 一六〇 九分 十九分 ナシ 高崎縣隊前より學校まで

(四)姿勢上の累年比較

1. 室内に於ける姿勢

(1)執筆姿勢

左肩を前方に出し、體及び頭を前方或は左方に過度に傾くる姿勢漸次減じ來たれり。

(2)裁縫姿勢

兩足を不正にし、腰を前方に屈ぐる悪風何時しか止み、下腹部に力を入れ、手と眼との距離ほゞ適當なる點を自ら會得するに至れり。

(3)その他

讀書時或は聴講中の姿勢につきては、その矯正に苦しみしが、現今は容易に正しき姿勢を保ち得るに至り、且學習中寸時も油断なき態度をとるに至れり。

2. 室外に於ける姿勢

(1)會禮の場合

元來不正なる姿勢にて、且つ注意力散漫し、私語するもの多かりしが、現時は、ほゞ完全なる姿勢を保ち、精神を緊張し、よく久しきに堪へ得る様になれり。



(2) 體操姿勢

顎を出し、肩を凝りすぎるものの矯正につとめしが、その間却て腰を後方に引き、腰椎部を反らす弊を認めたる兒童もありたれども、練習の結果、現今ほど完全の姿勢を見るに至れり。

(3) 教室出入の場合

數年前迄は殆ど緊張の態度を缺きたりしが、現時は寸時も油断なき眞面目なる態度をとることを忘れざるに至れり。

(4) 敬禮の姿勢

學校室内に於て、運動場に於て、又街上路上に於て、教師及び長上に對し敬禮の際、従前はたゞ單に叩頭するのみにして、その態度誠にあやしげなるものなりしが、現今は直に不動の姿勢をとりて注目し、その心を以て敬禮するに至れり。

(五) 學科成績累年比較

尋常科第五學年

在籍	男			女			平均					
	甲	乙	丙	甲	乙	丙	甲	乙	丙			
大正二年度	三二	三六〇	四八、元	三六、七	三二	一九、六五	五四、五四	二五、八一	六三	一六、二八	五一、四六	三三、二六
大正三年度	四〇	二五、〇〇	二〇、〇〇	三六、〇〇	二九	三一、〇五	四二、七	二七、六	六九	二八、三	四六、六八	二六、二九

尋常科第六學年

大正四年度	四一	一七、〇三	五八、五四	二四、三三	三三	一八、一八	四八、四五	三三、七	七四	一七、五七	五三、四九	二八、九四
大正五年度	四六	一三、〇四	五九、三	四七、七三	三〇	一六、七	四〇、〇〇	四三、三	七	一四、八五	三九、五七	四三、五八
大正六年度	三	一〇、〇〇	六〇、〇〇	一〇、〇〇	三三	三八、七	五一、二九	九、六	六八	三四、五三	五三、六四	九、八四

附言

- 一、評語は十點九點を甲、八點七點を乙、六點五點四點を丙、三點二點一點を丁とせるものなり。
- 一、比較を表はせる數字は、在籍兒童百人に對する成績を掲げたるものなり。
- 一、この成績比較は、大正元年度入學兒童より、大正五年度入學兒童に至る五箇年間の成績を示せるものなり。

(六) 訓練上の累年比較

尋常科第五學年

	男			女			平均			
	在籍	甲	乙	在籍	甲	乙	在籍	甲	乙	
大正二年度	三	三、一四	四、四三	三	六、〇〇	二六、〇〇	八、〇〇	三	四、〇七	三、三三
大正三年度	〇	二八、〇〇	四、〇〇	三	八、三三	一六、七	—	三	六、七一	三、七一
大正四年度	二	三、五〇	七、〇〇	三	二、〇九	七九、三	—	七	二、五九	七、六
大正五年度	四	三、五〇	六、五〇	三	三、七〇	五九、七	三、三	七	三、〇〇	七、〇六
大正六年度	三	三、三三	五、七	—	六、七	三、三	—	六	五、七	四、二六
<b>尋常科第六學年</b>										
大正二年度	三	六、七一	四、九	三	五、八四	四、一六	—	三	四、六	四、七
大正三年度	六	〇、三	五、八五	二	六、一九	三、八	—	四	五、四	三、九五
大正四年度	三	四、〇〇	五、三	二	四、八	五、七	三、三	七	三、三	五、三
大正五年度	五	七、五〇	五、五〇	〇	五、三	四、〇〇	六、七	六	四、三	四、三
大正六年度	三	四、六	五、六	二	六、一	三、六	—	六	五、三〇	四、六一
<b>附言</b>										
一、訓練の成績は兒童の學校内に於ける日常の動作行爲に付き視察考査しこれを評語にて示せるものなり。										
一、評語は操行善良を甲とし可良を乙とし以下を丙としたるものなり。										
一、表中の數字は在籍百に對する數を示せるものなり。										

一、この成績比較は大正元年度入學兒童より大正五年度入學兒童に至る五箇年間の成績を掲げたるものなり。

(七) 綜合的結果

1. 某生父資性躁急にして稍粗暴のきらひあり。從來學校職員に對する恰も路傍の人の如く、その子亦相似て不從順なり。教師より叱責を受けることあれば、家に歸りて誣妄の報告をなす。父は往々登校してその理由を聽かんとし、その態度極めて不遜にして、暴言を發し、暴行に及ばんとすることさへあり。故に近隣に於ても蛇蝎視してこれと交るを欲せざりき。然るに、彼の子今日の體操教育を受けるや、漸次に精神舉動溫和となり、遂に大正六年度には、賞狀を授與せらるゝに至り、その父亦體操教授に對し、絶大なる感謝を表しつゝあり。
2. 山田某の子女は頗る蒲柳の質なりしが、體操獎勵の結果大いに健康となり、その父兄の喜び言外に出で、學校に對し精神上物質上の寄與をなして謝意を表せり。
3. 學校醫須賀源次郎氏長子、體質虛弱にして性質亦怯懦。從來は他兒童の嬉戲するを袖手傍觀し、夏時父が水泳を奨むるも嘗て試みし事なかりき。然るに、學校にて今日の如く體操を厲行するに及び、性格急變し、元氣を生じ、よく運動し、蟄居するが如き事を好まず、大いに前日の態度を改むるに至り、祖父の如きは、非常に體操の効果に驚歎し、附近のもの又この事實を目撃

し、體育の缺くべからざるを自覺しつつあり。

## 第二 父兄側

### 一、創始當初の批難

凡そ事物の創始にありては一面非難攻撃を受くるは數の免れざるところなり。當校に於ける體操獎勵の當初亦この例に漏れず、幾多の非難攻撃を受けたり。その理由とする所左の如し。

- (一)運動過度にわたり、却て心身の發育に害あるならん。
  - (二)一方に精神を傾注するの結果、他の教科の進捗を害するならん。
  - (三)足袋(下穿用)服装等に浪費多し。
  - (四)舉動粗野に流れ、殊に女兒のしとやかなる特點を破壊するならん。
  - (五)家庭に在りて室の内外を顧みず教練又は體操を模倣して、不都合多し。
- 以上、非難の聲を耳にすること少からざりしかども、教師は不拔堅忍の心もて著々獎勵の方法を講じ、一方この誤解を解かんため、「事實は最大の雄辯なり」の信念を以て、これが成績を擧げんことをつとめたり。その結果、二箇年の後は、前者と全然反對なる聲をさくに至れり。
- ### 二、爾後の批評
- (一)職員の熱誠と眞摯なるに同情せざるを得ず。
  - (二)兒童の體操教練の進歩せるを見て快感を覺ゆ。
  - (三)兒童等家事の手傳をなすに寒暑に辟易せず。快活敏捷に従事し、然も寒暑に冒さるゝこと尠し。
  - (四)從來虛弱にして食慾乏しかりし兒童等、爾後心身ともに健康を加へ、食慾増加し、夜間安眠し、沈鬱なりしもの大いに快活となりたり。
- 尙次の如き状態を見るに及びて愉快に堪へざるものあり。
- (一)體操、運動會等に興味を持ち、斯る催しあるや、老幼相携へて來たり、我が子等の肉體美精神美に満足す。
  - (二)往々にして體操を非難する者あれば、多くの父兄口を極めて論争辯護しつつあり。
  - (三)體操會運動會等を催すや、兒童には便利なる服装を整へ與へ、又學校に對しては多少の金品勞力を寄贈し、これが獎勵に盡す。
  - (四)家庭に於いて簡易なる運動器具を調製して我が子に運動せしむる等、體育の必要と趣味とを解せる父兄を生じたり。
  - (五)他教科の進歩に妨なきのみならず、却て健實なる勉強をなし得ることを悟りたり。
- 以上は一般父兄の腦中に走れる趨勢なれども、その原因の一面は、夙にその効果を認めし町内先覺者の唱導誘掖によること大なり。今試に個人に關する例一二を擧ぐれば左の如し。

- (一) 大谷徳三郎氏は、町會議員にして、該校の體操に指を染めし初より、既に賛成を表し、兒童用運動帽二百五十箇、教師用十箇を寄贈し、又町會に於て器械設備の議あるや、熱心に賛成し、遂にこれを設備することに決議するに至り、又常に町民に對し、體育の必要を唱道しつゝあり。
- (二) 堀口徳次郎氏は、倉ヶ野町助役に於て、常に體操を參觀し、時々個人としての批評を試みられしが、頗る肯綮に中るものあり。
- (三) 中島某、又同情者の一人にして、體操につき非難するものあれば、假借なくこれが説明辯解に努む。その長子の如きは、未だ下學年兒童なるも、家庭に在りてその練習をなすを見て、頗る満足し居れり。
- (四) 佐藤某、又前者と同じく公衆席上等には常に體育の必要を極言し、町民に體育思想を鼓吹し、他校に體操會等ある時は、必ず參觀し、その結果を學校職員に報じ、これを批評す。爲に當校體操進歩のために參考となること多し。而してその批評眼は素人抜けをなし居れり。

### 第三節 群馬郡國府小學校調査

#### 第一、兒童側

#### 一、體質上の累年比較

年度	病氣缺席總數	尋常科出席歩合	高等科出席歩合
大正二年	七七四	九五、六五	九六、〇〇
同 三年	九三〇	九五、〇九	九八、六四
同 四年	一〇七六	九七、七六	九八、四九
同 五年	五五五	九八、七五	九九、〇〇
同 六年	六九八	九八、九一	九八、五二

備考 大正四年度病氣缺席多きは、麻疹流行のためなり。

#### 二、訓練上の累年比較

##### (一) 學習狀態

眞面目に學習する氣分旺盛となれり。

##### (二) 教室の出入

敏速に然も靜肅になすべきことを要求したるが、漸次に改善せらる。

##### (三) 姿勢

教室及び平常の姿勢は、體操科と相俟つてこれが矯正につとめ、直立姿勢及び腰掛姿勢、著座姿勢につき、いづれも著々良好なる習慣を形成しつゝあるが如し。但し、書寫姿勢につきては、尙

一段の注意を要するものあり。

(四)敬禮

體操科前後に於て、特に敬禮につきて指導につとめし結果、日常の敬禮態度頗るよろしく、精神のこもる様になりたり。

(五)作業

體操教授履行の結果は、掃除當番及び農業實習等の作業に對し、逐年良好に向ひつゝあり。

第二、父兄側

大正四年度新體操實施當時、父兄一般の體操に對する考の中には、次の如き誤れるものもありき。「農村は都市の小學校の如く體操の必要を認めず。即ち、家庭に於て相當の勞働をなし運動とならべければ、敢て學校に於て騒ぎ立て、體操をやる必要なし。」斯くの如く、勞働と運動とを混同して考ふるは、一般農民としては無理なきことなりと謂ふべし。然れども、その誤謬なること明なるが故に、これを正し、農村に於ても益々體育の必要なるべきことを理解せしめんものと、各種の方面より講究し、これ等理由の説明材料等を集め、これを持ちて各部落を巡回講話せり。然るに、現今に至りては、漸くその必要を理解し、却て學校に向つて種々なる便宜を興ふるに至り、殊に、軍人分會長大山(福次)少尉、大山(悦喜)少尉、宮川少尉等は、

體育方面に對して少からざる後援をなされたり。

第三、綜合的結果

小學校に於ける體育獎勵の結果が、青年會軍人分會等にまで影響を及ぼし、その結果は、又兒童の感化に偉大なる力をなし、相互に好成績を示すに至れり。大正七年四月、近隣町村未教育補充兵の簡閱點呼ありし時、本村補充兵は、他八ヶ町村に比して優秀なる成績を挙げしにより、司令官より、「國府村は小學校の體操成績佳良なりと聞きしが、未教育兵もその成績拔群に優良なり。」と激賞せられたり。これ不知不識の間に青年の腦裡に體育の必要を感じしめたと同時に、小學校兒童が規律的に然も熱心に體操するを見て、先輩として面目を保ち得るやと反省せし結果、大に蹶起し、熱心に努力したるが爲に外ならず。

第四節 多野郡藤岡小學校調査

一、體格上の累年比較

身 1.

年	年 度		身
	7	8	
男	3.51	3.69	3
	3.51	3.67	4
	3.53	3.68	5
	3.52	3.70	6
	3.49	3.69	7
	3.40	3.61	8
女	3.48	3.63	3
	3.47	3.62	4
	3.47	3.65	5
	3.47	3.65	6
	3.43	3.64	7
	3.43	3.64	8

較比圍胸 3.

表較

12	11	10	9	8	7	年 度	14	13	12	11
2.09	2.02	* 1.98	1.92	1.88	1.80	3	8.752	7.300	6.624	6.536
2.10	2.03	2.00	1.94	1.83	1.76	4	8.920	7.690	7.467	6.628
2.08	2.03	1.90	1.90	1.83	1.76	5	8.533	8.185	7.310	6.646
2.11	2.06	1.98	1.95	1.85	1.78	6	9.038	8.136	7.407	6.709
2.10	2.08	1.99	1.94	1.87	1.78	7	9.149	8.144	7.434	6.703
2.00	1.98	1.93	1.79	1.79	1.62	3	9.762	7.998	6.770	6.739
2.08	2.01	1.91	1.82	1.80	1.76	4	9.530	8.006	7.475	6.508
2.05	2.00	1.92	1.88	1.77	1.68	5	9.408	8.320	7.442	6.619
2.09	2.03	1.92	1.86	1.80	1.72	6	9.658	8.428	7.556	6.747
2.08	1.98	1.94	1.85	1.77	1.67	7	9.782	8.531	7.590	6.760

後篇 體操科教授の結果 第二章 本論

比重體 2.

表較比長

10	9	8	7	年 度	14	13	12	11	10	9
5.542	6.608	5.027	4.728	3	4.46	4.37	4.26	4.10	3.98	3.84
6.020	5.395	5.115	4.575	4	4.50	4.40	4.28	4.12	3.96	3.76
5.977	5.545	5.061	4.648	5	4.51	4.48	4.24	4.11	3.95	3.81
6.191	5.633	5.058	4.600	6	4.60	4.40	4.23	4.11	3.99	3.87
6.083	5.643	5.100	4.692	7	4.65	4.39	4.25	4.13	4.02	3.85
5.744	5.252	4.695	4.421	3	4.53	4.38	4.18	4.06	3.85	3.70
5.840	5.348	5.000	4.126	4	4.65	4.40	4.26	4.07	3.90	3.72
5.953	5.378	5.901	4.501	5	4.55	4.42	4.25	4.09	3.92	3.75
5.996	5.407	4.851	4.528	6	4.72	4.43	4.27	4.12	4.02	3.77
6.024	5.450	5.046	4.398	7	4.61	4.39	4.27	4.14	4.06	3.79

群馬縣に於ける基本體育の経過

群馬縣に於ける基本體育の経過

表	
14	13
2.20	2.16
2.22	2.11
2.25	2.12
2.26	2.12
2.27	2.13
2.47	2.08
2.29	2.21
2.26	2.19
2.36	2.21
2.28	2.23

### 二、體質上及び體力上の累年比較

(一) 都會地に於ける兒童の通弊として、本校の兒童は、儀式會禮等の場合一堂に會する時、常に數人の眩暈卒倒者を出し、就中運動場に於てこれを行ふ際、天氣の模様によりては、十數人の患者を生ずること珍しからず、誠に寒心に堪へざる状態にありしが、近來更に如上の弊を見ざるに至れり。

(二) 本校體操獎勵の當初、各學年に於て所定の教材を時間中に遂行し終ること困難にして、且運動後疲勞を來たす有様なりしが、近來その狀況極めて良好にして、却て體操後の諸學科に活潑なる意氣を以て向ひ、旺盛なる活動をなすに至りぬ。

(三) 本校に於ては、毎年五月五年級以上の兒童を引率して、埼玉縣金領神社へ春季遠足をなすを例とせるが、やゝもすれば、途中數名の落伍者又は病者を出すことあり。且つ神流川に架したる橋を通過する際、(所謂丸木橋様のもの) 橋下の激流を見て墜落するもの往々あり。身體上訓練上遺憾の點少なからざりしが、大正六年度の遠足に於ては、一人の病者落伍者なかりしは、心身上に如何に改善の加へられたるかを知らるに足るべし。

### 三、姿勢上の累年比較

年齢	種目		男	女
	脊柱正	左彎		
大正三年度	九七、六七	二、三二	八五、二三	一、二四
同 四年度	九八、二四	一、七六	九〇、一五	一、二四

年齢	種目		男	女
	脊柱正	左彎		
同 三年度	九三、五五	二、一五	九三、二四	六、七六
同 四年度	九五、七〇	一、〇八	九五、二九	四、七一
同 五年度	九六、七六	一、〇八	九七、五六	二、四五
同 六年度	九八、七五	一、二五	九八、六三	一、三七
同 七年度	一〇〇、〇〇	一、〇八	九八、八五	一、一五
同 三年度	九四、九四	一、〇一	七九、一七	二、〇八
同 四年度	九七、九二	一、〇一	九〇、一四	一、二二
同 五年度	九八、八〇	一、〇八	九七、一〇	一、二二
同 六年度	一〇〇、〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇	二、九〇
同 七年度	一〇〇、〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇	二、九〇
同 三年度	九二、五四	七、四六	八五、〇〇	一五、〇〇
同 四年度	九六、七二	三、二八	九七、二二	二、七八
同 五年度	一〇〇、〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇	一、〇〇
同 六年度	一〇〇、〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇	一、〇〇
同 七年度	一〇〇、〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇	一、〇〇
同 三年度	九三、五五	六、四五	八一、六六	一、六八

群馬縣に於ける基本體育の経過

十	同	同	同	同	同	同
四年度	九五、五五	一	一	一	一	一
五年度	九七、二二	一	一	一	一	一
六年度	一〇〇、〇〇	一	一	一	一	一
七年度	一〇〇、〇〇	一	一	一	一	一
計						

四、學科成績及び訓練上の成績累年比較

年 度	學 業			操 行		
	甲	乙	丙	甲	乙	丙
大正四年(二年)	四六、〇二	四〇、四四	一三、五四	三〇、一六	五〇、三〇	一九、五四
大正五年(三年)	四九、二一	三八、一〇	一二、七〇	四五、二一	三八、九二	一五、八七
大正六年(四年)	四九、六八	四〇、二一	一〇、一一	四七、六二	三九、六八	一二、七〇
大正四年(四年)	二九、二七	四五、四五	二五、二八	四七、七三	二九、二七	二三、〇〇
大正五年(五年)	三一、八二	四四、九二	二二、二六	五五、〇〇	三六、三六	八、六四
大正六年(六年)	三六、三六	四三、六〇	二〇、〇四	五五、〇〇	四三、一八	一、八二
大正四年(四年)	三〇、五一	四八、九六	二〇、五三	四六、一三	四一、〇二	一二、八五
大正五年(五年)	三五、六四	四六、三一	一八、〇五	四八、七一	四一、〇二	一〇、二七
大正六年(六年)	三八、二一	四五、五四	一六、二五	五六、四一	三五、九〇	七、六九
大正三年(五年)	四二、八六	一九、〇五	三八、〇九	四二、八六	二一、四〇	三五、七四
大正四年(六年)	四五、二四	二一、四三	三三、三三	四二、八六	二三、八一	三三、三三
大正五年(高一)	五三、八四	三〇、七六	一五、四〇	六一、五四	三八、四六	

備考 累年比較に當學級を擧げたるは同一教師の續けて受持たる故を以てなり

五、綜合的結果

體操獎勵に關し保護者側の一般の感想の経過を略記せんに、當初學校の方針に對し、或は學力低下を憂ひ、或は衣服の破損を訴へ、時には粗暴過勞等の惡結果を來たさんことを論ずる等、非難の聲をきくこと頗々たりしが、近來全くその聲を絶ち、却てこれが效果に感謝するに至れり。今この具體的例の二三を擧ぐれば、

(一) 關口春三氏(建具職)

同氏の子供は、始め内氣にして體操を嫌ひ、家庭に於ても常にその事を口にしなければ、氏は吾が子の體操見學を申し出でたり。學校に於ては、その實情の誤解に基づくを認め、百方これを説明し、且つこれが風行を續けたり。氏の内心甚だ平かならざるもの如かりき。然るに、その後兒童の状況を見るに、著しく快活となり、健康状態も良好となり、昨春以降大いに體操を好むやうになり、又病氣のため缺席する如き事は全くなきに至れり。茲に於て、始めて以前の誤見を悟り、學校に對し非常に感謝し居れり。

(二) 柴田太兵氏(教師)

同氏の子供は、性來虛弱にして病氣缺席多かりしが、近來殆んど病氣に罹らず、且動作極めて快活となりたり。

(三) 原門作氏

その子供幼時より屢々病氣に罹り、性來氣むづかしく、身體矮小なりしが、熱心に體操をなすに及び、その性質一變して快活となり、又身體強健となり、從來屢々起こしたる腦貧血全く忘れたるがごとく平癒せり。

(四) 倉林一三氏

その子供は、常に頭痛に悩まされ、氣勢揚らず、その姿勢の如き、亦圓背なりき。然るに、本校に轉じてより、頭痛を訴ふることもなく、極めて愉快の様子を以て勉強するに至れり。

尙一般家庭遊戲の種類善良の傾向を生じたり。即ち、從來家庭遊戲として兒童間に流行せしものは、メンゴ、クジ引と稱する賭博



に類する非教育的遊戯なりしが、これが矯正につきては、學校家庭共に一方ならざる苦心をなしたるも、容易にこれを廢するに至らざりき。然るに、近來學校體操を獎勵するに至り、「體操ごっこ」と稱し、學校體操若しくは教練などを模倣し、三々五々隊を組みて嬉戯するに至れり。こゝに始めて前記不良遊戯廢れゆき、且つ金錢を浪費すること忌習改まるに至り、父兄の喜びの聲を聞くに至れり。

第五節 北甘樂郡月形小學校調査

一、體格上の累年比較

比長身(一)

11	10	9	8	7	年 齡	年 度
4.05	3.93	3.83	3.65	3.53	1	男
4.06	3.93	3.86	3.65	3.54	2	
4.05	3.97	3.82	3.68	3.52	3	
4.11	4.01	3.65	3.65	3.52	4	
4.11	4.01	3.66	3.66	3.46	5	
4.15	3.95	3.63	3.63	3.54	6	
4.10	3.98	3.71	3.71	3.57	7	
4.09	3.90	3.76	3.63	3.51	1	女
4.01	3.87	3.76	3.60	3.46	2	
4.03	3.89	3.75	3.63	3.46	3	
4.04	3.94	3.78	3.61	3.48	4	
4.07	3.92	3.77	3.66	3.46	5	
4.09	3.92	3.80	3.65	3.46	6	
4.07	3.97	3.76	3.63	3.44	7	

表較

14	13	12
4.41	4.33	4.22
4.51	4.37	4.18
4.57	4.31	4.20
4.49	4.31	4.18
4.48	4.30	4.27
4.47	4.42	4.25
4.49	4.44	4.26
4.42	4.41	4.17
—	3.83	4.20
4.07	4.28	4.16
4.63	4.26	4.19
4.47	4.33	4.19
4.45	4.27	4.25
4.68	4.53	4.24

表較比重體(二)

13	12	11	10	9	8	7	年 齡	年 度
7.696	6.908	6.375	5.968	5.434	4.859	4.620	1	男
7.517	6.840	6.467	6.130	5.357	5.003	4.680	2	
7.731	7.030	6.433	6.079	5.635	5.172	4.620	3	
7.547	6.900	6.563	6.107	5.693	4.936	4.658	4	
7.511	7.276	6.627	6.233	5.439	5.155	4.449	5	
7.725	7.123	6.660	5.972	5.430	4.659	4.692	6	
7.908	7.411	6.450	6.141	5.414	5.185	4.768	7	
7.718	6.515	6.232	5.702	5.196	4.803	4.415	1	女
6.550	6.897	6.379	5.770	5.357	4.874	4.456	2	
7.378	7.050	6.456	5.804	5.310	5.017	4.470	3	
6.873	6.928	6.120	5.762	5.351	4.935	4.440	4	
7.846	6.847	6.400	5.884	5.341	4.925	4.385	5	
7.281	7.055	6.389	5.930	5.433	4.798	4.486	6	
8.280	7.105	6.349	5.888	5.292	4.861	4.341	7	

表 較 比 圍 胸 (一)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 度	年 度	
2.14	2.01	1.98	1.89	1.86	1.84	1.81	1.69	3	大 正 男	
2.04	2.08	1.96	1.88	1.85	1.79	1.74	1.67	4		
2.19	2.16	2.03	2.03	1.89	1.83	1.79	1.73	5		
2.24	2.06	2.01	1.96	1.88	1.84	1.78	1.72	6		
2.18	2.14	2.05	1.97	1.91	1.85	1.79	1.74	7		
2.05	2.00	1.93	1.79	1.80	1.73	1.69	1.64	3		大 正 女
2.13	1.99	1.82	1.82	1.80	1.71	1.64	1.64	4		
2.18	2.08	1.99	1.92	1.89	1.75	1.69	1.57	5		
2.13	2.04	1.96	1.88	1.80	1.77	1.72	1.66	6		
2.19	2.01	1.97	1.91	1.86	1.79	1.73	1.67	7		

一、體格上の累年比較

第六節 北甘樂郡磐戸小學校調査

表 較 比 圍 胸 (三)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 度	年 度
2.15	2.09	2.03	1.98	1.94	1.88	1.79	1.77	1	大 正 男
2.10	2.14	2.07	2.02	1.95	1.91	1.86	1.60	2	
2.25	2.17	2.11	2.04	2.02	1.95	1.87	1.81	3	
2.17	2.12	2.04	1.99	1.95	1.91	1.83	1.77	4	
2.25	2.14	2.10	2.03	1.99	1.89	1.84	1.77	5	
2.22	2.14	2.13	2.06	2.00	1.95	1.85	1.78	6	
2.27	2.19	2.13	2.02	1.98	1.90	1.88	1.82	7	
2.22	2.10	1.99	1.97	1.91	1.82	1.78	1.73	1	大 正 女
—	2.07	2.06	2.00	1.92	1.88	1.81	1.79	2	
2.13	2.07	2.10	2.00	1.91	1.88	1.78	1.76	3	
2.09	2.07	2.00	1.89	1.86	1.81	1.78	1.71	4	
2.13	2.14	2.00	2.00	1.91	1.85	1.78	1.71	5	
2.27	2.05	2.07	1.93	1.94	1.88	1.77	1.68	6	
2.21	2.12	2.00	1.97	1.91	1.83	1.79	1.71	7	

群馬縣に於ける基本體育の経過

表 較 比 重 體 (二)

14	13	12	11	10	9	8	7	年齢	年度
8.507	7.707	7.253	6.427	5.547	5.493	5.120	4.640	44	明治
8.494	7.697	6.855	6.430	5.955	5.540	4.083	4.550	1	男
8.186	7.478	7.207	6.495	6.179	(5.577)	4.901	4.502	2	
8.513	7.801	7.083	(6.683)	6.253	5.439	5.008	4.570	3	
8.910	7.793	7.259	6.615	5.991	5.502	5.076	4.715	4	
8.766	(8.199)	(7.348)	6.528	(6.108)	5.551	5.208	4.637	5	
9.238	(8.177)	7.109	(6.690)	6.089	(5.277)	5.050	4.684	6	
9.553	7.762	(7.270)	(6.799)	(6.253)	(5.595)	(5.210)	(4.963)	7	
9.447	7.702	7.067	6.267	5.813	5.307	4.907	4.347	44	明治
10.262	9.108	7.037	6.313	5.840	5.275	4.600	4.451	1	女
8.945	8.021	7.200	6.539	5.616	5.165	4.779	4.397	2	
9.410	7.637	(7.229)	6.399	5.724	5.289	4.872	4.391	3	
8.838	8.123	(7.324)	6.322	5.762	5.398	4.949	4.460	4	
9.162	(8.229)	7.014	6.482	(5.961)	(5.441)	4.891	4.464	5	
9.378	7.906	(7.294)	6.470	(5.928)	(5.392)	4.874	4.508	6	
9.247	(8.320)	7.300	(6.634)	(5.944)	(5.453)	4.948	(4.577)	7	

括弧を附したるものは全國平均以上のものなり

第七節 碓氷郡安中小學校調査

一、體格上の累年比較

表 較 比 長 身 (一)

14	13	12	11	10	9	8	7	年齢	年度
4.50	4.37	4.21	4.11	3.94	3.77	(3.68)	(3.59)	44	明治
4.55	4.34	4.20	4.09	3.95	3.72	3.63	3.47	1	男
4.52	4.31	4.25	4.10	(4.00)	(3.83)	2.62	3.48	2	
4.50	4.38	4.25	(4.15)	(4.00)	3.78	3.65	3.50	3	
(4.58)	4.39	4.28	(4.15)	3.94	3.81	(3.67)	(3.54)	4	
(4.60)	(4.46)	(4.28)	4.07	3.96	(3.83)	(3.71)	3.51	5	
(4.63)	(4.46)	4.21	4.11	(3.99)	(3.87)	(3.67)	3.51	6	
(4.67)	4.38	4.25	(4.18)	(4.02)	(3.84)	(3.68)	(3.53)	7	
4.54	4.32	(4.26)	4.05	3.83	3.76	(3.67)	3.44	44	明治
4.53	4.36	4.11	4.06	3.88	3.72	3.75	(3.52)	1	女
(4.61)	4.40	(4.24)	4.05	3.80	3.74	3.62	3.40	2	
(4.60)	4.38	(4.24)	4.07	3.91	3.72	3.62	3.46	3	
(4.61)	(4.43)	(4.27)	(4.09)	(3.93)	(3.78)	(3.65)	(3.48)	4	
(4.61)	(4.43)	(4.23)	(4.10)	(3.94)	(3.80)	(3.67)	(3.47)	5	
(4.61)	(4.43)	(4.29)	(4.11)	(3.99)	(3.81)	(..64)	(3.51)	6	
(4.63)	(4.50)	(4.25)	(4.08)	(3.93)	(3.81)	(3.67)	(3.49)	7	

表 較 比 長 身 (一)

14	13	12	11	10	9	8	7	6	年 度
4.44	4.34	4.16	4.06	3.94	3.76	3.61	3.44	2	男 大 正
4.53	4.32	4.23	4.09	3.90	3.80	3.67	3.53	3	
4.52	4.37	4.25	4.07	3.94	3.80	3.67	3.49	4	
4.56	4.41	4.2	4.09	3.99	3.84	3.69	3.52	5	
4.57	4.34	4.23	4.18	4.00	3.85	3.70	3.52	6	
4.59	4.44	4.13	4.01	3.89	3.75	3.62	3.47	2	
4.64	4.27	4.23	4.03	3.90	3.82	3.65	3.46	3	
4.56	4.41	4.19	4.05	3.92	3.91	3.61	3.46	4	
4.62	4.46	4.24	4.11	3.98	3.76	3.63	3.43	5	
4.72	4.37	4.26	4.13	3.91	3.78	3.63	3.51	6	

一、體格上の累年比較

第八節 碓氷郡後閑小學校調査

表 較 比 圍 胸 (三)

14	13	12	11	10	9	8	7	6	年 度
2.22	2.13	(2.13)	2.04	(2.01)	1.86	(1.85)	(1.81)	44	男 大 正
2.04	2.14	2.08	2.03	1.96	(1.95)	(1.87)	(1.85)	1	
2.22	(2.18)	(2.13)	(2.06)	(2.02)	(1.88)	(1.97)	1.76	2	
2.24	(2.20)	2.09	(2.08)	(2.02)	(1.94)	(1.87)	(1.82)	3	
(2.29)	(2.19)	(2.11)	(2.09)	(2.01)	(1.96)	(1.90)	(1.84)	4	
(2.29)	(2.22)	(2.13)	(2.06)	(2.01)	(1.93)	(1.88)	(1.81)	5	
(2.34)	(2.23)	(2.13)	(2.06)	(2.01)	(1.95)	(1.88)	(1.81)	6	
(2.34)	(2.19)	(2.13)	(2.05)	(1.99)	(1.92)	(1.87)	(1.80)	7	女 大 正
(2.30)	(2.17)	(2.08)	(2.07)	1.92	1.80	1.80	(1.72)	44	
(2.30)	(2.14)	(2.08)	(2.00)	1.86	(1.86)	1.71	(1.77)	1	
2.16	(2.13)	(2.04)	(2.01)	1.87	(1.86)	(1.81)	(1.72)	2	
(2.34)	(2.12)	(2.07)	(1.99)	(1.92)	(1.85)	(1.81)	(1.76)	3	
(2.28)	(2.18)	(2.11)	(1.99)	(1.92)	(1.89)	(1.84)	(1.77)	4	
(2.30)	(2.20)	(2.05)	(2.00)	(1.91)	(1.87)	(1.80)	(1.76)	5	
(2.30)	2.11	(2.07)	(1.99)	(1.93)	(1.82)	(1.86)	(1.76)	6	
(2.25)	(2.19)	(2.05)	(1.99)	1.89	(1.88)	(1.80)	(1.75)	7	

群馬縣に於ける基本體育の經過

二、體質上の累年比較  
 (一)出席歩合(尋常科)

表 較 比 圍 胸 (三)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度
2.17	2.12	2.04	1.99	1.95	1.87	1.79	1.55	2)
2.21	2.10	2.08	2.04	1.94	1.86	1.82	1.78	3)
2.30	2.22	2.15	2.05	2.01	1.94	1.89	1.83	4)
2.30	2.21	2.15	2.03	2.01	1.90	1.86	1.81	5)
2.35	2.21	2.11	2.10	2.04	1.94	1.93	1.84	6)
2.18	2.06	2.99	1.94	1.85	1.79	1.75	1.64	2)
2.17	2.05	2.04	1.94	1.85	1.83	1.75	1.68	3)
2.29	2.21	2.08	2.00	1.94	1.88	1.81	1.76	4)
2.30	2.19	2.07	2.02	1.94	1.85	1.80	1.75	5)
2.33	2.15	2.09	2.04	1.92	1.83	1.84	1.81	6)

以上の事實は胸圍に於て著しき効果を擧げ得たるを説明するものなり

表 較 比 重 體 (二)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度
8.084	7.786	6.953	6.481	6.081	5.401	4.963	4.662	2)
8.761	7.521	7.268	6.680	5.967	5.380	4.853	4.675	3)
8.434	7.846	7.256	6.535	6.023	5.608	5.146	4.674	4)
8.723	7.944	7.108	6.520	6.224	5.625	5.094	4.715	5)
8.741	7.642	7.046	6.808	6.223	5.672	5.311	4.536	6)
9.304	8.033	6.920	6.481	5.755	5.289	5.008	4.612	2)
9.520	7.507	7.327	6.325	5.898	5.607	4.673	4.171	3)
8.713	8.304	6.864	6.471	6.178	5.464	4.844	4.523	4)
9.268	8.190	7.044	6.612	6.078	5.307	4.856	4.481	5)
9.768	7.730	7.290	6.574	5.805	5.417	4.853	4.194	6)

群馬縣に於ける基本體育の經過

兒童出席の良否は、父兄の教育思想の進否に關すること大なれども、兒童の體質上の良否も亦影響すること尠からず。特に下學年に於て然り。左に累年比較を表示すべし。

大正二年度	三年度	四年度	五年度	六年度
九六、二四	九七、五三	九七、六九	九七、五八	九七、七四

備考 大正五年度の出席歩合少しく宜しからざるは、この年非常に麻疹流行したるに基因す。

(二)會禮の狀況

多數集合狀態、數年前に比し大いに面目を一新せる感あり。即ち、靜肅の狀態、就中不動姿勢に於て、眼光不動にして、平然として比較的長時間これを持続し得るに至れり。(勿論學年の高下によりて差あり。)これ全く體操科の賜と云ふべし。

三、眩暈兒童

從來に比し眩暈を催す兒童著しく減少し、特に昨年度の如きは、年度内に一人もあらざりき。

(四)病氣

全校兒童を通じて、皮膚の強壯となりしために、健康を増したる者頗る多し。即ち、冬季風邪の爲に缺席を止むなくせられし者が、體操科厲行後、輕裝薄着を修練せしため、皮膚の抵抗力を増し、遂に今日斯る好成绩を得つゝあるに至れるものにして、體操の間接的效果なりと謂ふべし。

三、體力上の累年比較

大正六年秋季に行へる遠足は、當校兒童の體力特に脚力が從來に比して大いに増進したることを説明するものにして、その概要左の如し。

(一)期日 大正六年十月十九日(殆んど終日降雨)

(二)場所 榛名神社及び榛名湖畔。行程往復十二里強。

(三)前年 高等科男女兒。

(四)狀況 例年の經驗に徴して、この遠足地は、稍遠きに過ぐる懸念あり。随つて遠足地變更の議ありたれども、とにかく、試験的に實行することとなしたり。然るに、この日朝來より險惡の空は、遂に細雨となり、終日天氣恢復せず、天の時極めて可ならざりしにも係らず、男女兒童の元氣旺盛にして、豫定より約一時間を早めて歸宅するを得たり。斯くの如きは、本校未曾有の好成绩といふを得べし。茲に職員兒童並に家庭は、等しく體育殊に體操厲行の結果の何時しか現はれ來りたるを思ひ、驚喜したる程なり。尙ほ當該遠足地が、將來當校の高等科兒童の體力試験地たるべしとは、當時當校職員の感想の一なりき。

四、學科精神上に及ぼしたる影響

(一)學科成績の累年比較

體操科に於て、教師の一號令が兒童の精神を統一集注する訓練をなしたる結果、教室内に於ける學習狀態に影響を及ぼしたり。凡そ學習の基礎は、兒童をして精神を落ちつけて教授を受け入るべき状態たらしむるにあり。煌々たる明月も、漣波激盪たる湖水の面には、その全影を映すこと

能はず。然るに體操科實施の效果は、不知不識良好なる學習狀況を形成し、随つて學科成績の向上を促したり。その經過左の如し。

毎年執行しつゝある讀、算兩科の特別考查成績(全校平均)

年 度	期 別	
	前期(四、五、六、七、九、十月ノ平均)	後期(十一、十二、一、二、三月ノ平均)
大正四年度	六一・〇	六四・七
大正五年度	六四・〇	六九・五
大正六年度	六九・九	七五・二

備考 (一)考查問題は平易なれども努めて毎年同一程度にて行ふ。

(二)前期後期共に各四回宛考查したる平均點なり。

### (二)訓練上の累年比較

學習態度の改善と共に訓練上にも良好なる結果を生めり。殊に長上に對しては、魂の入りたる敬禮をなし得るに至れり。これ、體操科がその實施法宜しきを得る時は、規律・服従・眞面目等の好結果を齎らすものなることを證明するものなり。

## 五、綜合的結果

### 第一 兒童側

(一)兒童は、身體検査を好み、これを期待するの風を増したり。次の如き無邪氣なる滑稽的小話を通じて、その如何に自己の體重身長等の増大しゆくを喜べるかを覗ふことを得べし。(考の誤れるは勿論なれども)

「先生、私の學級の検査は午過ぎにして下さい。さうすれば私はその前に小便に行かず晝飯を食べ待つてゐます。」

若干年前まで、兒童の身體検査に對する感想は、單に學校の仕事として規則的に施行せらるゝものとして考ふるのみにして、それが自己の發育狀況を知る參考上必要なるものなりなど注意する者はあざりしなり。今にして當時を思へば、雲泥の差あるを覺ゆ。これ兒童が體育の肝要なるを自覺し、興味を持ち來たれる證にして。誠によるこばしき事なり。

(二)兒童は薄着を好む風あり。

三、四年以上の學年に於ては、極寒の候榛名嵐の肌を刺す如き時と雖も、シャツ一枚、股引一張にて體操をなすを普通とし、その他の兒童も、好みて薄着をなせり。これ皮膚の抵抗が漸次増し來たれることを示すものなり。

### 第二 父兄側

小林校長の語るところを聞くに、兒童の體力に關して心ある父兄は、確に近來兒童の體格並に體力

の著しく増進せしことを認めつゝあるに似たり。現に前記遠足の結果を目撃せる某父兄が、

「平常あまり丈夫でもない女兒が、往復十二里餘りも歩いて、元氣で「只今いつてまゐりました。」  
といつて門を潜つた時は、實に嬉しかった。」と、喜びを満面に浮べて校長に語り、  
又某父兄は、

「宅の子は從來虚弱の方でしたが、近頃は學校の御陰で大層丈夫になり、風も引きません。」と感謝  
し、又は「近頃家の娘は、脚がめつきり太くなり、家中一番大食をする様になりました。」といへ  
る等の如き、皆學校體育に對する感謝の辭なり。

### 第三 職員側

(一) 近來、兒童が著しく體操に興味を持ち、實に體操時間を待ちこがるゝ者多しとは、教師より常  
にきく處なり。

(二) 現代體操は、直接兒童體育上有効缺くべからざるは勿論なりと雖も、これに附帶して、教授者  
自身の心身の鍛練にも極めて效果多し。

「私の様な中年以上の發育期を經過したものでさへ、身體検査の結果を見ると、身長・體重・胸圍等  
が皆幾分づゝ昨年より増加してゐるのは、全く兒童と共に體操器械により、不正の姿勢を矯正さ

れ、その他機能が旺盛な活動をする様になつたためせう。」とは、一職員の談話なれども、これ  
現代體操を味ひつゝあるものゝ、齊しく首肯する點なるべし。

## 第九節 吾妻郡太田小學校調査

### 一、體力上の累年比較

體力上の進歩は、器械的にこれを計ること稍困難なるが故に、これを統計的に表はし難きも、當校  
に於ける左記事實は、幾分參考となすに足るべし。

毎年一回五月中に於て、尋五以上の男女兒童を引率して榛名神社(約四里)へ遠足せり。この行程に  
於て、従來は疲勞して落伍する者若干名づゝありしが、體操厲行の結果として、近時一人の落伍者  
だに見ず。又尋六以上の女兒の修學旅行をなすに當り、學校より澁川間(往復八里)は、徒歩せしめ  
たることなかりしが、この兩三年來は、徒歩を實行せしも、何等の故障を生じたることなし。若し  
それ五六年前に斯かる方法をとららんには、兒童は未だ歩まざるに意氣沮喪し、又家庭に於ても、  
必ず無謀なりとして非難したりしならんとは、増田校長の談なり。

### 二、訓練上の累年比較

大正三年以前は、冬季休業後二十日間、教授時間の輕減を餘儀なくされしが、(寒氣強き爲の輕減に



あらずして、遅刻者多きためなり。大正四年一月以來、斷然輕減を廢止したるも、何等支障なきに至れり。

尙當校兒童は從來一般にその動作の甚だ遅鈍なる弊あり。余が大正三年八月當校體操を視察せし時も、その遅鈍を指摘せし位なりしが、新體操實施後は、舉動敏捷に、言語明晰となり、規律を重んずるの美風を生じたり。

三、體格上の累年比較

比長身(一)

年		年		年		年		年		年	
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)
4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)
5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)
6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)
7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)
3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)
4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)
5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)
6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)
7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)

表較比重量體(二) 表較

年		年		年		年		年		年	
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)
4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)
5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)
6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)
7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)
3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)	3)
4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)	4)
5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)	5)
6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)	6)
7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)	7)

表 較 比 長 身 (一)

13	12	11	10	9	8	7	年 度	
							年 齡	年 度
4.27	4.18	4.08	3.90	3.70	3.61	3.45	1	} 男
4.27	4.18	4.08	3.96	3.72	3.60	3.46	2	
4.23	4.19	4.05	3.85	3.83	3.56	3.43	3	
4.40	4.23	4.01	3.90	3.75	3.58	3.48	4	
4.32	4.15	4.18	3.91	3.76	3.62	3.50	5	
4.25	4.22	4.10	3.95	3.83	3.66	3.42	6	
4.38	4.21	4.11	3.99	3.81	3.63	3.47	7	
4.24	4.11	4.02	3.85	3.71	3.59	3.37	1	} 女
4.22	4.11	4.04	3.90	3.69	3.56	3.45	2	
4.25	4.15	4.01	3.87	3.72	3.52	3.39	3	
4.48	4.12	3.97	3.87	3.71	3.52	3.47	4	
4.34	4.16	4.01	3.86	3.73	3.60	3.48	5	
4.47	4.22	4.05	3.92	3.80	3.64	3.49	6	
4.49	4.24	4.05	3.94	3.80	3.62	3.51	7	

一、體格上の累年比較

第一 兒童側

第十節 吾妻郡長野原小學校調査

表 較 比 圍 胸 (三)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 度		14	
								年 齡	年 度		
2.06	2.19	2.15	2.11	2.03	1.97	1.88	1.81	3	} 男	7.886	
2.21	2.09	2.11	2.06	2.02	1.90	1.86	1.84	4		8.730	
2.23	2.13	2.11	2.03	1.94	1.89	1.88	1.80	5		8.567	
2.21	2.17	2.13	2.00	1.95	1.93	1.86	1.79	6		8.671	
2.27	2.18	2.12	2.14	1.93	1.91	1.80	1.83	7		8.968	
2.25	2.18	2.10	2.02	1.94	1.83	1.81	1.73	3		} 女	8.558
2.22	2.17	2.00	1.98	1.90	1.79	1.80	1.86	4			8.920
2.22	2.05	2.04	1.91	1.80	1.84	1.79	1.74	5	8.606		
2.22	2.11	2.04	1.91	1.99	1.84	1.79	1.73	6	7.938		
2.19	2.16	2.04	2.07	1.85	1.85	1.82	1.74	7	8.586		

群馬縣に於ける基本體育の經過

表 較 比 圍 胸 (三)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度	年 度
2.23	2.14	2.09	2.04	1.98	1.93	1.86	1.80	1	男
2.21	2.20	2.11	2.08	2.05	1.96	1.86	1.80	2	
2.27	2.15	2.10	2.07	2.06	1.94	1.86	1.79	3	
2.23	2.21	2.15	2.07	2.00	1.94	1.87	1.82	4	
2.35	2.26	2.15	2.09	2.03	1.96	1.88	1.83	5	
2.35	2.23	2.15	2.10	2.05	1.97	1.91	1.81	6	
2.32	2.22	2.16	2.10	2.03	1.96	1.89	1.82	7	
2.20	2.10	2.02	2.00	1.94	1.83	1.80	1.71	1	女
2.16	2.13	2.02	2.00	1.88	1.83	1.80	1.73	2	
2.32	2.16	2.09	2.00	1.92	1.86	1.79	1.72	3	
2.33	2.13	2.06	1.97	1.94	1.87	1.81	1.77	4	
2.34	2.20	2.06	2.00	1.95	1.89	1.84	1.78	5	
2.41	2.13	2.11	2.05	1.99	1.93	1.83	1.79	6	
2.22	2.32	2.11	2.00	1.97	1.90	1.84	1.78	7	

表 較 比 重 體 (二)

14	13	12	11	10	9	8	7	年 齡 度	年 度
7.881	7.148	6.961	6.315	5.886	5.441	4.599	4.550	1	男
8.136	7.540	7.009	6.392	6.161	5.340	4.786	4.613	2	
7.849	7.441	7.045	6.670	5.852	5.640	4.694	4.420	3	
8.430	7.790	7.396	6.379	5.598	5.345	4.935	4.509	4	
9.132	8.017	6.528	6.645	6.017	5.666	5.136	4.593	5	
8.627	7.442	7.142	6.431	6.157	5.622	5.149	4.594	6	
8.728	8.063	7.234	6.845	6.285	4.653	5.145	4.715	7	
8.051	7.225	6.890	6.180	5.701	5.005	4.312	4.260	1	女
9.360	7.428	6.595	6.429	5.642	5.056	4.346	4.227	2	
8.870	7.260	7.102	6.210	5.481	5.376	4.627	4.498	3	
8.575	7.847	6.764	5.979	5.735	5.109	4.833	4.462	4	
9.714	8.045	6.793	6.365	5.798	5.344	4.902	4.463	5	
10.516	7.513	7.041	6.264	5.920	5.506	4.835	4.538	6	
8.722	9.110	7.132	6.463	6.180	5.509	4.967	4.402	7	

群馬縣に於ける基本體育の經過

二、體質上の累年比較

(一) 病氣事項缺席兒童累年比較表

その一 大正五年度卒業生

年	事	尋	病氣缺席	事故缺席	缺席總日數
明治四十四年度		一	三八	四一八	四五六
大正元年度		二	四六	二二三	二五九
同		三	一九	二一九	二三八
同		四	五六	一一七	一七三
同		五	三五	一九七	二三二
同		六	一二	二一六	二二八

その二 大正六年度卒業生

年	事	尋	病氣缺席	事故缺席	缺席總日數
大正元年度		一	九〇	一六一	二五一
同		二	五〇	七九	一二九
同		三	五八	七一	一二九
同		四	七六	七一	一四九
同		五	五一	九一	一四二
同		六	四四	一四八	一九二

(二) 皆出席兒童累年比較表

年	男女別	計
大正元年度	男 五〇	七三
同	男 六六	一〇四
同	男 六七	一一八
同	男 七二	一二九
同	男 八一	一三七
同	男 九〇	一五一
同	女 二二	
同	女 三九	
同	女 五一	
同	女 五七	
同	女 五六	
同	女 六一	

(三) 出席歩合累年比較表

年	科	尋	高等
大正元年度	尋常科	八五、八七	九六、七四
同	尋常科	八九、七二	九三、五四
同	尋常科	八五、九四	九七、六五
同	尋常科	九〇、八七	九六、六九
同	尋常科	九一、二五	九六、四七
同	尋常科	八八、五九	九四、〇三

三、體力の累年比較

(一) 腕力

本校には明治四十四年建設にかゝる大横梯あり。蓋し類を見ざるものにして、長さ五間に近く、幅四尺餘、高さ八尺あり。長さ二間は水平にして、その兩翼は三十度の傾斜をなし、六尺の高さに昇る大構造を有す。

大正二年度頃までは、上級生すらこれを移行すること困難なりしが、今や一桁抜きに移行するは容易なる者多し。特に、女兒はこの器械によりて腕力を養成せらるゝものの如く、盛に使用せらる。

(二)遠足等に於ける前後の狀況

大正二年度頃までは、遠足等の場合に際して、體力の點健康の點最も懸念せられ、兒童自身及び父兄も危懼の念をいだきつゝ、参加したる者多かりき。事實に於ても、出發の際極めて元氣ありし者も、漸次意氣銷沈疲勞の度を増加する者多かりき。然るに、近年一般に體力旺盛となり、さる心配なく、極めて安心に愉快に遠足するが如し。尋常五六年(男女)にして往復十里の遠足には殆んど苦痛を覺えざるなり。

四、精神上に及ぼせし影響

(一)學校成績の累年比較

1)進級否認歩合累年比較

年度	尋常科出席兒童	同上進級否認兒童	出席百に對する否認歩合
大正元年度	四八七	二四	四、九三
同 二年度	四六八	二一	四、四九
同 三年度	四四九	九	二、〇〇
同 四年度	四七〇	九	一、九二
同 五年度	四八四	一	〇、二一
同 六年度	五三四	四	〇、七四

(二)吾妻郡成績考査の結果

大正五年三月施行

學年	學科	平均點	順位	平均點	順位
本校尋六	算術	四、九	六	六五、九	二
	國語	三九、四	一九校	五五、六	一九校
	平均	六二、九	三	八七、九	二
郡平均	算術	六四、五	一六校	—	一六校
	國語	—	—	—	—
	平均	—	—	—	—
大正六年一月施行					
本校尋六	算術	四八、〇〇	四	六五、〇八	四
	國語	五七、一四	一	六四、八二	四
	平均	五二、六四	三	五五、四五	九

後篇 體操科教授の結果 第二章 本論 四八七

### 三、訓練上に及ぼせし結果。

#### (一)學習狀態の向上

從來不良なりし學習狀態は、著しく良好の度を加へたり。兒童の姿勢は一般に端正に向ひ、從つて注意力は集注せられ、動作は活潑となり、極めて眞面目に學習するに至りしは、主として體操科の影響なり。

#### (二)校規の振肅

規律服従の念を高め、兒童の風儀の良好に趣ける等、訓育上大なる効果を見たるは欣快に堪へず。從來運動場に於ける遊戯は、やゝもすれば粗暴に走り、教室の出入の如き、喧騒に陥るものありしが、徐々に秩序整然となり、自治協同の念加はり、惡戯喧嘩等は容易に見ること能はざるに至れり。

#### (三)兒童の修得

兒童は誠實に禮讓を重んずるに至り、奮闘的攻撃的精神に伴ふべき忍耐力の養成となり、陰氣柔惰の風を一掃して、活潑愉快の雰圍氣内に全力を注ぎ學習するに至れり。

### 第二 父兄側

#### 一、小學校體操科の振興を喜ぶ者多し

本町民は、一般に體操科の効果を信じ、大正三年器械の設備も、他に遅れずして新設し、爾來これが發達に注目しつゝありしが、大正五年四月、東京高等師範學校教授永井道明氏視察せられ、優秀なる體操教授に衷心満足を表せしかば、一層感激して奮勵を見るに至り、體育思想の普及を促進せり。

#### (一)故町長櫻井傳三郎氏

六度町長に選ばれ、一生を公共の爲に捧げたる篤志の人なり。就中晩年に及びて、町治の刷新は全く教育の振興に俟たざるべからざるを信じ、明治四十二年四月、五小學校を統一して一校となし、萬難を排して同四十四年九月校舍新築を決行せり。永井教授の讃詞をうくるや、涙を以て校長に語つて曰く、「何事にも善いと賞せらるゝは心地よきものなり。まして心身訓練の基礎たる體操科に於ては、感激いふべからず。」と大に職員の勞を慰めたり。この人今や亡し。

#### (二)前町長淺見安一郎氏

同氏は、常に語つて曰く、「その校の實績は、氣をつけの號令一下利那に於てこれを認むることを得べし。即ちこの命令にして徹底せずんば、他は推して知るべきのみ。故に、體操科の振興は、やがて全教育の振興と稱すべし。」と。よく理解したる人といふべし。

#### (三)醫師平井録藏氏

常に本校運動場の不備と、これに依て生ずる體育衛生上の損害とを憂慮せられ、注意せらるゝこと多し。大正六年、高崎中學校寄宿舎に舎監體操科教師岡本教諭を訪ひ、長野原校の體操の絶大なる價值ある所以を聴かされ、欣喜に堪へずとて、特に登校してその快感を傳へられたり。

(四) 助役佐藤政吉氏

體操科の振興は國民の健全と元氣とに一大効果を齎すべきを考へ、常にこれが援助に努めらる。

(五) 軍人分會長宮崎茂太郎氏

小學校に於ける體操科振興の結果は、青年をして喜んでこれを實行するに至らしめ、爲に本町の入營早々の新兵にして、古兵とその技能に於て區別し難きものありとて、聯隊長よりの通知に接し、その徹底を欣喜せり。

二、體操科に興味を有する者多し。

本町民は、徐々に體操科に興味を感ずるに至り、これが授業の際の如き、その傍を過ぐる者は、老弱男女歩を止めざる者なし。時に一教授時間に及ぶ者あり。或は他校の體操を見來たりて、本校の發奮に資せし者尠からず。

(一) 町長宮崎龜三郎氏

評して曰く、兒童の動かざる眼を見よ。堂々たる態度を見よ。活氣ある步調を見よ。眞にこれ本

氣本心の表徴なり。心身一致の狀を見よ。體操は一面心操なり。」と。

(二) 神職浦野安氏

同氏は、「現行體操はその生理的に效果大なるべきは勿論、これと同時に、元氣を高め、規律協同等精神上の修練亦偉大なるものあり。」とて、青年を奨励誘導せりと聞く。

(三) 町會議員山崎富三郎氏

氏は、平素より教育に熱心なる人なり。特に、體操科器械の設備、運動場の土盛り等は、氏の力に待ちしもの多し。商用の爲、各地小學校の傍を過ぐれば、必ずその校の設備並に體操を見るといふ。然かも體操教育上の卓見、往々吾人を驚かしむる者あり。

(四) 酒造家櫻井茂吉氏

故櫻井町長の甥に當る青年なり。商用の爲め、某市に至る。偶々同地小學校に運動會ありと聞き、一日を割きて往きてこれを見る。その豫想に反するに驚き、歸宅に遑あらず、直に自轉車を校長宅に走らして、大いに母校のために氣焔をあげたり。

三、體操科の効果を認むる者多し。(綜合的結果)

體操科實施の當初より、幸に父兄並に兒童の喜び迎ふるところとなり、漸次その効果を認むる者を出すに至り、一層奮勵の度を加へたり。

(一)醫師平井鏡藏氏三男玄策

身體あまり強壯ならず副食物意に會せざれば食を廢することありて、家人を煩はすこと多し。然るに、現行體操實施以來、空腹を訴へて副食物を云々するに違あらず、身體強健となり、元氣加はり、智力も加はり、事に臆せず、紅顏笑を湛ふる快活なる性質と一變したり。

(二)鹽野入喜一郎氏二男巳市

病身にして缺席極めて多く、灸鍼加持祈禱等、遠近を問はず兩親に伴はるゝごとき、甚だ氣の毒なる状態なりき。然るに、體操運動中、跳箱の技妙を得たりしかば、大いに得意となり、これを努むると同時に、他の諸運動をも好むに至り、身體強健と化し、缺席減少し、亦醫藥の要を認めず、延いては學科成績の向上となり、本人も兩親も感謝すること切なり。

(三)加島鍛造氏長男徳榮

殆ど半身不隨にして、左肩を前にし、全身拗轉して、直進すること能はず、舉動遲鈍にして常に涎を垂らし、言語不明なり。されど、智力は十分に於て、算術の如きは、最も得意とするところなりき。而して、本校に於ける現行體操實施の効果最も顯著なるものを舉ぐれば、第一に指をこの兒に屈せざるべからず。即ち、姿勢は徐々に矯正せられ、歩行は前進をなし得、舉動言語等數年前に比すれば、全く別人の感あり。全職員は、常に彼が改善の動作に着目して、その効果を

確信し、自ら體操科奮勵の資に供したり。

(四)巡查部長大鹽助七氏長男常信

性温順にして、學業優良、操行超衆の兒童なるが、時々腹痛を催す持病あり。常に、藥湯を廢せしことなしといふ。然るに、當校へ轉學以來、健康頓に増進し、一年にして、全く藥の必要なきに至れり。

(五)野口淺一郎氏長女キク

大正六年度尋常六年卒業生なり。父に伴はれて善光寺參詣に出づ。大字川原畑を敷して。信州上田驛に至る道程十有三里の間を歩行す。父激勵して曰く、「如何に疲勞すとも、途中宿泊を許さず、たゞこれ足に任すのみ。努力せよ。忍耐せよ。」と。然るに、父自ら疲勞すること夥し。少女は終始平然として歩むこと易々たり。父大いに驚き、これに在學當時訓練せられたる體操科の御蔭なりとて、嘆稱甚だし。

(六)萩原筆松氏二女てい

大正六年度尋常科卒業生なり。その姉と共に農圃に出づ。而して麥畑の中耕をなすに、姉は畦ウネの中途にして鍬を立て休まざれば一條を終らず、然かも姉の身體は健康なり。然るに妹は嘗て途中に休止するを見ず、家人驚嘆して現行體操科の御蔭なりとせり。



(七) 助役樋田喜三郎氏長女千代

身體強健となり、就中脚力増進せりとて非常に喜び居れり。

四、教育に對し熱誠の度を高めたり。

本町民が從、教育そのものに對する感興は、校舍新築の當時、一段の高潮を見たりしが、町債の返還並に當事者の交渉等は、消極的方針を馴致し、専ら民力の休養に留意し、教育上の施設の如き、一時停止の姿となれり。然るに、體操科振興と共に、町民の熱誠漸く回復し來たり、萬事好都合に運びつゝあり。

(一) 御眞影奉<sub>レ</sub>殿の新築

御大典記念事業の一として、小學校就學兒童は貯金會を設立し、五箇年を期し、毎月金一錢を積みたて、(時の町會議員は、各自の手當を蓄積してこれを助けたり)これを基礎として奉安殿の新築に取りかゝり、町民亦勞に服し、忽にしてその竣工を見るに至れり。その建設地域、並に基礎工事の如き、蓋し稀に見る所なるべし。

(二) 運動場の土盛り

當校運動場は、校舍建設前、即ち明治四十三年の大水害に際し、敷地内に石土流れ入り、工事頗る困難にして、豫定の土入を廢したり。爲に、石礫散在し、職員兒童常にこれが除去に努むと雖

も、所謂無盡藏にして、如何ともすること能はず、運動場の各所に石積場を現出し、或は運動場内に穴を掘りてこれを埋め、一時を彌縫するに過ぎざりしが、大正五年の永井教授の指示により、直に町民勞役を寄せて土盛を行ひ、坦々たる立派なる運動場となすことを得たり。

(三) 第二分教場改築敷地

第二分教場運動場は、敷地狹隘にして増築並に現行體操の實施に適應せざるを以て、これに代るべき敷地の選定に苦心憂慮しつゝありしに、偶々大字應桑有志より、原野三町歩の寄附申請を見らるに至れり。

第三 職員側

一、身體の健康を増進す。

職員は、各々自己の健康を増進し、病患に對する抵抗力を増し、これに冒さるゝもの少なし。爲に如何にしても體操は止められずとなし、自己修養の一となせり。

(一) 校長川村新次郎氏

氏は曾て酷寒の地草津小學校に五箇年間奉職して、健康を損ひ、自ら身體虛弱となし、憂慮少なからざりしが、本校赴任以來、現行體操練習の結果、體質著しく改善し、體重も増加し、精神爽快の度を加へ、望外の健康體となりたり。殊に結婚後十數年にして、始めて一子を擧げたるが如

き、自他共に幸福を感じつゝあり。

(二) 訓導黒岩金四郎氏及び萩原登喜一氏

兩氏は、大正二年より現在に至るまで、本校體育のために努力せられたる元勳なり。技術優秀にして研鑽怠らず、常に語つて曰く、「體操は實に面白味あり。到底止められず。」と。

今や兩氏共に青年修養團部長として、團長たる校長と共に奮闘しつゝあり。

(三) 准訓導市村喜平氏

一見虚弱の如く見ゆるも、現行體操の實施と共に、病氣に對し抵抗力反撥力を生じ、下腹部は自然緊張し肥大し、近來四ヶ年間無缺勤なるを得たり。

(四) 訓導木暮千太郎氏

年々秋冬氣候の變り目に風邪に冒され、又時々腹痛のため苦しめられしが、大正六年四月本校へ轉任以來、頑強にして病苦を忘れ、然ら皆勤することを得たり。

(五) 訓導唐澤利平氏

大正三年師範卒業以來三箇年、本校體育に盡力せられたること多大なり。曾て無垂運動に全力を注ぎしことあり。或る日職員體操を了し、裸體となりて汗を拭ひつゝ、その下腹部に膨大せる筋肉の錯雜波動せるを見、自ら驚き、身體の頑強に變化せるを悟り、喜ぶこと甚だし。大正六年

轉任の辭令に接し、校を去るに臨み、徐々校長に語つて曰く、「この校に奉職せる御蔭を以て、少くとも體操だけは引けを取らぬ覺悟なり、乞ふ安んぜよ。」と。校長涙を流して惜しめり。

二、授業樂みとなる。

兒童規律を守り、姿勢正しく、學習態度の徐々に改善せらるゝを以て、教授は意の如く進捗し、體操科に努力する時は、忽ち他教科の授業にその効果あらはれ、劣等兒とし低能兒として無氣力に經過せし兒童も、活氣を持し來り、一運動に得意なるものは、一躍劣等兒より中等兒に組する者あるに至り、困難苦痛なりし授業は、不知不識の裡に樂しみの一つと化するに至れり。

他校より轉任し來たる職員は、兒童の體操が上手に見えて矯正し難しといひ、且又授業をなすこと極めて世話なしと稱す。

三、職務忠實となる。

本校に就職するものは、相當に努力の覺悟を有し、又速に同化せんことに努む。男女教員皆體操科教授に當り、元氣を鼓舞し、作業を好むに至り、絶えて勞苦を厭ひ嫌惡の情を表はすものなし。

第四 結論

川村校長次の感想談あり。

一、學校内容の改善

現今體操獎勵の結果として、著しく兒童の學習態度を改善し、教職員の教授の興味と奮勵とを喚起したるを以て、漸次内容を改善し、これが充實を來たすに至りしは、最も欣幸とするところなり。

二、兒童心身の向上

我が國民體格の貧弱は、今後國際競争のみに激甚なるべき場合に當り、頗る寒心に堪へざるものあり。然るに、現行體操の獎勵が、國民の體質・體格を改善向上せしむる一大偉力たることは、誠に喜ばしき事なりとす。況んや、常に肉體のみならず、精神上幾多の効果を齎すこと顯著なるに於てをや。

三、町民と學校との密接

體育に留意し、運動場土盛り、御眞影奉安殿建設等、勞役の寄附として出校し、延て教育そのものに熱心となり、來校の機會を作り、密接の度を強むるに至りぬ。

四、青年修養團の美風

毎月一回の召集に體操を加ふるを以て、いづれも筒袖・股引・足袋はだしといへる如き服裝にて集合するを以て、何時しか一つの習慣となり、餘處行きにもその服裝を例とし、不知不識華を去るに至り、質實剛健の氣風を助長し得たり。特に本町青年が、體操を好み、元氣旺盛、團體的の教養を喜びつゝあるは、青年の前途誠によろこびに堪へざる所なり。

第十一節 利根郡白澤小學校調査

第一 兒童側

一、體質上の累年比較

(一) 病氣

明治四十五年春季に於て、兒童身體狀況を見たるに、疾病缺席者多く、且つ登校後發病し苦悶呻吟する者日に二三名を算する事ありしが、年を追うて漸次減少するの傾向を來たし、特に近年に至りては、その數極めて僅少となれり。

(二) 出席歩合

年 度	事 項	歩 合
大 正 元 年 度		八六、五七
同 二 年 度		九二、四七
同 三 年 度		九四、二六
同 四 年 度		九五、三九
同 五 年 度		九七、九四
同 六 年 度		九八、二四

二、體力上の累年比較

(一)腕力(吊棒の登降)

大正五年五月 高等科生にして開脚登降をなし得るもの極めて少し。

大正六年五月 同、開脚登降をなし得る者三割を算す。

大正七年五月 同、開脚登降をなし得る者大部分なり。二三の兒童は優に三回の往復をなす。

(二)脚力

1. 疾走力 大正六年秋、他の數校兒童と競走せしめしに、比較的多くの優勝者を出せり。

2. 行軍力 三里の道程を往復し(六里)、その上體操をなさめしも尙平然たり。高等科生にして、赤城に往復し(十里)、疲勞を甚だしく感ずる者稀なり。

二、精神上に及ぼせし影響

(一)學科成績の累年比較

學習態度良好に向ふと共に、成績も亦向上しつゝあり。

(二)訓練上の比較

1. 注意の集注強盛となりたり。

2. 規律的動作に馴れ、行動敏速となれり。

3. 命令比較的徹底す。

4. 全校兒童一致の行動をとり得るに至れり。

第二 父兄側

一、實施當初に於ける狀況

村當局の言に「學校では一時の流行を追うて體操の器械などを作つたが、何にもなるまい。どうせ使はずに立ち腐れにするだらう。」と。又父兄側には、何等注意せず、「何故かゝる設備をなしたるか。器械を使用して體操するよりも、只にて行つた方がよからう。器械なくして體操のときぬ學校が何處にあらう。こんな體操は眞似事であつて眞の體操ではない。」などいふものもありき。要するに、學校にては、近時體操を盛に實施すれども、無用の事をなし居るものとし、或は全く無頓着にして、體操を實施し居るや否やさへ知らざるものありき。

二、今日に於ける狀況

一般村民大いに注目し、學校の方針に好感情を持ち、互に相助けて該科の成績を向上せしめんとするに至れり。

曩に語りし村當局者曰く、「體操の器械ばかりは當が違ひました。今日の様になるとは思ひませんでした。」と。他の一般村民の心中又推察するに難からず。

第三 職員側

最初一部職員には、流行ものにして、やがて衰運の來たる日を想像し、つまらぬことと考へ、甚だしくその輕卒をそしめるものありき。然るに、現今にては、是非とも努力せざる可からざる教授訓育の基礎科目と目し、一致協力然も好感情を以つて行ふに至り、當校職員中最高齡なる米倉謙龍氏の知き、六十歳にして尙ほ體操科教授を好み、日々兒童を教授しつゝあり。特筆の價値ありと信ず。

### 第十二節 佐波郡東小學校調査

#### 第一 兒童側

##### 一、身體上に及ぼしたる効果

##### (一)體格上

體育の効果たるや、先天的の體格を改善するには、短日月の能くすべきものにあらざること明白なり。而して、本校八ヶ年の身體検査の統計表に於て、次の資料は、頗る興味ありと信ず。

1. 入學前に於ける兒童の體格は累年僅少の低下を示す。
2. 入學後は學年の進むに従ひて反對に多少の向上を示す。

體重累年比較表 (明治四十三年以降)

年	齡							事	
	14	13	12	11	10	9	8		7
男	8.277	7.503	6.808	6.461	5.822	5.607	4.853	4.651	43
	8.571	8.025	6.935	6.595	6.061	5.821	5.847	4.619	44
	7.796	7.230	6.919	6.732	5.824	5.309	5.172	4.284	45
	8.233	7.518	6.943	6.296	5.830	5.546	4.800	4.600	2
	8.465	8.121	7.277	6.684	6.083	5.552	5.038	4.762	3
	9.112	7.897	7.274	6.943	6.148	5.547	5.088	4.654	4
女	8.531	7.871	7.230	6.676	6.079	5.530	5.063	4.569	5
	8.462	7.954	7.345	6.565	6.214	5.627	4.972	4.557	6
	9.719	7.614	6.728	6.114	5.767	5.260	4.833	4.432	43
	9.105	8.731	6.809	6.221	5.687	5.500	5.233	4.299	44
	9.660	7.147	6.610	6.345	5.590	5.040	5.000	4.040	45
	8.233	7.518	6.943	6.296	5.714	4.971	4.893	4.440	2
大	7.928	8.170	7.237	6.300	5.857	5.224	4.999	4.370	3
	9.691	8.408	6.982	6.437	5.813	5.595	4.748	4.410	4
	9.728	7.517	6.736	6.440	5.837	4.932	4.885	4.467	5
	8.316	7.382	7.308	6.530	5.835	5.373	4.922	4.255	6

##### (二)體質上

出席歩合累年比較表 (明治四十三年以降)

年 度	男		女		平均	
	尋常科	高等科	尋常科	高等科	尋常科	高等科
明治四十三年度	九五、四八	九六、〇五	九二、七五	九八、九三	九四、〇九	九六、六一
同 四十四年度	九三、七〇	九七、〇六	八九、九五	九六、〇一	九一、八三	九六、五四
同 四十五年度	九五、七七	九八、二二	九三、三五	九六、七五	九四、五六	九七、四九
大正二 年度	九四、五五	九五、三三	九三、二五	九九、六一	九三、九〇	九七、四七
同 三 年度	九五、四四	九六、四四	九四、九二	九八、六二	九三、九〇	九七、四七
同 四 年度	九五、六七	九七、九〇	九三、八九	九七、三一	九四、九一	九七、七三
同 五 年度	九五、三九	九八、四五	九四、〇六	九九、〇六	九四、七〇	九八、六一

(三) 體力上

この點に關しその改善せられたる實力の現れと認むるに足る事實乏しからず。

1. 駈歩の持續 徒歩競走等に於て、落伍者の數大に減少したり。
2. 徒歩競走に於て、能力の差減少し、同着者年々増加す。(これ平等的に發育せるためか。)
3. 修學旅行の際、事故者の發生減退せり。
4. 肉體的疲勞を感ぜざるに至れり。

これ運動の巧みとなりたるがためのみならず、日常の家庭の作業に於ても、能率大に増加し、よく働き、又その分量著しく増加せりとて、父兄の喜べる報告を聞くこと多し。

5. 跳躍力等は、累年進歩しつゝあり。

(四) 姿勢

兒童の姿勢は、個別的詳密に檢するときは、尙大いに努力すべきものありと雖も、概して正しきを得るに至れり。(姿勢の正否は唯形の問題にあらず。形を端正ならしむるには均齊の發育を要し、又心的方面の端正を要す。故に姿勢の正否は、教授訓育上に至大の關係あるものなり。)

二、教授訓育上に及ぼしたる影響

(一) 學習狀態の向上

兒童の學習漸次眞面目となり、注意集注の強さを増し、坐作進退敏活となれり。從來教師の活動方面に於ては、久しき研究を重ね、相當に發達せしと雖も、兒童學習の問題は、比較的輕視せられたりし感あり。近時學習問題として、兒童を本體としたる研究盛になりつゝあるは、即ちこの缺點に想到せるものなるべし。吾れ等教師の任務は、兒童をして眞面目に學習せしむるため、如何にこれを導くべきかにあり。この點に於て體操教授の極めて有效なることを確信す。

(二) 校紀振肅

學校の空氣が何處となく緊張し、校紀が一般に振肅するは、教育の效果に大なる關係を有す。當校にては、體操科を以て校紀振肅の中心となし、これに努力しつゝあり。而して相當に效果を舉

げつゝあり。兒童が至誠を以て事に當り、勞苦に接して屈せず、作業をなすに全力を傾けて仕遂ぐるの意氣漸く振作しつゝあるが如き、その一證なり。

(三)耐久力の養成

持續的奮闘に缺くべからざるは耐久力にあり。本校兒童は、動もすれば俄元氣の弊ありて、大に耐久力に缺くる所ありしが、近時漸次改喜の途に向ひつゝあり。

(四)協同精神の涵養

團體的社會的活動に最も緊要なる協同的精神の涵養に大なる效果ありと認む。

(五)學力

未だ永き經驗なく、比較すべき材料を缺くが故に、確實なる成績を示すこと能はざれども、教師本氣に教へ、兒童本氣に學びたる結果は、近時各種の方面に現はれつゝあり。即ち、卒業生の中等學校に入學の歩合、入營後に於ける兵士の成績、その他の職業に進めるものの成績年次向上しつゝあるは、これを證するものなり。

(六)作法との關係

世には體操を以て作法上の鑿を破壊するかの如く誤解するものあり。されど吾人の經驗によれば、却て良好なる成績を示せり。即ち、作法の如きは、身心圓滿均齊に調和的に發育したるものにし

て始めて能くすべき所のものなり。故に作法と體育とは當然の目的相一致するを理想とす。況んや教育的體操の效果に於てをや。

三、綜合的效果

體育獎勵の結果、肉體的及び精神的方面に現はれたる效果の重なるものは上の如し。その他尙ほ訓練的方面に於て幾多の効果を擧げつゝあり。殊に、その結果の衣服履物等に對して大に經濟的になりしは豫想外にして、嘗て體操科振興の當初衣服履物等不經濟なるべしとて不平の聲をきゝしが、今や却て反對の現象を呈し、父兄等の満足を買へり。

第二 教師の側

一、教師としての本分を盡すために、最善最多の活動をなすことを得。

由來教育者は自體強健ならざるものに従事する職業なるが如く思はれたる時代もありしが、實は教育者は多くの職業中最も強健ならざるべからざる職業なりとす。兒童生徒をしてよく活動し得べきものたらしめんには、教師は不眠不休的活動に堪へざるべからず。この點より見るも、教師はその職責上大に體育に力めて効果を自己に收めざるべからず。本校素より強健なる者のみを以て職員を組織せしにあらざり、又運動家のみを集めしにも非ざれども、現下の狀態にては、職員全體至つて健全にして、他に比し病氣等も少きが如し。

二、自己保存上有效なり。

教育者には、由來早老者多し。吾人一度教職に就くや、生涯の事業として従事すべきなり。而して永き活動を持続せんには、先づ身體の健康を増進しつゝ、思想の健全を保ち、氣力の保健を計らざるべからず。この修養としては體育に俟たざるべからず。幸に本校職員は、その結果として日々愉快に幸福なる生活をなしつゝあり。國家教育のために陛下の赤子を教育しつゝ、自己保存の有効期間を延長しつゝあること、全く一舉兩得の事業にして、教師にありて始めて有すべき至幸事と稱すべし。

第十三節 佐波郡赤堀小學校調査

第一 兒童側

一、體格上の累年比較

身 (一)

年 度	年 齡	
	7	7
1	3.44	1
2	3.47	2
3	3.48	3 大
4	3.51	4 } 男
5	3.49	5 正
6	3.52	6
7	3.44	7
1	3.40	1
2	3.45	2
3	3.41	3 大
4	3.45	4 } 女
5	3.45	5 正
6	3.37	6
7	3.51	7

長 比 較 表

14	13	12	11	10	9	8
4.47	4.39	4.16	4.00	3.95	3.76	3.59
4.54	4.37	4.16	4.21	3.90	3.74	3.60
4.37	4.35	4.11	4.02	3.92	3.76	3.66
4.44	4.37	4.19	3.99	3.92	3.84	3.65
4.57	4.38	4.20	4.06	3.96	3.78	3.64
4.56	4.36	4.20	4.07	3.95	3.78	3.62
4.54	4.39	4.25	4.28	3.92	3.80	3.65
4.50	4.36	4.35	3.97	3.86	3.54	3.53
4.53	4.32	4.23	4.00	2.87	3.72	3.55
4.57	4.48	4.11	3.99	3.84	3.76	3.57
4.65	4.42	4.23	4.04	3.90	3.74	3.62
4.64	4.43	4.16	4.02	3.91	3.73	3.60
4.64	4.38	4.21	4.08	3.93	3.80	3.51
4.55	4.49	4.23	4.07	3.93	3.84	3.71

重 體 (二)

年 度	年 齡		
	9	8	7
5.423	4.935	4.644	1
5.490	4.940	4.350	2
5.486	4.988	4.644	3 大
5.574	4.873	4.700	4 } 男
5.672	5.088	4.605	5 正
5.477	4.633	4.600	6
5.745	5.048	4.535	7
5.220	4.810	4.320	1
5.223	4.789	4.750	2
5.532	4.819	4.414	3 大
5.193	4.840	4.568	4 } 女
5.299	4.755	4.408	5 正
5.127	4.582	4.305	6
5.730	5.070	4.388	7



比較表

1)	13	12	11	10
8.217	7.813	7.056	6.350	6.072
8.686	7.475	6.874	6.515	5.847
8.391	7.427	6.948	6.394	5.432
8.860	8.150	6.998	6.490	5.770
9.110	7.821	7.053	6.582	6.139
8.834	7.637	7.020	6.463	6.027
8.502	7.812	7.215	6.621	6.033
8.898	7.855	7.158	6.460	5.612
9.069	7.769	7.059	6.280	5.613
8.407	8.793	6.709	6.298	5.740
10.075	8.118	6.972	6.268	5.981
9.235	8.267	6.933	6.320	5.936
9.409	7.847	6.945	6.361	5.720
9.049	8.272	7.034	6.471	5.807

胸圍(三) 比較

11	10	9	8	7	年 齡 度
1.99	1.97	1.91	1.82	1.61	1
2.08	1.96	1.90	1.85	1.76	2
2.02	1.94	1.92	1.89	1.78	3
2.09	1.94	1.92	1.85	1.81	4
2.07	2.02	1.93	1.87	1.79	5
2.07	1.98	1.94	1.82	1.78	6
2.09	2.00	1.91	1.79	1.71	7
1.97	1.98	1.87	1.81	1.73	1
2.03	1.94	1.85	1.82	1.72	2
1.99	1.88	1.80	1.80	1.73	3
2.03	1.88	1.85	1.80	1.75	4
2.01	1.92	1.87	1.80	1.74	5
1.97	1.92	1.88	1.76	1.72	6
2.01	1.93	1.82	1.83	1.71	7

二、體力増進の狀況

(一)脚力 毎年高等科男兒に行ふ長距離競走の成績次の如し。

比較表

1)	13	12
2.20	2.16	2.05
2.30	2.10	2.07
2.23	2.14	2.05
2.21	2.17	2.14
2.26	2.17	2.08
2.28	2.14	2.10
2.20	2.17	2.10
2.14	2.06	2.11
2.20	2.20	2.04
2.28	2.24	2.01
2.38	2.12	2.04
2.26	2.14	2.06
2.24	2.15	2.01
2.27	2.15	2.04

年 度	大正四年度	大正五年度	大正六年度
距離	十八町	同	同
時間	八分(平均)	七分五十秒(同)	七分三十秒(同)

又修學旅行等に於て、毎年一定の距離に實施するも、年を追うて疲勞落伍者を出すことを減少せり。その他校運動會等にて選手に出場するも、近來その成績可良となりつゝあり。大正六年新里校運動會の際出場せる十二名選手中、十一名勝者たりし如きその一例なり。尙遠足等の前後狀況に見るも、その參考とするに足るものあり。

大正三年度高等科兒童東京行の遠足の際の如き、出發間際まで今や遅しと待ち構へたる者も、汽

車の進行と共に、彼處に此處に眩暈吐瀉する者を續出し、東京に着し、市内電車に搭乗するに及んでは、殆んど全員該狀況となり、引卒業員頗る困難したる事實あり。然るに、最近(大正六年)に行へる高等科男兒の日光行は、頗る成績可良にして、家を發せし時午前三四時にして、國定驛より日光まで汽車の便により、日光より中禪寺往復は徒歩なりしが、この間一人の落伍者又は病者を出さず、元氣頗る旺盛なりき。中禪寺に詣りて將に日光に歸らんとせる時は既に薄暮なりしが、この時馬返しより日光行きの電車は、兒童を後に殘して走りゆけり。これを見たる兒童は、電車の後を追ひてこれと競走を試み、一兒童藤生徳藏の如きは、凡そ一里もたゆまず競走したり。車掌感服して車上に引き上げ、日光阿旅館まで送り届けたる事實あり。下級兒童修學旅行の成績もこれと同じく、年と共に好成績を得つゝあり。

三、姿勢上の累年比較

後風	種年	
	類	度
2	2	大男
...	3	
16	4	
10	5	
13	6	
...	7	
2	2	
2	3	
19	4	
18	5	
11	6	
...	7	

7	年	
齡	度	度
57	正	大男
01	歪	
53	正	
...	歪	
63	正	
07	歪	
71	正	
07	歪	
64	正	
04	歪	
79	正	
06	歪	
41	正	大女
...	歪	
66	正	
...	歪	
55	正	
04	歪	
38	正	
06	歪	
64	正	
07	歪	
68	正	
07	歪	

兒童不正姿勢治癒一覽表

備考 表中、右は右彎 左は左彎 前は前屈。印は後風なり

14	13	12	11	10	9	8
25	36	62	95	75	50	58
—	—	—	—	02	01	01
31	36	33	77	46	58	50
—	—	—	—	—	—	01
36	40	50	58	46	55	73
—	—	—	01	04	05	08
22	40	67	43	57	55	61
02	#1	02	02	—	01	04
31	33	60	56	55	75	72
—	—	—	02	05	04	—
27	25	53	55	75	65	64
01	02	02	01	—	04	04
12	24	56	55	57	47	55
—	—	—	—	#1	—	—
11	12	81	21	66	57	49
—	—	—	—	#1	—	—
10	12	48	61	51	48	58
02	06	02	03	02	—	05
12	11	49	58	40	65	55
—	02	02	07	011	04	010
9	16	55	46	64	58	32
02	01	#1	05	05	05	07
14	15	39	51	57	30	19
—	01	01	40	04	02	06

群馬縣に於ける基本體育の経過

五一四

前屈	側彎	首傾斜	側頸椎	外臟脚	鳩胸	肩不齊
1	1	...	...	2	1	3
2	2	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...
3	1	1	...	...	1	...

四、體質上の累年比較

(一) 出席歩合累年比較表

明治	年 度		男 女	尋 常 科 計	高 等 科 計	
	男	女			男	女
明治	39	40	...	...	...	...
大正	...	...	...	...	...	...
大正	...	...	...	...	...	...

(二) 事故病氣缺席兒童累年比較表

年 度	男 女		事 項	病 氣	事 故	計	備 考
	男	女					
大正	...	...	...	...	...	...	...
大正	...	...	...	...	...	...	...
大正	...	...	...	...	...	...	...

後篇 體操科教授の結果 第二章 本論

五一五

群馬縣に於ける基本體育の經過

前年度よりの増減	大正六年度		前年度よりの増減
	男	女	
一日平均	四、〇二	二九、一五	三三、一七
減	一、六一	九、五九	一一、三〇
計	四二二	三六一	四〇三三
男	四六二	二九三二	三三九四
女	八八三	六五四三	七四二六
一日平均	三、七三	二七、六一	三一、三三
減	〇、二九	一、五四	一、八四

五、學科及び精神上に及ぼしたる影響

(一) 學習態度の緊張

從來、教授に於て兒童に旺盛なる求知心なく、而かも兒童これを苦とせず、所謂優柔不斷にして、愉快に授業を受くる風に乏しかりしが、體操科教授によつて、忍耐・剛毅・快活等の精神養成せられ、學業成績に頗る良好の影響を及ぼしたり。これ教授者が常に體操科と他教科との連絡を圖り、教訓をなす場合の如きも、體操科の場合を引例などなしたることが、有力に効果を奏せしものなり。

(二) 注意の集注

教授に於ける注意集注の効果は説明の要なし。而して、體操科がこの點に對して十分なる訓練を

なし得ることは、疑を容れず。例へば、體操科に於ては、氣をつけの號令は、兒童に單に姿勢の不動を要求するのみならず、精神は毛の尖指の先まで行き渡り、次に如何なる號令命令の來るかを期待するやう要求す。この心は、聽て學科學習の心となり、正しき姿勢を以て着座し、以て教師の一舉一動に注目するに至る。即ち、教師物いふ時は、その眼元に注意し、板書する時は、その手先と黑板とに注意す。本校兒童の學習狀態の改善は、一に體操科に於ける注意集注の訓練に基づくものなり。

六、學業成績の優勢と體格

左表に於て事實上健全なる身體に健全なる精神の宿ることを立證するを得べし。

學業成績と體格

年 學	年 齡	男		女	
		身長	體重	身長	體重
8	(二尋)	3.64	5.083	3.60	4.775
7	(一尋)	3.70	5.190	3.61	4.864
		均平校學	均平校學	均平校學	均平校學
		兒等優	兒等優	兒等優	兒等優
		同 劣	同 劣	同 劣	同 劣
		差	差	差	差
		0.06	0.276	0.19	0.405
		1.87	1.85	1.80	1.80
		1.89	1.85	1.80	1.80
		1.85	0.04	1.76	0.04
		1.87	3.42	1.76	0.04
		1.89	0.19	1.80	0.04
		1.85	4.775	1.80	0.04
		0.04	4.864	1.80	0.04
		3.60	4.459	1.80	0.04
		3.61	0.405	1.80	0.04
		3.42	1.80	1.80	0.04
		0.19	1.80	1.80	0.04
		4.775	1.80	1.80	0.04
		4.864	1.80	1.80	0.04
		4.459	1.80	1.80	0.04
		0.405	1.80	1.80	0.04
		1.80	1.80	1.80	0.04
		1.80	1.80	1.80	0.04
		1.76	1.80	1.80	0.04
		0.04	1.80	1.80	0.04

14	13	12	11	10	9
(二高)	(一高)	(六尋)	(五尋)	(四尋)	(三尋)
4.57	4.38	4.20	4.06	3.96	3.78
4.62	4.26	4.25	4.14	3.99	3.88
4.48	4.41	4.19	4.03	3.87	3.67
0.14	-0.15	0.06	0.11	0.12	0.21
9.110	7.821	7.053	6.582	6.139	5.672
9.183	7.406	7.115	6.730	6.027	6.199
8.259	7.421	6.889	6.440	5.977	5.656
0.824	-0.015	0.226	0.290	0.050	0.543
2.26	2.17	2.08	2.07	2.02	1.93
2.23	2.11	2.07	2.08	1.97	1.93
2.18	2.14	2.07	2.11	1.96	1.88
0.05	-0.03	0	-0.03	0.01	0.05
-	-	4.16	4.02	3.91	3.73
-	-	4.21	4.19	4.01	3.81
-	-	4.12	3.98	3.83	3.64
-	-	0.09	0.21	0.18	0.17
-	-	6.933	6.320	5.936	5.299
-	-	6.886	6.870	6.158	5.453
-	-	6.938	6.210	5.926	5.217
-	-	-0.052	0.667	0.232	0.236
-	-	2.06	2.01	1.92	1.87
-	-	2.04	2.03	1.94	1.86
-	-	2.06	2.00	1.92	1.87
-	-	-0.02	0.03	0.02	-0.01

第二 父兄側

今より四五年前體操器械創設の當初に於ては、父兄側に多少の異論者ありしと雖も、學校の體育方針を了解せられたる現今に於ては、さる聲更になきのみか、寧ろ學校に感謝する者多きに至れり。左に數例を擧げて一斑を視ふ一助たらしめん。

一、加藤榮作氏は、公衆の面前に於て發表して曰く、「余が長男正己は、幼時より因循柔弱の性に於て、物事をはきくする風を缺き、身體も虛弱にして、食慾不振、従つて學業成績もよろしからず、將來家の繼承者として頗る前途を悲觀しむたり。然るに、近來食事も甚だ進み、言語明瞭と

なり、返事の状態など全く別人の如く、又學科のことを問ふも明瞭に答ふる様になり、親として喜びこの上もなし。これが原因を考ふるに、學校に於ける嚴格なる體操厲行の賜なるべきを確信す。この點深く感謝する所なり。尙余の知れる範圍にて、これと類似せる者數名を認めたり。因て、余は、學校に於て體操厲行の爲には、兒童の負傷等のことは心配なく實行せられんことを希望す。若しそれが爲に多少の負傷等ありとも、決して苦情など言ふべきにあらず、自分以外に若し不都合なる父兄ある時は、余は喜んで説明の勞をとるべし」と。

二、又或る父兄は、「この一二年、冬季兒童の足袋の餘り切れざるは、運動を奨励せる赤堀校兒童として不思議の感あり。學校の見所如何」との如き質問をなし來たり。これ畢竟するに、當校に於ては、體操は凡て跳足にてなさしめたるが習慣となり、冬の寒き時も、夏季の炎暑にも、足袋又は下足袋を用ひずして平然たるに至れるが爲ならん。斯くて父兄は大いに學校の體育方針に満足せり。

三、齋藤國太郎氏は、前村長にして父兄の一人たる立場より、學校體操器械設備經費の件に就きて發表したる意見に曰く、「本村體操器械の經費合計金五百圓は、決して少額といふべからず。然れども、これを熟考する時は、極めて廉價のものなり。この費用を、當校兒童約九百名に割り當つる時は、一人僅に金五拾五錢五厘に當るのみ。兒童一人の小使錢も、月々五錢位にては足らざる

べし。即ち兒童一箇年の小使費にして事足るなり。然も、一度据付くる時は、少くとも十數年は保存使用し得らるることを考ふれば、甚だ安價なるに驚くべし。然かも、兒童の身體發育上に非常の價値あると同時に、精神教育上の根柢をも作り得らるるとせば、誰れか體操器械の据付けに向つて經費支出を躊躇するものあらんや。」と。

四、運動會日の狀況

當村にては、數年前より所謂運動會日と稱する村休業日を毎年十月廿日と定めたり。當日は、父兄母姉は勿論、下男下女奉公人に至るまで、業を休み、御馳走を調べ、學校に來りて一日を楽しく過ごすこととせり。然も村中運動會日の來たるを待ち居る有様にて、當日は、見物立錐の餘地なく、何れも兒童の身體及び精神の發達向上の跡を見て楽しみつゝあり。

第三 職員側

- 一、職員身體壯健となり、日に焼けたる恰も軍人の顔を見るが如く、一見頑強の相を呈し、事實病氣缺勤など、殆んど無しといふも不可なし。
- 二、筋骨の活力は引いて精神上の元氣を生み、體操科の實習、學理の研究、授業の研究は勿論、その他諸學科の調査研究、統計圖表類の作製等、授業以外の事務を喜んで引受け、愉快に處理しゆく等、學校職員の活氣横溢せるの感あり。

- 三、因循柔弱の氣は何處へか失せて、精神快活となり、談笑常に職員室に溢る。中途より轉任し來たれる者も速に類化せらるゝを見る。
- 四、當校職員的一致和合は、主としてこれ體操科激勵が主因たるものなり。

第十四節 新田郡笠懸西小學校調査

第一 兒童側

一、體格上の累年比較

(一) 強中弱の累年比較

年次	種目		強		中		弱		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
大正三年	四〇	二六	一五、一〇	一七六	一七五	八〇、三二	八	一一	四、五八
同 四年	六〇	四一	二二、八〇	一六六	一六四	七四、四九	二	一〇	二、七一
同 五年	七一	五九	二九、三一	一四五	一六四	六九、一三	三	五	一、七九
同 六年	六九	五七	二六、六九	一六二	一七五	七一、四〇	五	五	二、一二
同 七年	七六	五六	二七、四四	一六二	一八〇	七一、一〇	二	四	一、二五

強健増し薄弱減じたるは體操の效果なり

(二) 身長、體重、胸圍の累年比較表

二、姿勢上の累年比較

Table of posture comparison showing measurements for chest circumference, weight, and height for males and females aged 3-7, categorized by year from 1914 to 1915.

(中)脊柱不正者調

Table of scoliosis cases showing annual counts and percentages for ages 1-7 from 1914 to 1915, with a total of 103 cases.

本表により脊柱不正者逐年減少せるを見る又一般に頭の位置正しくなれり。

三、體質上の累年比較

(一)最近五ヶ年間に於ける各月割の疾病休業児童數割合表

Table of sick school children showing monthly counts and ratios for ages 1-7 from January to December, with annual averages for 1915 and 1916.

四、體力上の累年比較

(一)一般に強度の體操を課するも、疲労を感じる度を減ずるに到れり。(二)又疲労したる場合にも、回復時速かになりし様思はる。(三)修學旅行等の場合に、健康状態一般に進める事實を特に發見すべし。

(四)脚力腕力の増加したるは、跳箱による諸運動、肋木・水平棒の懸垂等の場合著しく好成績をあらはし來たることによりて證明せらる。

(五)記録競走の統計は追々進歩の跡を認めらる。

(六)擔當教師の經驗に依れば、一般に手足の太さ筋肉の堅さ等を増し來たりしこと事實なり。

#### 五、訓練上の累年比較

(一)會禮集合の際に於ける集合時間短縮す。

(二)教室の出入時間を短縮す。

(三)制止禁止等困難なりしが、近來規律服従の徳發達せるために、甚だ容易となれり。

(四)形を正しくし、敬禮の心を以て敬禮する様になりたり。

(五)教室に於ける學用品の出し入れ機敏となれり。

(六)一般に快活無邪氣となれり。

#### 六、學科成績の累年比較

兒童の學科成績の累年比較は、必ずしも信憑し難し。これ教授の状態及び考査に關する諸事情等、必ずしも前回と同様といふ事困難なればなり。されど、毎年同一問題を同期に課し比較するに、數年前に比し、稍良好なる結果を認めたり。又學事會(組合)區域の各學校學力比較試験に於て、本校

の成績頗る優良なりし事實もあり。

#### 第二 父兄側

一、父兄一般に學校の體育方針を了解し、兒童の身體強壯となり、病氣に罹ること少くなりたりとて感謝する者多し。

二、家事の手傳に勞力を惜しむことなし、且つ動作敏捷となりたりとて、喜ぶ父兄少からず。

三、學校體操厲行以來、兒童健康狀態の良好は、食慾の増大となり、従つて食物の好惡を云々することなきに至れり。

四、父兄一般が體操科の如何なるものなるかを理解し、これに對する識見著しく向上したるもの如し。

五、教師の勞力に感謝同情するに至れり。

六、父兄一般が學校と親密になり、授業參觀をなす者漸次多くなりたり。

### 第十五節 邑樂郡六郷小學校調査

#### 第一 兒童側

#### 一、體質上の累年比較



(一) 病氣兒童數

年度	病氣兒童數	一箇年平均百分比
大正三年度	二四九	五、八四
大正四年度	二六〇	五、四八
大正五年度	一九一	四、一九
大正六年度	一一〇	二、二九

(二) 出席歩合

年度	出席歩合(尋常科)	備考
大正二年度	九一、六二	特別教授施行
大正三年度	九四、一九	同
大正四年度	九四、五一	特別教授を廢す
大正五年度	九五、三八	同
大正六年度	九五、〇六	同

二、精神上に及ぼせし影響

(一) 學科成績の累年比較

大正四年以來の成績を査察するに、凡て向上せるを認む。特に圖書書等の形に見ゆる學科に於ては、累年の成績物に就いて比較考察するに、確に格段の進歩をなせり。又讀方に於ても、讀解

力を増加したる證據あり。

第二 青年團に及ぼしたる影響

大正六年八月下旬、時恰も舊盂蘭盆に際し、近郷近在皆盆踊稽古の最中なりき。この時に於て、六郷村青年會役員會に於ては、「舊曆七月中に、他町村に行かざる範圍に於て盆踊をなすこと任意なり。」と議決し、一方に於て、毎夜の如く學校に集り、體操を練習せり。最初は結果如何と心配したりしも、漸次興味を生じ、遂に當村青年は、太鼓をたゞ盆踊をなす如き事一回もなく、よく學校に集合して體操練習に餘念なく、小使錢を徒費せず、自然風儀良好となり、延いては青年團の内容をも進歩せしむるに至りたり。

第十六節 邑樂郡中野小學校調査

第一 兒童側

一、體質上の累年比較

兒童の病氣につきては、正確なる調査材料を有せず、隨て數字を以て示し難けれども、近來病氣缺席者の著しく減少したる感あり。尙從來は、僅か拾數分の直立によりて、數名の眩暈者を出すこと珍しからざりしが、近來殆ど皆無と稱するを得べし。本年(大正七年)五月廿七日の海軍記念日には、

校庭に於て、その記念式を擧げ、午前十時より約四十分間に亘る講話をなしたれども、一人の眩暈者を出さざりき。

事項	年度	出席歩合	皆勤歩合
大正四年度	出席歩合	九三、二二	二一、〇四
	皆勤歩合	九四、二七	二二、二三
	大正六年度	九五、六五	二八、五三

二、體力上の累年比較

高等科兒童の鐵棒(男)水平棒(女)につき調査したるもの左の如し。(百分比)

年度	事項	足懸上り	臂掛上り	大振り上り
大正五年	男子鐵棒運動	八六、四九	一三、五一	なし
同六年	男子鐵棒運動	四、二六	七二、一九	一四、八九
現在	男子鐵棒運動	一〇、八七	五〇、〇〇	三九、一三

(二)女兒の水平棒に於ける兩側懸垂屈臂運動

年度	一回の者	二回の者	三回の者	四回の者
大正五年	一八、七五	三七、五〇	二五、〇〇	一八、七五
大正六年	四、一七	八、三三	二〇、八三	六六、六七

從來春秋兩季の遠足或は秋季に於ける陸軍演習參觀の際など、随分多數の落伍者を出して困難一方

ならずしが、近年斯の如き落伍者を見ざるに至れり。尙高級兒童にありては、教師も及ばざる程の健脚者多數を生ぜり。大正六年秋陸軍演習參觀の際の如き、高等科女生四十名程を引率して、平林原野を彼方此方と駆け廻り、女兒にとりては、少しく無理ならんと思はるゝ程つれ廻はりしが、兒童は平然として更に疲勞の様子をなさざりき。これ一に平素體操科に於て鍛鍊せし結果に外ならず。尙ほ尋常三四學年に於ける遠足の際の落伍者の歩合を示せば左の如し。

年度	歩合
大正三年	二〇、三五
大正四年	一〇、一〇
大正五年	一、五〇
大正六年	〇、三三

第二 父兄側

本校が體操教授に特に力を注ぎ始めしは大正四年の頃にして、當時、村内にて相當の地位名望を有せる知識階級を始め、これに就きて兎角批評を試み暗にこれを非難せる者少からざりき。(されど直接學校に向てこれが不賛成を唱ふる程度にてもあらざりき)この創業の當時に於て、教職員協力一致、周到なる注意の下に漸進的に事業を進捗せしめ、一般の父兄の最も憂慮する兒童傷害の如き、一度だも出來せず、却て兒童の健康狀態著しく向上し、或は家庭に於ける家事手傳の場合に當りて極めて眞面目なる傾向となれる等により、今更の如く感じ、大いに體操の効果を了解するに至れり。又中産以上の家庭の兒童の如きは、家庭に在りて何等勞働することなく、從て身體虛弱なりしが、

學校に於て體育獎勵の結果、頗る健康を増大し、爲に父兄等の學校に對する感想一變し、大に同情を寄するに至れり。

第十七節 體操講習會に於ける體重調査

本表は大正五年五月(自十一日至十四日)北甘樂郡第三區學事會體操講習會中の調査に係るものなり。

一、小坂校

第一日	第四日	増	減	氏名
一三、三二〇	一三、五三〇	〇、二一〇		津久井平次郎
一三、五五〇	一三、六〇〇	〇、〇五〇		大井田たき
一四、九〇〇	一五、二三〇	〇、三三〇		青木安太郎
一三、〇〇〇	一三、三五〇	〇、三五〇		北澤政太郎
一三、七八〇	一三、九六〇	〇、一七〇		松本ハ太郎
一〇、八二〇	一〇、八四〇	〇、〇二〇		松本道太郎
一三、七五〇	一三、九五〇	〇、二〇〇		新井照太郎
一四、三五〇	一四、四四〇	〇、〇九〇		伊澤義太郎
一五、五五〇	一五、九八〇	〇、四三〇		金田辰太郎
一三、五八〇	一三、七九〇	〇、二一〇		安藤辰太郎
一三六、五九〇	一三八、六六〇	二、〇七〇		合計

二、青倉校

第一日	第四日	増	減	氏名
一三、六五九	一三、八六六	〇、二〇七		平里見名
一六、四〇〇	一六、六〇〇	〇、二〇〇		清水頼三昇
一一、八〇〇	一二、〇〇〇	〇、二〇〇		平井平八
一五、八〇〇	一五、九〇〇	〇、一〇〇		有賀平
一一、五〇〇	一二、五五〇	〇、〇五〇		上原豊治
一一、二〇〇	一二、三六〇	〇、一六〇		土屋長
一一、八四〇	一二、九〇〇	〇、〇六〇		合治
八一、五四〇	八二、三一〇	〇、七七〇		平治
一三、五九〇	一三、七七八	〇、一二八		合計

三、磐戸校

第一日	第四日	増	減	氏名
一四、四二〇	一四、五五〇	〇、一三〇		茂木松次郎
一三、六七〇	一三、九〇〇	〇、二三〇		大岡正吉
一四、四五〇	一四、五五〇	〇、一〇〇		吉岡正平
一六、一〇〇	一六、一九〇	〇、〇九〇		藤卷二郎
一七、七〇〇	一七、八六五	〇、一六五		小坂橋政平
一四、八〇〇				櫻井

後篇 體操科教授の結果 第二章 本論

(六週間現役身體検査の爲欠席)

四、月形校

第一日	一八、六〇〇	一八、八〇〇	〇、二〇〇
第四日	一五、〇〇〇	一五、二一〇	〇、二一〇
	一二、八〇〇	一二、七〇〇	〇、一〇〇
	一〇、七五〇	一一、〇〇〇	〇、二五〇
	一三、四八〇	一三、五七〇	〇、〇九〇
	一二、一九〇	一二、二二〇	〇、〇三〇
	一五九、一六〇	一六〇、五五五	一、四九五
	一四、四六九	一四、五九六	〇、一二七

平	合	市	青	巖	市	鷺	大
均	計	川	木	熊	川	坂	塚
		み	林	三	鶴	清	儀
		を	三	三	五		
			郎	郎	郎	信	平

第一日

第四日

増

減

第一日	一九、七二〇	一九、九〇〇	〇、一八〇
第四日	一六、五三〇	一六、七五〇	〇、二二〇
	一三、三〇〇	一三、三九〇	〇、〇九〇
	一五、三六〇	一五、五六〇	〇、二〇〇
	一六、二〇〇	一六、四八〇	〇、二八〇
	一五、二〇〇	一五、五五〇	〇、三五〇
	一三、二五〇	一三、四五〇	〇、二〇〇
	一二、六五〇	一三、〇五〇	〇、四〇〇
	一一二、二一〇	一二四、一三〇	一、九二〇

合	黒	小	高	笠	畑	工	佐	小
計	澤	澤	山	原	茂	藤	俣	須
	保	勝	平	金	十	金	嘉	田
		次	次	重	郎	藏	七	健
			郎	郎	郎	郎	郎	次

五、西牧校

第一日

増

減

第一日	一五、二七六	一五、五一六	〇、二四〇
第四日	一五、六二〇	一五、八四〇	〇、二二〇
	一三、二〇〇	一三、五五〇	〇、三五〇
	一二、六〇〇	一二、〇〇〇	〇、四〇〇
	一五、八一〇	一五、八三〇	〇、〇二〇
	一三、七三〇	一三、八〇〇	〇、〇七〇
	一三、四三〇	一三、五二〇	〇、〇九〇
	一四、二五〇	一四、七〇〇	〇、四五〇
	一四、五〇〇	一四、六四〇	〇、一四〇
	一二、三五〇	一二、六八〇	〇、三三〇
	一二、八一〇	一二、一〇〇	〇、二九〇
	一二、一〇〇	一二、四七〇	〇、三七〇
	一五〇、四〇〇	一五三、一三〇	二、七三〇
	一三、六七三	一三、九二一	〇、二四八

平	合	高	松	内	茂	須	小	山	茂	長	高	高	平
均	計	橋	木	川	木	藤	林	丸	木	岡	崎	井	氏
		し	は	む	保	七	二	龜	常	銚	重	新	氏
		ゆ	ら	め	太	二	五	五	郎	壽	吉	助	名
			郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	助	名

六、尾澤校

第一日

第四日

増

減

第一日	一六、五一〇	一六、二〇〇	〇、〇五〇
-----	--------	--------	-------

飯	探	悦	太	耶
氏	氏	名	名	

群馬縣に於ける基本體育の經過

一四、三五〇	一四、七五〇	〇、四〇〇	佐 俣 儀 三 郎
一四、七〇〇	一四、九五〇	〇、二五〇	佐 藤 國 造
一三、〇〇〇	一三、二〇〇	〇、二〇〇	石 田 美 濃
一六、一五〇	一六、三五〇	〇、二〇〇	松 井 亮 吉
七四、三五〇	七五、四五〇	一、一〇〇	合 計 也
一四、八七〇	一五、〇九〇	〇、二二〇	平 均

七、下仁田校

第一日	第四日	増	減	氏 名
一一、四五〇	一二、五〇〇	〇、〇五〇	北 澤 靖 三 郎	
一三、六二〇	一三、九二〇	〇、三〇〇	關 根 今 朝 太 郎	
一三、五〇〇	一三、六〇〇	〇、一〇〇	有 賀 良 一 郎	
一五、一〇〇	一五、二五〇	〇、一五〇	山 田 一 郎	
一三、四七〇	一三、五五〇	〇、〇八〇	八 木 彦 重 郎	
一四、七三〇	一四、八四〇	〇、一一〇	中 島 一 雄	
一六、五〇〇	一六、五二〇	〇、〇二〇	須 田 一 郎	
一一、九〇〇	一二、九二〇	〇、〇二〇	神 谷 一 郎	
一〇、七五〇	一〇、七七〇	〇、〇二〇	堀 口 一 郎	
一一、〇七〇	一一、二三〇	〇、一六〇	上 原 竹 三 郎	
一五、七三〇	一五、八〇〇	〇、〇七〇	廣 澤 藤 五 郎	

一九、八〇〇	二〇、〇〇〇	〇、二〇〇	關 口 義 慶 二
一七〇、六二〇	一七一、九〇〇	一、二八〇	合 計
一四、二二八	一四、三二五	〇、一〇七	平 均
八九四、八七〇	九〇六、一三五	一一、三六五	通計六三人分
一四、二〇四	一四、三八三	〇、一七八	一人平均

備考

一、四日間の體操講習(六十三人)に於て差引十一貫二百六十五匁の増加をなす。蓋し活  
力に於て補缺一人を生み出せしことに當る。  
二、四日間の體操講習に於て一人平均百七十八匁の増加に當る。

第十八節 中等學校生徒體格累年比較 (毎年四月検査)

年 度	身 長		胸 圍		體 重	
	14	13	14	13	14	13
大正六年	...	...	...	...	...	...
大正五年	...	...	...	...	...	...
大正四年	...	...	...	...	...	...

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
5.23	5.19	5.27	5.33	5.30	5.34	5.26	5.26	5.26	5.10	...
5.12	5.35	5.27	5.29	5.43	5.30	5.39	5.33	5.22	5.19	...
5.21	5.21	5.33	5.33	5.30	5.34	5.28	5.30	5.17	5.16	...
13.870	15.500	15.066	14.541	14.849	14.689	14.446	14.194	13.769	11.631	...
14.425	15.600	14.922	14.708	15.088	14.638	14.957	14.617	13.419	12.521	...
14.510	14.347	14.857	15.035	14.604	14.455	14.144	14.076	13.416	12.784	...
2.73	2.95	2.81	2.78	2.81	2.77	2.76	2.75	2.69	2.52	...
2.89	2.80	2.85	2.80	2.88	2.83	2.82	2.78	2.67	2.59	...
2.81	2.82	2.84	2.82	2.81	2.79	2.76	2.73	2.71	2.62	...
0.265	0.299	0.286	0.273	0.280	0.275	0.275	0.270	0.262	0.228	...
0.282	0.292	0.284	0.278	0.274	0.276	0.277	0.274	0.258	0.241	...
0.279	0.275	0.279	0.282	0.276	0.269	0.208	0.266	0.259	0.248	...

### 第三章 結論

#### 群馬縣小學校教員諸君に告ぐ

余は本稿を畢るに當り、筆路一轉余の敬愛せる群馬縣小學校教員諸君に對し、聊か微衷を披瀝する所あらんとす。蓋し、已むに已まれぬ情切なるものあればなり。

余は、大正二年當時、體育上如何に積弱の空氣が我が群馬縣に深いつゝありしかを回想する毎に、未だ曾て憮然たらずんばあらず。而して、この空氣中より脱して、今日の隆昌を見るに到らしめたる諸君の盡力を思ふ毎に、余は又各位の一貫したる猛志と、勞苦とに對して、感謝の辭を知らざるものなり。これと同時に、尙前途の遠遠に鑑み、轉た責任の重大なるを感ぜずんばあらず。余輩は、將來の規箴として左の二箇條を銘記せざるべからず。

第一條 徐々に、併しながら不休に急がん。

第二條 得んよりも失はざらんことを先とせん。

聞くならく、縣下小學校教員中吾が縣の基本體育發展の事實に見て、大いに天狗になり居る少數者もありとか。余思へらく、天狗必ずしも不可ならず。されど、その爲に向上精進心の銷磨する等のことあらば、これ實に恐るべき病患なり。俱に共に警しめ且つ慎しまざるべからず。

惟ふに過去に體育創業の苦を嘗め、現在に經營慘澹の勞に服し、將來に一層の向上を望みつゝある各位に於ては、今日胸中無限の慰安を覺えざらんとするも能はざるべく、從て吾人亦頗る同情に堪へざる次第なれども、満足は動もすれば、退歩の轉機となり易し。これ余輩が一層諸君の自重自愛を切望期待する所以なり。而して將來今日の結果を繼續すべき青年教育家各位は、先輩の努力に顧み、而かもその餘澤に慣れず、宜しく群馬縣體育是の示す所に從ひて、自ら經營し自ら勞作して、一段の工夫、一段の向上を期せざるべからず。由來體育は實行を尙ぶ。實行を伴はざる百千の論辯は三文錢の價值なし。諸君請ふ進んで鐵腕の人となれよ。斷じて空言の徒となること勿れ。これ余の衷心より諸君に希望する所以の老婆親切なり。

(群馬縣に於ける基本體育の經過終り)

大正七年十二月廿七日 印刷  
大正七年十二月三十一日 發行

著者

矢島 鐘 二

發行者

株式會社 培風館  
東京市小石川區宮下町六三

代表者 川村 理 助

東京市神田區中猿樂町十七

印刷者

中外印刷株式會社

代表者 渡邊 市 太郎

定價 金貳圓五拾錢

發行所

株式會社 培風館

東京市小石川區宮下町六三

電話小石川二二〇六

振替東京三二六一七

IT 6038



終

